

## 資料編

- I アンケート・広告資料
- II 松屋関連資料
- III 加子母空き家関連資料

付録資料Ⅰ アンケート・広告資料

- ①木匠塾アンケート用紙
- ②お披露目会アンケート用紙
- ③木匠塾アンケート集計
- ④お披露目会アンケート集計 1
- ⑤お披露目会アンケート集計 2
- ⑥企画のチラシ
- ⑦木匠通信

## 加子母木匠塾アンケート用紙

名古屋工業大学大学院 社会学専攻  
藤岡伸子研究室 修士2年  
藤田 恭輔

この度、私は修士論文の一環で佐藤邸について調査を行っております。  
つきましては、ご多忙中大変恐縮ではありますが、以下のアンケートにご記入下さい  
ますようお願い致します。尚、ご回答頂いたアンケートは修士論文、むらづくりの  
ための資料作成以外で利用することはございません。  
何卒、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

■ 当てはまる項目に✓をお願いします

1. 性別  
男 女
2. あなたの出身地はどこですか？  
北海道 東北 関東 中部 近畿 中国 四国 九州沖縄 外国
3. 出身大学はどこですか？  
金沢工業大学 京都大学 京都工芸繊維大学 京都造形芸術大学 滋賀県立大学  
東洋大学 名城大学 立命館大学 その他（大学）
4. あなたの学籍・学年は何ですか。当てはまる項目に○を付けてください。  
学部生（1年2年3年4年） 大学院生（M1 M2） 08・06
5. あなたが木匠塾に参加した年はいつですか？  
H28 H27 H26 H25 H24 H23 H22以前

裏に続く

6. 加子母木匠塾に参加する(した)目的は何ですか？

7. 佐藤邸を提供して頂けるようになった経緯を知っていますか？

はい いいえ

8. 以前までの改修内容を知っていますか？

はい いいえ

9. 今後の佐藤邸はどのように使われると好ましいと思いますか？

10. 今後、実際に完成した佐藤邸を利用したいと感じますか？

はい いいえ

11. 木匠塾の活動以外で加子母に訪れたことはありますか？

はい いいえ

12. 加子母地内のイベントで参加してみたい分野はどれですか（複数回答可）。

- 伝統行事（お祭り、花火大会を含む） 野外体験・スポーツイベント  
芸術イベント 音楽イベント 農業体験 林業体験  
産業フェア（特産品の展示販売など） 地域のお祭り  
その他 ※簡単に記入してください。→（）

ご協力ありがとうございました。

## アンケートへのご協力をお願い

名古屋工業大学大学院、修士 2 年、藤岡研究室の藤田恭輔と申します。  
私は、研究室で加子母地区の「空き家」について研究しています。

研究を進めるにあたり、住宅資源活用のため加子母地区に関わりのある皆様を対象に、「住宅資源活用法」についての意識調査を行っています。

つきましては、お手数ですがアンケートにご協力頂けますと幸いです。  
アンケートの推定所要時間は 5 分程度です。ご回答後、受付までお持ちください。

尚、ご回答頂いた内容は卒業研究、地域づくりのための資料作成以外の目的で利用することは一切ございません。

## アンケート目的

松屋（加子母の家）は築 138 年の加子母の伝統ある古民家の 1 つで木匠塾による 6 年間の改修を経て、本日お披露目会を迎えました。現在、所有者のご厚意で、公共的な活用法を模索しており、今後は加子母の縁につながる様々な人々との交流の場として活用することを考えています。

このアンケートは松屋（加子母の家）をみんなで使う公共財として使うためにどういう使い方をしたいのか考えることを通して、加子母ならではの空き家活用法を模索するためのものです。



今回、展示やプレゼンテーションを見ていただいた際、付箋もご用意させていただきましたので、もしこの松屋をあなたに使っていただけるなら、どのように使ってみたいか、ご意見がありましたら記入していただき、所定の場所（皆さんの付箋を貼る大きな紙をご用意しています。）に貼っていただくと幸いです。

### 基礎情報 当てはまる選択肢の□に ✓ を入れてください。

性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性				
年齢	<input type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代	<input type="checkbox"/> 50代	<input type="checkbox"/> 60代	<input type="checkbox"/> 70代（以上）
居住地	<input type="checkbox"/> 小郷 <input type="checkbox"/> 上桑原	<input type="checkbox"/> 小和知 <input type="checkbox"/> 中桑原	<input type="checkbox"/> 二渡 <input type="checkbox"/> 下桑原	<input type="checkbox"/> 番田 <input type="checkbox"/> 万賀	<input type="checkbox"/> 中切 <input type="checkbox"/> 角領	<input type="checkbox"/> その他（ <small>都道府県</small> <small>市町村</small> ）
家族構成	<input type="checkbox"/> 一世帯世帯（夫婦、単身） <input type="checkbox"/> 三世帯世帯（親と子と孫）		<input type="checkbox"/> 二世帯世帯（親と子） <input type="checkbox"/> その他（ <small>都道府県</small> <small>市町村</small> ）			

もしご家族が加子母地区内で、ご自身と異なる場所にお住まいでしたら、以下の該当する項目を選んでください。

□祖父母	<input type="checkbox"/> 小郷 <input type="checkbox"/> 上桑原	<input type="checkbox"/> 小和知 <input type="checkbox"/> 中桑原	<input type="checkbox"/> 二渡 <input type="checkbox"/> 下桑原	<input type="checkbox"/> 番田 <input type="checkbox"/> 万賀	<input type="checkbox"/> 中切 <input type="checkbox"/> 角領
□親	<input type="checkbox"/> 小郷 <input type="checkbox"/> 上桑原	<input type="checkbox"/> 小和知 <input type="checkbox"/> 中桑原	<input type="checkbox"/> 二渡 <input type="checkbox"/> 下桑原	<input type="checkbox"/> 番田 <input type="checkbox"/> 万賀	<input type="checkbox"/> 中切 <input type="checkbox"/> 角領
□子ども	<input type="checkbox"/> 小郷 <input type="checkbox"/> 上桑原	<input type="checkbox"/> 小和知 <input type="checkbox"/> 中桑原	<input type="checkbox"/> 二渡 <input type="checkbox"/> 下桑原	<input type="checkbox"/> 番田 <input type="checkbox"/> 万賀	<input type="checkbox"/> 中切 <input type="checkbox"/> 角領

職種	[ ]					
職場	勤務している地区をご記入ください。 <input type="checkbox"/> 無職 <input type="checkbox"/> 小郷 <input type="checkbox"/> 小和知 <input type="checkbox"/> 二渡 <input type="checkbox"/> 番田 <input type="checkbox"/> 中切 <input type="checkbox"/> 上桑原 <input type="checkbox"/> 中桑原 <input type="checkbox"/> 下桑原 <input type="checkbox"/> 万賀 <input type="checkbox"/> 角領 <input type="checkbox"/> 中津川市内 <input type="checkbox"/> その他（ <small>都道府県</small> <small>市町村</small> ）					

### 以下、A. 加子母の家お披露目会についての質問です。

1. 当てはまる選択肢の□に ✓ を入れてください。

1-1 この建物を改修した「木匠塾」をご存知でしたか。  
はい いいえ

1-2 このような改修が行われていることをご存知でしたか。  
はい いいえ

1-3 このイベントを何で知りましたか。  
加子母総合事務所からの紹介で 友人の紹介で チラシをみて  
ネット(SNS等)を見て 有線放送で その他（都道府県 市町村）

1-4 このイベントの満足度を 5 段階評価でお答えください。  
満足 やや満足 どちらでもない やや不満 不満

理由をお聞かせください。 <input type="checkbox"/> 空き家活用事例のことが理解できてよかった <input type="checkbox"/> 参加者と話せて楽しかった <input type="checkbox"/> その他 [ ]	理由をお聞かせください。 (記述式) [ ]	理由をお聞かせください。 <input type="checkbox"/> 内容がよく分からなかった <input type="checkbox"/> 参加者と話しづらかった <input type="checkbox"/> その他 [ ]
--	------------------------------	---

1-5 またこのようなイベントがあれば、参加したいと思いますか。  
はい いいえ



## 以下、**B. 空き家活用**についての質問です。

2. 当てはまる選択肢の□に ✓ を入れてください。

2-1 以下の加子母の空き家活用法の中で、好ましいと思う項目を選んでください。(複数回答可)

1. 宿泊施設    2. 古民家体験施設    3. 多目的集会所    4. 移住者への賃貸住宅    5. ギャラリー  
6. 介護施設    7. シェアハウス    8. 住居兼店舗    9. 持ち主の住居    10. 子供の遊び場  
11. 仕事場  
12. その他 [ ]

2-2 お手数ですが、2-1の項目を選んだ理由をそれぞれの項目についてできるだけ具体的にお聞かせください。  
(項目の番号は2-1の活用法の番号とリンクしています。書ききれない場合は他の空白もご利用ください。)

項目	選んだ理由
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

2-3 2-1で選んだ用途になった場合、ご自身も利用したいと思いますか。

はい    いいえ

それはなぜですか。

住んでいるところから遠いと使い勝手が悪そう  
加子母外の人のための方が効果的で良い  
その他 [ ]

2-4 2-3で選んだ「はい」を選んだ場合、ご自身なら具体的にどのように使いたいですか。(記述式)

[ ]

## 以下、**C. 住宅資源所有者**への質問です。

3. 当てはまる選択肢の□に ✓ を入れてください。

3-1 現在、ご自身が所有している住宅はありますか。

はい    いいえ

この質問は以上です。

3-2 現在、ご自身が居住していない住宅を所有していますか。

はい    いいえ

3-4へ

3-3 3-2の住宅は、何か特定の目的で使用していますか。

はい    いいえ

主にどのように使用していますか。

移住者への賃貸住宅    親族が住んでいる  
週末に帰り、農作業等で余暇を楽しむ  
盆暮れに帰って過ごす  
その他 [ ]

使用していない理由は何ですか。

古くて使えない(改修が必要)  
他人に家を貸したくない  
使い道が特に思いつかない  
その他 [ ]

3-4 個人ではなく、多くの人の協力の中、改修された松屋(加子母の家)は、公共財としてお披露目するに至りました。このようにご自身の所有する住宅が将来的に使う必要がなくなったとき、行政等協力のもと、居住もしくは公共財として活用することに可能性を感じますか。

はい    いいえ

理由をお聞かせください。

機会があるなら何かに活用しようとは思っていた  
歴史が長いし、残したい  
その他 [ ]

理由をお聞かせください。

立地として不便    他人に使われるのは嫌  
たまにだが、使用しているため    面倒  
その他 [ ]

最後に \*後日内容を確認したい場合がございますので、差し支えなければご連絡先を教えてください。

お名前

( )

連絡先(電話番号・メールどちらでも可)

( )

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

国立大学法人 名古屋工業大学 藤岡伸子研究室

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 4号館 432

「空き家活用法」担当

大学院工学研究科 社会工学専攻

修士2年 藤田 恭輔

Tel : 090-1622-0902

Mail : fjtk74@gmail.com



加子母

# 木匠通信 5 月号



京大広報 金馬



5月号の担当は  
京大チームです!!



京大チームは今年も佐藤様邸を担当します。  
加子母に帰ってきた時にみんなが集えるようなおうちにしていきたいと思えます。

いきいき  
本年度の加子母木匠塾のテーマは、**域生**です!

加子母地域は、総務省が行う地域と大学が連携し地方から日本の活力を産み出そうという25年度の「域学連携モデル事業」に採用され、木匠塾がその活動の一部として認めていただきました。そこで、木匠塾を今まで以上に活動的にし、僕らの力で毎年大変お世話になっている加子母を盛り上げていくお手伝いができたらという想いから、本年度のテーマは域生(いきいき)としました。また今年もどうぞよろしくおねがいます!



木匠塾 2013 年度総幹事  
品川翔一朗

## 加子母木匠塾ってな〜に?

加子母木匠塾は平成7年から行われている木造建築実習に取り組み合宿です。林業と密接な加子母の地で地域の方や工務店さんの指導のもと、学生達で作品をつくり出す。私達のことを加子母の皆さんにもっと知ってもらおうという思いから本誌発行に至りました。

今年度は、京大チーム(京都大学、京都工芸繊維大学、金沢工業大学の3大学での合同チーム)、立命館大学チーム(チームA・Bでの2チームで参加)、東洋大学チーム、京都造形芸術大学チームの計6大学5チームで活動します。よろしくお願ひします。

## 11 月

幹事会にて、蜂の子体験をさせていただきました!  
貴重な山の幸をみんなでピンセットで集から取り出している様子です。



蜂の子体験



幹事会

## 4 月

4月の幹事会時に京大チームは2泊させていただきました、佐藤様邸の実測とふれあいの館裏にピザ窯を作りまりました。残念ながらピザ窯はまだ完成していませんが、6月には完成予定なのでみなさま楽しみにしておいて下さい!!



ピザ窯作り



けいちゃんパーティー



佐藤様邸実測

## 3 月

この幹事会では久しぶりに他大学と顔を合わせ、今後の予定について話し合いました。



## 5 月

制作物も決定し、いよいよ本工期にむけて動き始めました!!これから加子母を訪れる機会も増えるので、よろしくおねがいます。



□佐藤様邸改修

京大チーム

□小郷地区 子供山車倉庫

京都造形大学チーム

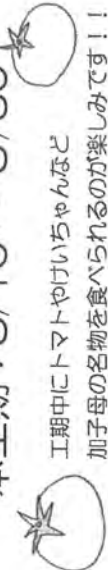
□公民館 間仕切り

立命館大学チームB

□第1体育広場 休憩施設(2棟)

立命館大学チームA、東洋大学チーム

本工期: 8/16 ~ 8/30



工期中にトマトやけいちゃんなど  
加子母の名物を食べられるのが楽しみです!!



今回の木匠通信6月号は

立命館大学

が担当します



加子母木匠塾 × 名古屋工業大学 合同企画

# 加子母の家「松屋」お披露目会



**11月27日**  
**10:00 OPEN**

学生の手によって改修された中津川市加子母の体験型住宅です！！

## 古民家を通じた交流会

加子母木匠塾によって、6年にわたって行われてきた、万賀の空き家『松屋』の改修が終わりました。それを記念したお披露目会を行います。ぜひこの機会に遊びにいらしてください。皆さんと囲炉裏を囲んで、いももちでも食べながらお話できると嬉しいです！ちらっと展示を見るだけでもいいので、気軽にいらしてください！！



囲炉裏をみんなで体感しよう！



お子様も連れて是非お越しください！



当日は出入り自由です！



改修の歴史の展示もあります！

## ● 交流会プログラム

- 10:00** ・ 受付開始  
展示を見ながらお待ちください！
- 10:30** ・ オープニング  
・ 松屋改修発表会  
松屋の改修のこれまでの歩みについて説明させていただきます。
- ・ 茶話会  
温かい飲み物やいももちなどをご用意しています。
- 13:30** ・ 解散  
14:00 から「加子母教育の日」が開催されますので、是非足をお運びください。



※駐車場はあります(6台)が、数に限りがありますので、近隣の方はお手数ですが、徒歩でお願いします。

## ● 開催場所 (松屋)

松屋住所 岐阜県中津川市加子母 5305



・ 何かご不明な点がございましたらこちらまでご連絡ください。  
主催：加子母むらづくり協議会  
問合せ先：加子母総合事務所 0573-79-2111 担当：伊藤

企画：加子母木匠塾 2016 松屋改修参加大学  
(京都大学 京都工芸繊維大学 金沢工業大学 滋賀県立大学)  
名古屋工業大学 藤岡伸子研究室



加子母

# 木匠通信 6月号

6月の担当は  
立命チームです

今年も2チーム参加します！.....  
毎年参加希望者が多くて行きたい人が行けなかった立命チームですが今年も2チーム行かせてもらうことになりました。合計74人が今年の夏加子母でお世話になります。人数が増えても全員がきちんと活動できるようにしていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

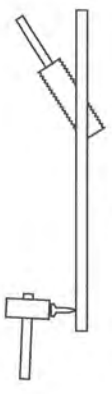
設計進めています！

立命チームは第1体育広場にベンチ兼休憩所を、総合事務所の図書館と事務室の間に間仕切りを作らせていただきました。現在図面を書いたり模型を作ったりして細かいところを設計している段階です。みんなに喜ばれるものを作れるように頑張ります！

## ①ベンチ兼休憩所

～第一体育広場にかっこいい休憩所を！～

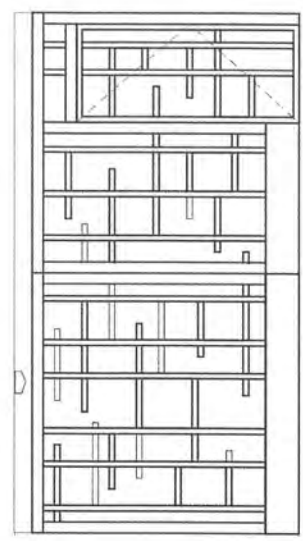
休憩所は加子母の山々の風景に対して開いたデザインを取り、使い方によって動かせるベンチを考えています。広い空間にもでき、みんなが話しやすい形にもできるように工夫しました。基礎に忠実なデザインにすることで木造の基本的な構造や施工を学ぶようにしつつ、構造体である火打ち梁に座れる空間を設けたり、ルーバーで背もたれの空間を確保しつつ通風やデザインのことも考えています。



## ②総合事務所の間仕切り

～事務所と児童館の間に楽しい間仕切りを！～

縦と横に交差する木をつけて間仕切りのデザインとしました。児童館と事務所をつなぐ本棚を設けたり、掲示物を貼る合板の部分を作ったり、視覚的にもおもしろく使いやすい間仕切りを考えています。事務所側から子どもたちの様子を見守ることができるようにも考えました。児童館を使う子どもたちにとってお気に入りの間仕切りになるよう、安全で楽しい間仕切りにしたいと思います。



## 第一回勉強会・実習を行いました！

木材を加工するときに知っておかなければならない木材の特徴や工具の扱い方について勉強し、実際にノミやノコを使って実習しました。工期前にもう1回実習してその時には簡単なベンチなどを制作する予定です。



京都造形芸術大学

今回の木匠通信6月号は

が担当します





加子母

# 木匠通信 7 月号



7月の担当は  
京都造形チームです。

京都造形広報 松本・河村

開校式まで残り約3週間と迫り  
本工期に向けた準備は大詰めです！

今年度、京都造形チームが担当させて頂く制作物は、「子供山車倉庫」です。  
制作物の規模がかなり大きく、計画敷地ほぼいっぴいの大きさになる予定です。  
また前年度と同じ小郷地区での制作となりました！  
加子母ならびに小郷地区の方々引き続きお願いいたします。

## 5月 計画敷地及び倉庫への 収納物の調査



今回の敷地



前年度制作物



5月の幹事会で実際に制作する敷地と収納物の  
山車を調査しました。

敷地は牧水無神社のそばで、向かいには前  
年度京造チームで制作した東屋があります。

木匠塾からのお知らせ

・本年度の日程 プレ工期 8月10日～15日 / 本工期 8月16日～30日

開校式:8月16日 地域交流イベント:8月18日 木匠塾シンポジウム:8月23日 開校式 8月30日  
地域交流イベントでは、トマト収穫体験、木工教室のお手伝い、小秀山登山、間伐体験、朴葉寿司づくり等をさせていただきます！

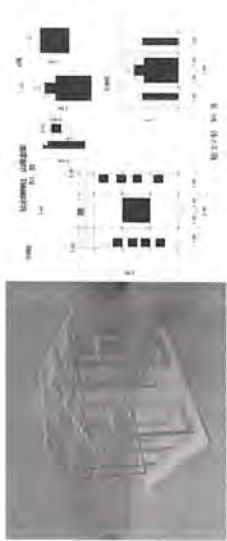
・木匠塾生の車

今年の木匠塾生が使う車には右のようなロゴを付けています。  
車の運転に慣れていない学生も多く、ご迷惑をおかけすること  
あるかと思いますがどうぞよろしくお願ひします。

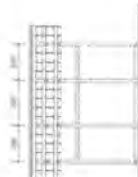
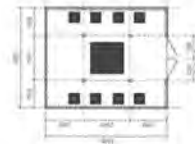


木匠塾ステッカー

## 6月 担当していただく 工務店さんとの打ち合わせ



## 現在 最終図面・模型の制作



5・6月の幹事会を踏まえて、最終的な  
図面と模型を制作しています。

制作物の大きさは幅5.7m、奥行8.5m、  
高さ5.7mと、木匠塾最大規模の制作物  
となる予定です！！



今回の木匠通信 8月号は

東洋大学

が担当します





京大チーム広報 浜口

今回の加子母木匠通信9月号は

京都造形芸術大学

が担当します



## 本工期が始まりました！今年もお世話になります。

8月16日に開校式が行われ、2014年度加子母木匠塾がとうとうスタートしました！今年度の加子母木匠塾は、7大学4チームの総勢180名が参加します。加子母のみならずご協力のもと制作に励みつつ、加子母で過ごせる時間を精一杯満喫しています。あと一週間、お騒がせしますが、どうか暖かく見守ってください。



開校式では中島工務店の中島のお様、加子母総合事務所の内木哲郎様をはじめとした実行委員の方々や担当工務店様たちからたくさんエールをいただきました。



今年の地域交流イベントでは、例年の間伐体験やほづ業券作り、木工体験やトマト狩りに加え、道の駅で行われていた蚤祭りにも参加し、会場の設置のお手伝いやもちあめなげにも参加しました。



歴代のOB・OGさんたちもたくさん遊びに来てくださり、作業についてたくさんアドバイスを頂いたり、思い出話に花を咲かせました。

## 京都大学チームについて

私たち京都大学チームは、京都大学39名・京都工業繊維大学12名・金沢工業大学11名の3大学合同のチームで、計62名が工期の前半と後半で入れ替わりつつ参加します。今年で佐藤様邸の改修は4年目となります。そこで佐藤様邸を3年以内に「宿泊施設として利用可能な状態にする」ことを目標に改修3ヶ年計画を立て、今年度は東側改築部の改修を行なっていきます。昔ながらのだいたいの再現を目指します。今年の3月から毎月の幹事会で佐藤様邸を訪れ、少しずつ整理・解体を進めてきました。本工期ではいよいよ、柱や梁、壁を新しく立ち上げていきます。



立面完成イメージ



解体後の現場



現在の現場

## 各チームの進行状況

### 東洋大チーム (東洋大+名城大)



加子母の人はネットワ  
ークが広く、地域全体で  
街おこしをしています。  
観光客や外からの人の受  
け入れ体制もしっかりし  
ているため、誰に対しても暖かく接してくれている  
印象です。晴れの日は星や川、雨の日でも山の霞な  
ど、いつでも景色がきれいで楽しめます。作業は壁  
組みのための既存への加工は終了し、次は床の軸組  
に入ります。

### 立命館大学チーム



本工期終了まであと一  
週間という佳境に入っ  
てきました。立命では前期  
組が帰り、後期組が合流  
します。前期組はプロに  
まかされながらも頑張ってくれました。そのおかげで  
作業は工程表通り無事進み、今は躯体の防漏剤塗り、  
ペンチのほぞ組りを進めています。いままではお世話  
になった熊澤建築さんでの作業は終わり、全員が協  
工さんでの作業となりました。より一層力を合わせ  
てみんな頑張っていきたいと思っています。

### 京大チーム (京大+京都工業繊維大+金沢工業大)



本工期も一週間が過ぎ、  
はやくも折り返しです。  
既存と新規の接続部分の  
加工に苦労しつつ、軸組  
をあげていきます！今の  
平らな土台からどん柱が立ち上がってくると思  
うとワクワクします。工場の職人さんの技に驚きつ  
つ、加子母の里山の風景に癒されつつ、のこり一週  
間、完成までぶっとばしていきます。

### 京都造形芸術大学チーム



木匠塾も残り1週間になり、  
皆加子母の環境や生活に  
なれてきました。加子母  
に来てとても早起きにな  
りました。作業前の早朝  
ラジオ体操は、とても気持ちいいです。ちよど作  
業に慣れるところで、ちよどとした怪我をする人  
が、ちらほら……もう一度気を引き締めて最後まで怪  
我もなくかんせいさせたいです。

## Facebook, ブログみてください！



加子母木匠塾2014では、Facebook・ブログで日々の活動を報告  
しています。木匠通信では載せきれなかった写真や詳しい進捗など  
盛りだくさんですのでぜひぜひチェックしてみてください！

Facebook 加子母木匠塾 : fb.me/kashimoku

2014年度加子母木匠塾ブログ

<http://kmoku.exblog.jp/>

加子母木匠塾の学生が乗る車にはこの  
のステッカーが貼ってあります。







東洋広報 金安・石倉

加子母

# 木匠通信 8月号

本工期が始まりました!!!

8月16日に開校式が行われ、本格的に木匠塾2013の始動です！  
プレ工期から参加していた大学にとっては、やっと開校式かといったところですが、  
今年には総務省の行う「域学連携モデル事業」に採用されたこともあり、開校式では  
関係者の皆様から、いつもより熱いお話を聞くことができました。



私たちの制作物!!!

東洋大学チームでは今年、第一体育広場の休憩所・ベンチを作ります。とても材の数が多く  
人手が足りないことも多いですが、なんとか加工が終わりそうです。現場の方も基礎を作り  
足場も設置したので、建て方間近といったところでしょうか。工期も残り半分ですが、完成  
を楽しみに毎日頑張っています。



東洋大から見た、木匠塾のみなさんの様子!!!

京都大学チーム

今年も佐藤様邸の改修をしています。改修ならではの問題（柱の芯が  
取れない、木が腐っていた etc...）に見舞われながらももしっかり対応して  
いく姿はすばらしいです。

京都造形芸術大学チーム

最大の規模を誇る山車小屋ですが、基礎や150角材など木匠塾では  
あまりお目にかかることは無い構法や木材を見るとその規模の大きさに  
驚かされます。京造のチャレンジ精神は本当にすごいです。

立命館大学 A チーム

東洋大と同じ敷地にも一つ休憩所を作っています。東洋大とは対比  
的にモダンなデザインの休憩所です。しかししっかり伝統構法を用い、  
材の加工もほとんど終わっているそうなので、さすがですね!!

立命館大学 B チーム

加工箇所がたくさんあり大変そうに思いますが、そこは立命館 B チーム  
も A チーム同様、加工はほとんど終わっているそうです。OAフロアや、  
組み方を間違えてしまったりといろいろハプニングは起きているそうで  
すが、きれいに組みあがるのを楽しみにしています。

東洋大学からお知らせ!!!

東洋大学では Twitter で東洋大学チームの日々を伝えています。



東洋大学かしも木匠塾 @toyo\_mokumoku

ぜひフォローしてください!!!







2013 総幹事 品川

## 2013 年度の制作物を紹介します！

本年度の木匠塾は、6 大学から約 180 人の木匠塾生が加子母に集い、5 チームに分かれて制作を行いました。様々なトラブルに見舞われながらも、無事、全チーム竣工を迎えることができました。本年度の成果をご紹介します！！

### 京大チーム（京大・京工織大・金工大） ～佐藤様邸改修 渡り廊下&土壁～

京大チームは、2011 年度から取り組んでいる佐藤正様邸（岸邸）改修プロジェクトを担当しました。今年度は母屋・離れ間の渡り廊下の改修と、木匠初の土壁に挑みました！



現地調査で既存の渡り廊下の柱が腐って浮いていることを発見。閉ざされた中庭に、風通しと眺めがよくなく、腰かけて休めるような渡り廊下を！と改修に取り組みました。伝統工法を用いた設計、既存との取り合い、解体後に発覚した様々なトラブルと闘いながらも、気持ちのいい渡り廊下が完成しました！また、母屋北側の壁面の一部に土壁を入れられました。質を入れ、わら縄で竹木舞を編むところから取り組みました。土の乾燥の関係上、こちらの完成は来年となります。

### 立命館 A チーム

#### ～第一体育広場 休憩所兼ベンチ～

立命館大学は参加希望者が 70 人を超え、今年度は 2 チームでの参加となりました。A チームは第一体育広場に休憩所兼ベンチを制作しました！



第一体育広場は加子母の美しい山々と澄んだ空に囲まれた、とても眺めの美しい敷地でした。この風景を眺めながらゆったり休める休憩所にしたいと考え、風景に對して開いた形であるデザインとしました。さらに使い方に応じて動かせるベンチを設け、時と場によって柔軟な使い方ができるよう設計しました。

### 京造チーム

#### ～牧水無神社 子供山車倉庫～



京造大は小郷の牧水無神社の敷地内に子供山車を収納する倉庫を制作しました！

5 寸角のヒノキを用い、山車を解体せずに収納する大きさを確保するために梁間、桁行、高さが約 6m にもなる巨大な制作物となりました。この大きさのため、なかなか設計が決まらなかったり、瓦葺の屋根の納まりや巨大な基礎、山車を収納するための高さ 4m にもなる観音開きの扉や、大量かつ大きな部材の加工に時間がかかったりと、大変な問題がたくさんありましたが、工事店さんや職人さん、小郷の皆様など多くの方々に協力していただき、工期中にほぼ完成させることができました！牧水無神社の森の前に建つ黒塗りの倉庫は圧巻です！！

### 東洋大チーム

#### ～第一体育広場 休憩所兼ベンチ～

東洋大も立命館 A チームと同じ第一体育広場に休憩所兼ベンチを制作しました！東洋大が 1 聖側、立命館 A チームが 3 聖側に制作しています。

構造に採り梁と類材を用いたデザインとしたため、例年より圧倒的に部材数が多くなり、毎年お借りしている東濃ひのきの家さんの大きな工場も今年は少し狭く感じてしまうほどでした。基礎の位置がずれてしまったり、大きなフレームに苦戦したりとトラブルはありましたが、工期を 1 日残して竣工することができました！第一体育広場を使う方々の憩いの場となればと思います。



### 立命館 B チーム

#### ～加子母公民館 児童館間仕切り～

立命館 B チームは加子母公民館の旧図書館に、児童館と事務室を仕切る自立式の間仕切り壁を制作しました！



子供たちが楽しめるような遊び心のある間仕切り壁を設計しました。両側から使用できる棚、子供を見守れる視線を通す窓、空気を通す格子、子供の作品やメモを貼ることのできるボードと、さまざまな要素のつまった間仕切り壁になっています。材の反り、床下の構造に悩まされましたが、無事完成させることができました！



今年も本当にお世話になりました。ありがとうございますございました。

また加子母に帰ってきますので、これからも木匠塾をよろしく願います！！



付録資料Ⅱ 松屋関連資料

- ①平面図（改修前・改修後）
- ②立面図（北・西）
- ③渡り廊下各図面
- ④東側下屋各図面
- ⑤詳細図面
- ⑥2011年度工程表
- ⑦屋根改修引き継ぎ資料
- ⑧作品パネル



図面名称	松屋 (佐藤様邸) 平面図 (改修前)	縮尺	1:100 (A3)	設計・施工	加子母木匠塾 京都大学チーム	作成者	藤田 恭輔	作成日	2017.1.10
------	---------------------	----	------------	-------	----------------	-----	-------	-----	-----------





図面名称

松屋 (佐藤様邸) 平面図 (改修後)

縮尺

1:100 (A3)

設計・施工

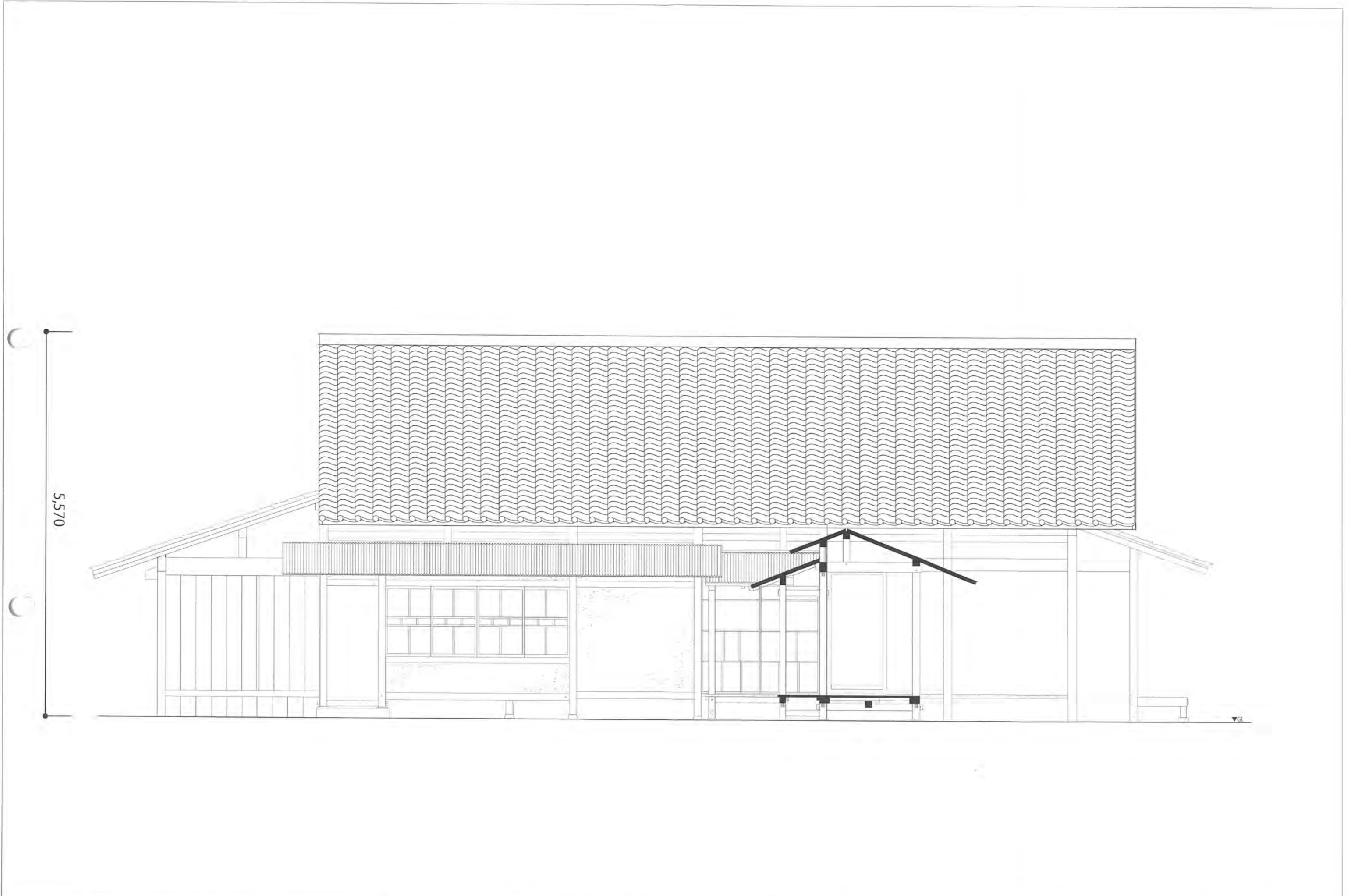
加子母木匠塾 京都大学チーム

作成者

藤田 恭輔

作成日

2017.1.10



図面名称	松屋 (佐藤様邸) 母屋北側立面図	縮尺	1:50 (A3)	設計・施工	加子母木匠塾 京都大学チーム	作成者	藤田 恭輔	作成日	2017.1.10
------	-------------------	----	-----------	-------	----------------	-----	-------	-----	-----------





図面名称	松屋 (佐藤様邸) 母屋西側立面図	縮尺	1:50 (A3)	設計・施工	加子母木匠塾 京都大学チーム	作成者	藤田 恭輔	作成日	2017.1.10
------	-------------------	----	-----------	-------	----------------	-----	-------	-----	-----------

## 2.断面図

2.1.1 軸組図 (一筋) 1:40

2.1.2 軸組図 (二筋) 1:40

2.1.3 軸組図 (三筋) 1:40

2.2.1 立面図 (壁まで) 1:40

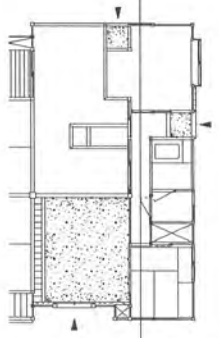
2.3.1 軸組図 (ろ~と筋) 1:40

2.3.2 軸組図 (い筋) 1:40

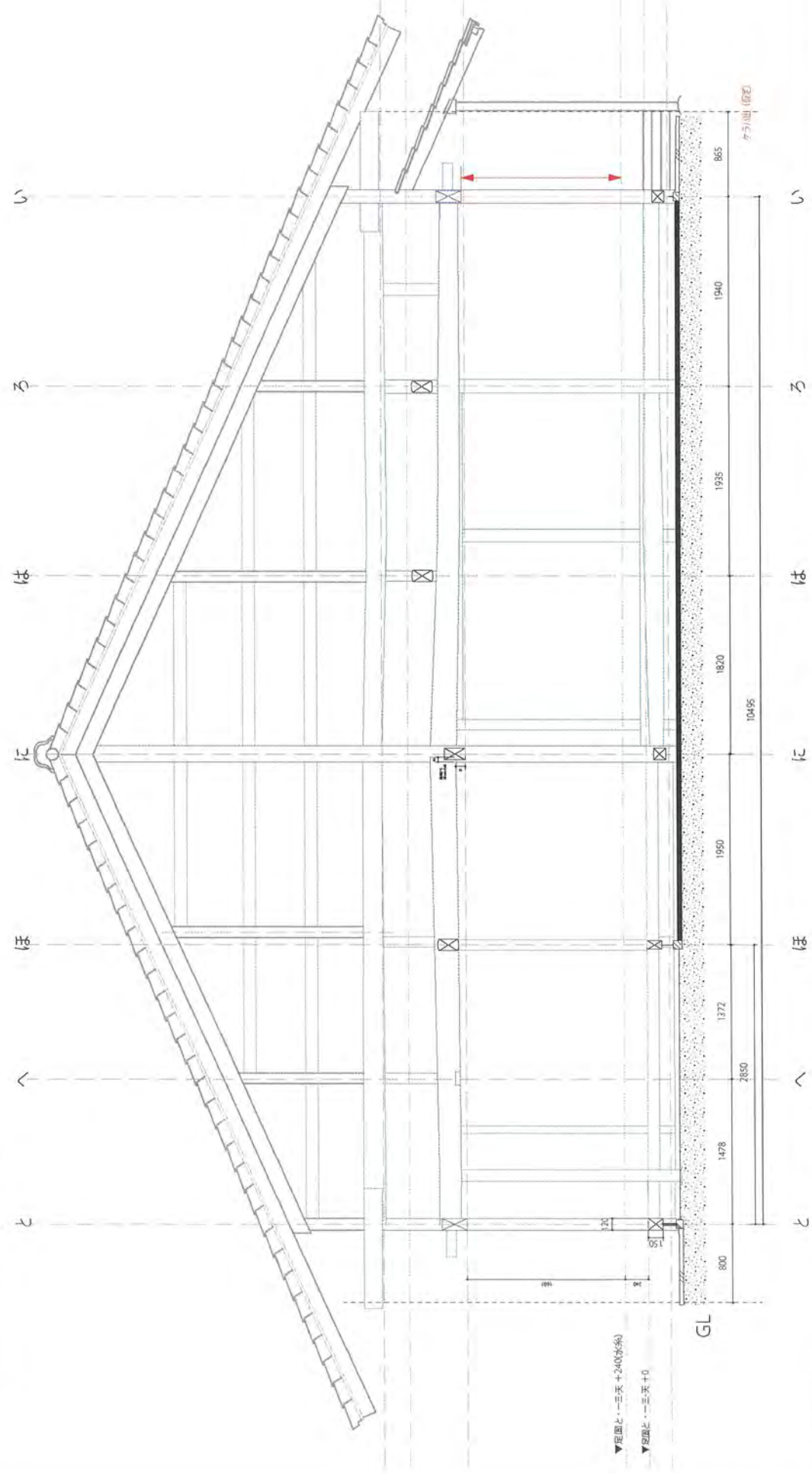
2.4.1 部分詳細図 (基礎) 1:10

2.4.2 部分詳細図 (仕口) 1:10

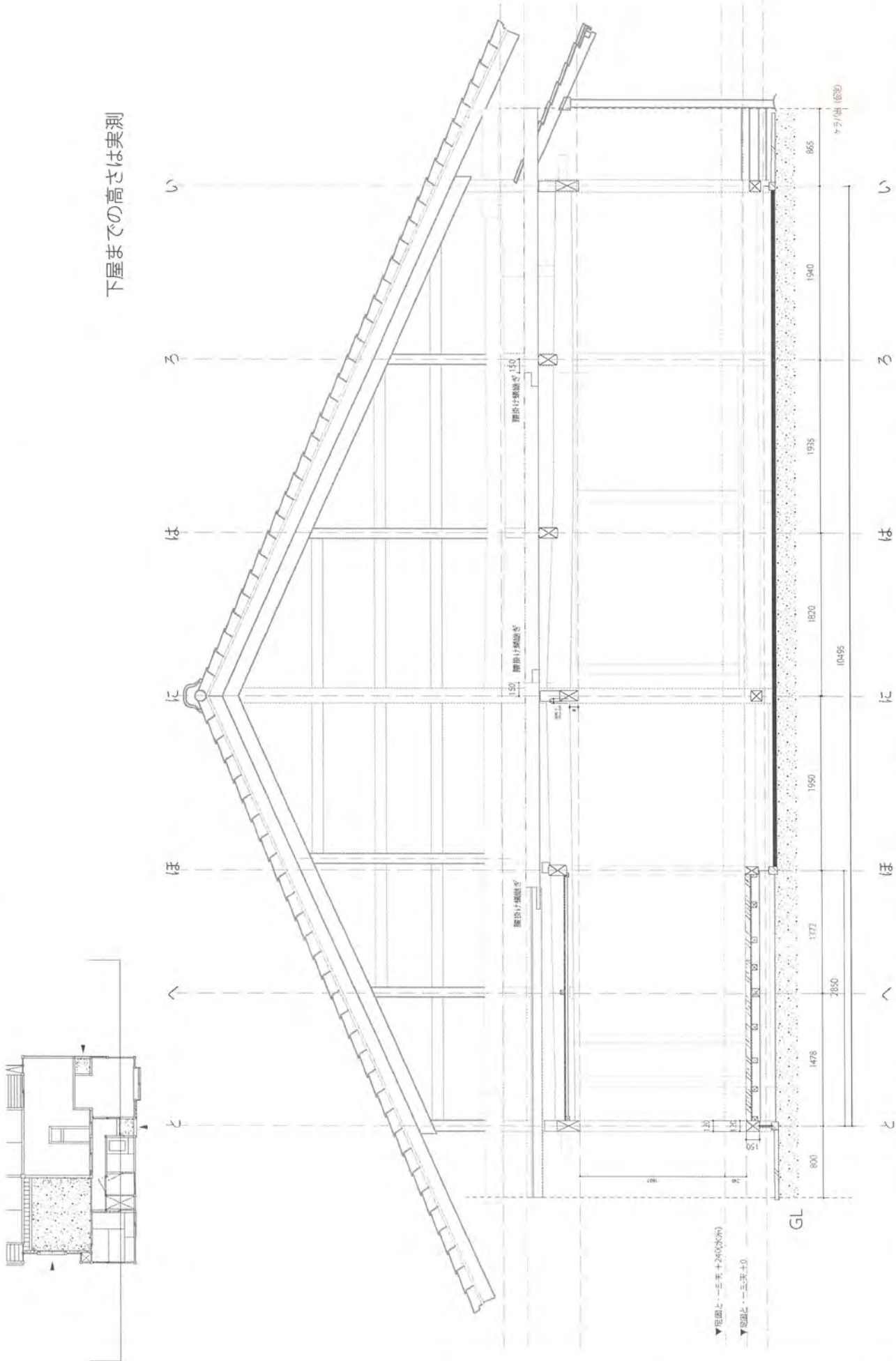




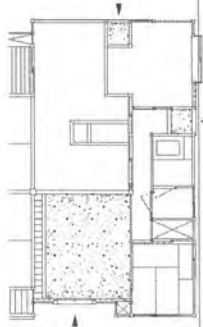
下屋までの高さは実測



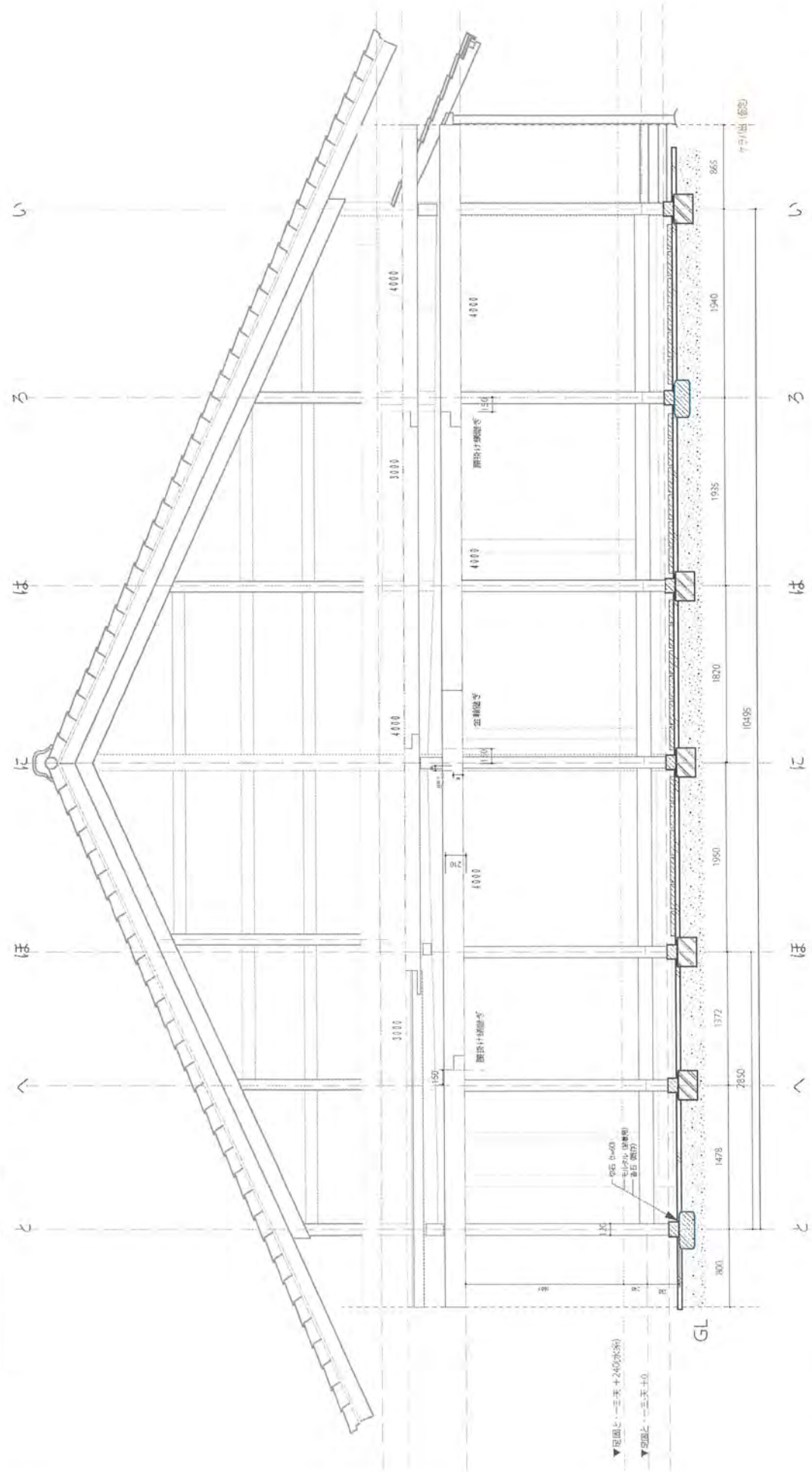
下屋までの高さは実測

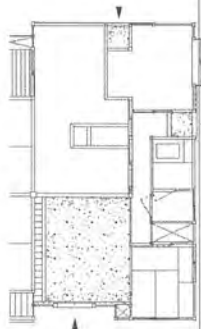






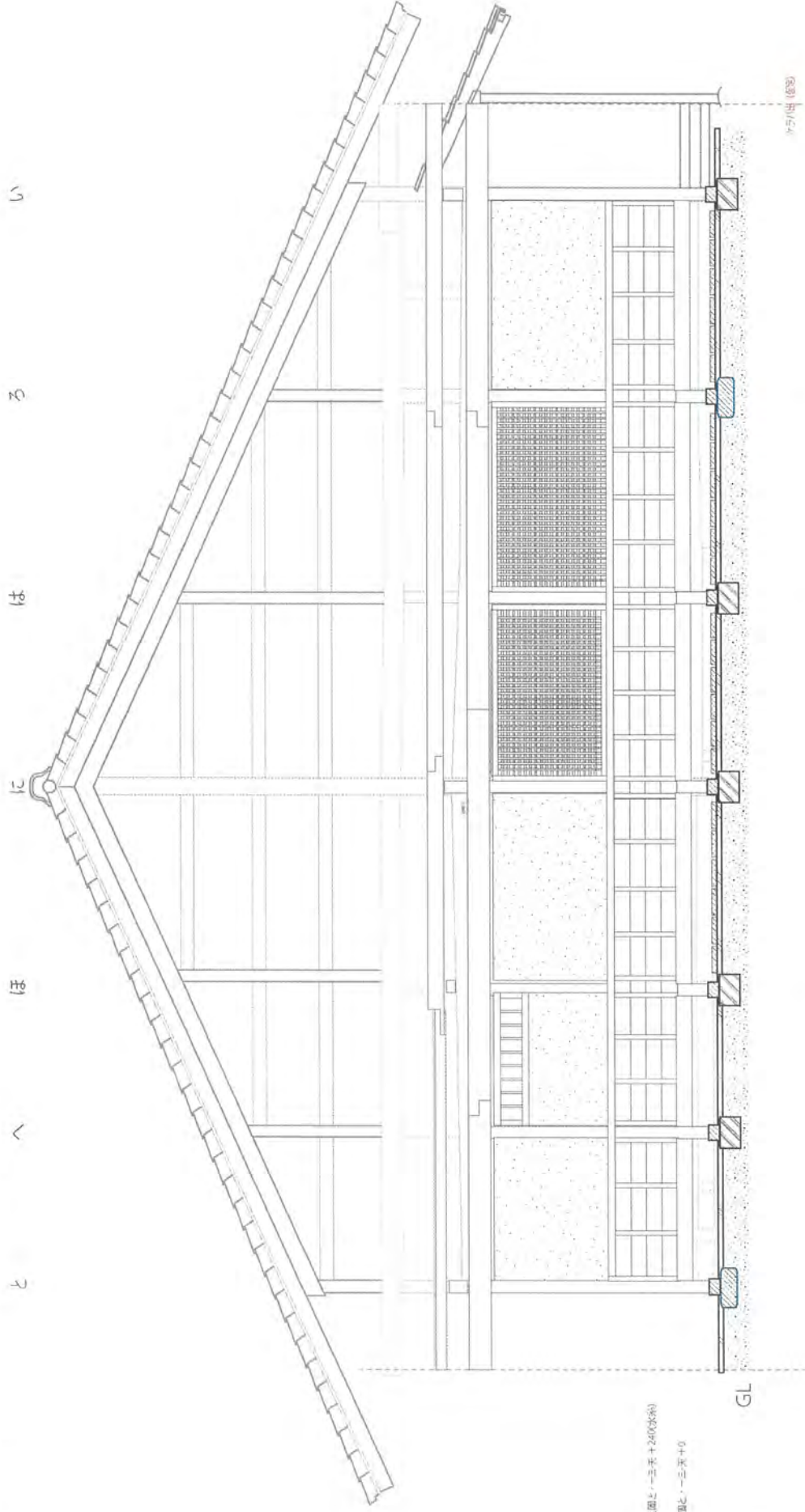
下屋までの高さは実測





下屋までの高さは実測

と へ ほ に は ろ い

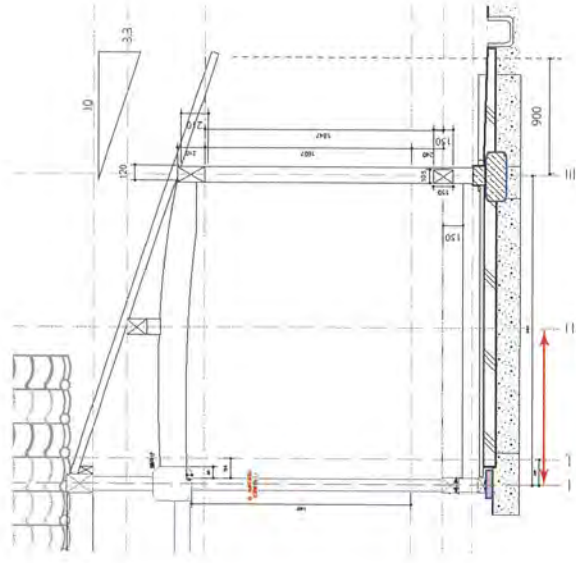


▼程度上、一三、五、一、二、四、〇、六、九、〇  
▼2階上、一三、五、一、〇

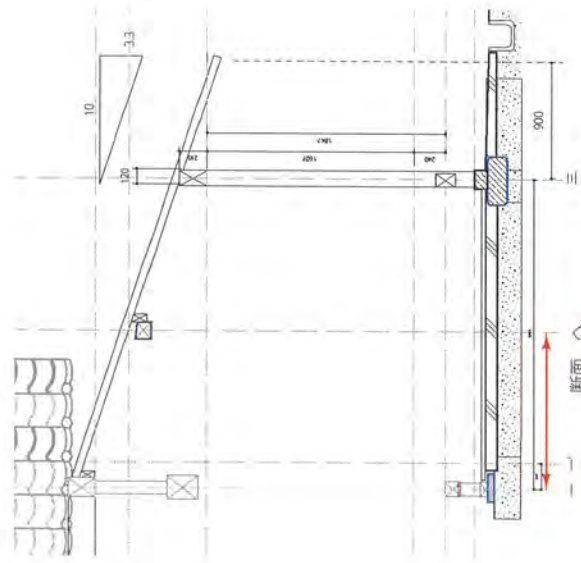
GL

と へ ほ に は ろ い

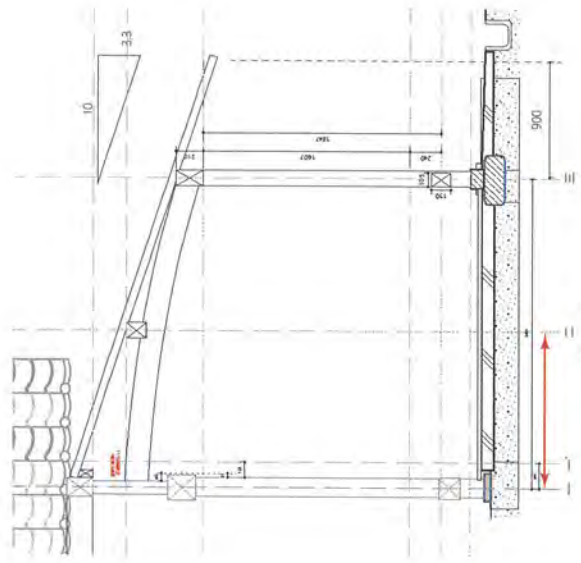




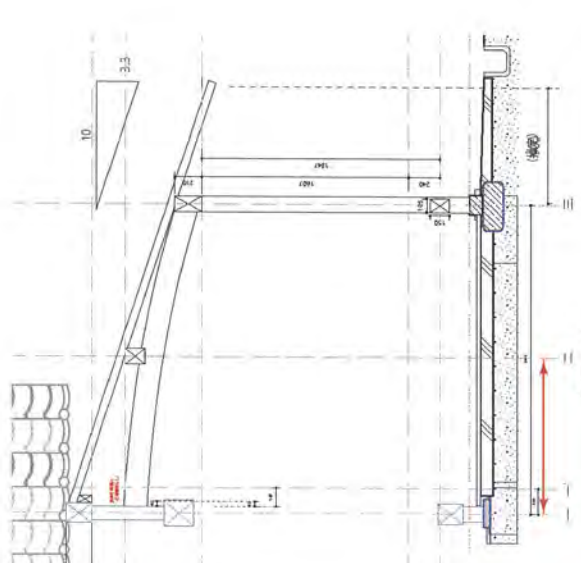
断面と



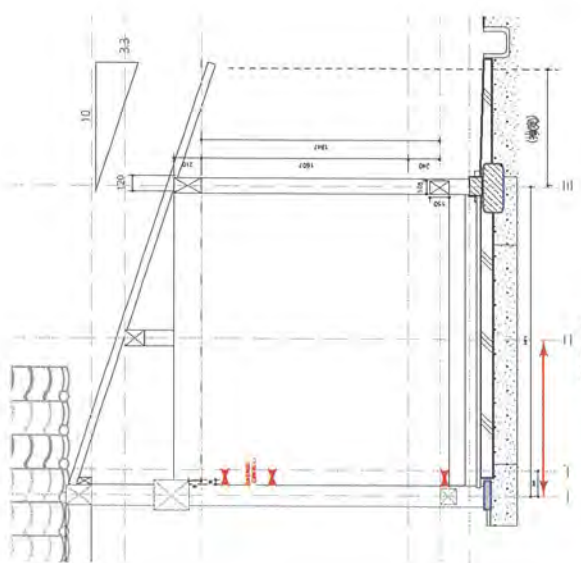
断面は



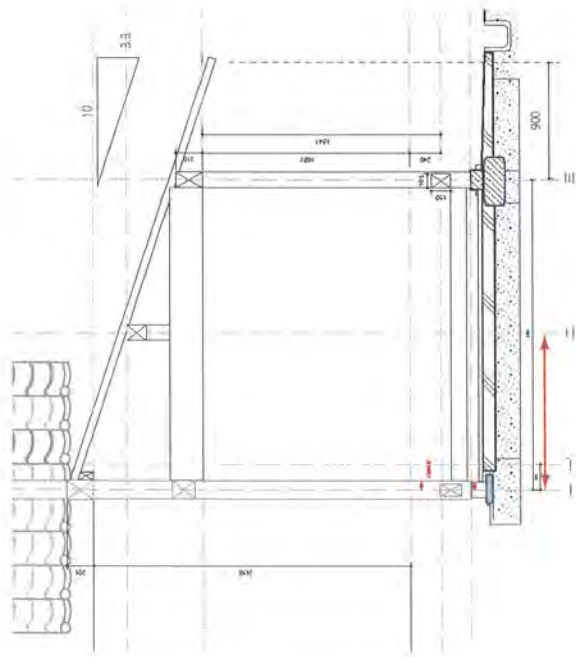
断面ろ



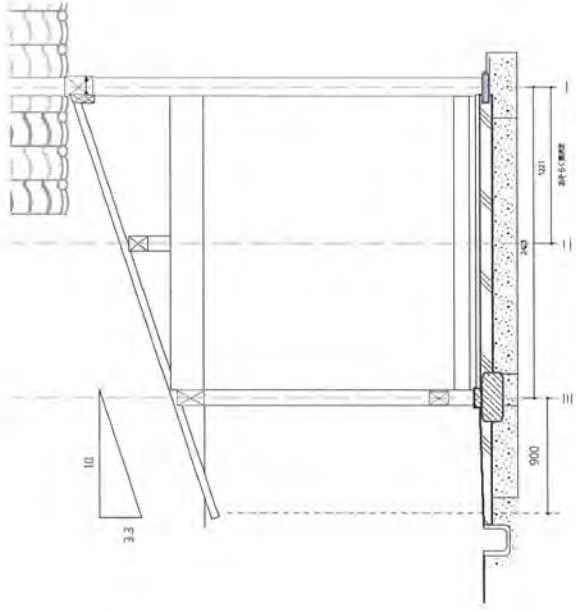
断面は



断面に

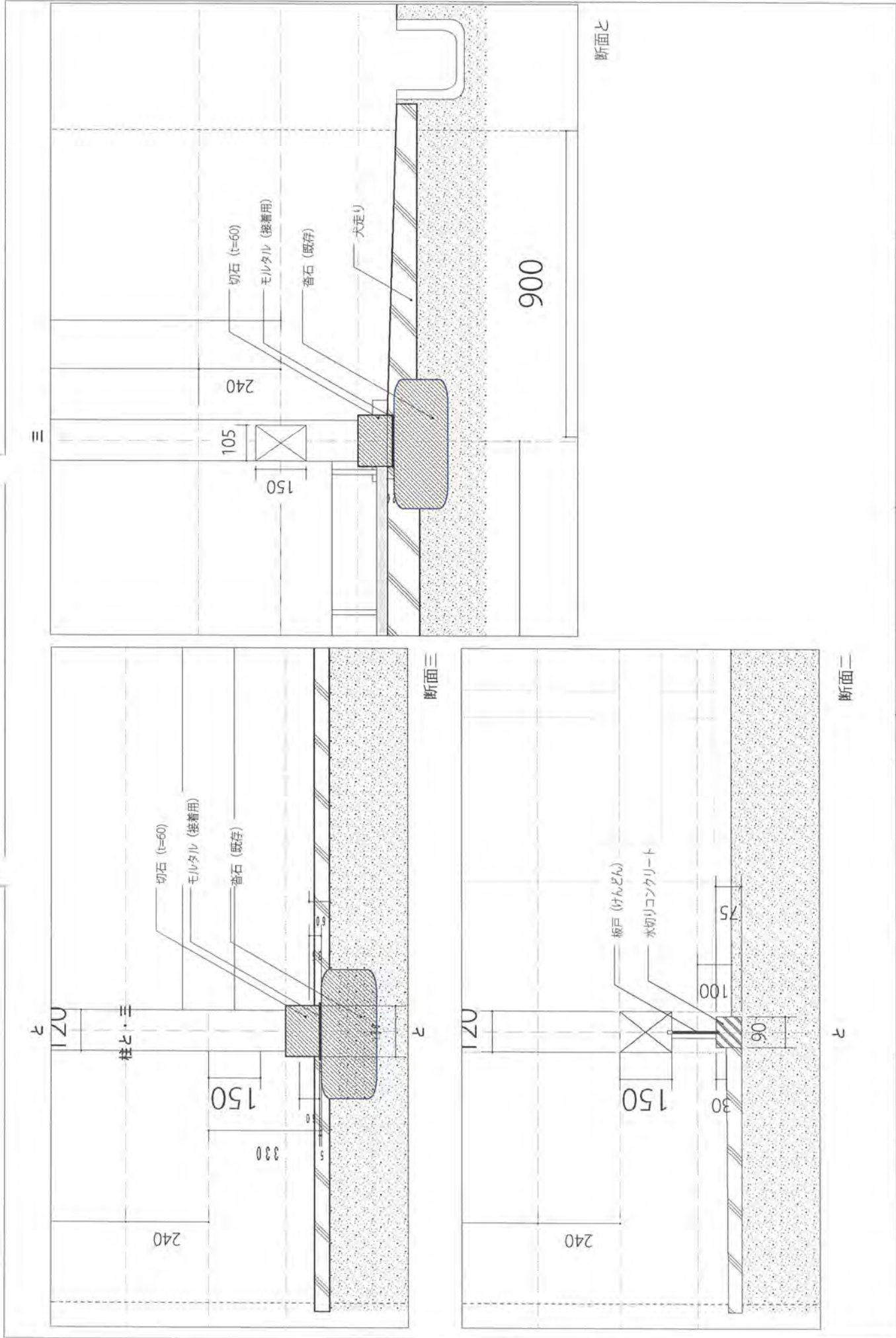


断面い(南から)



断面い(北から)





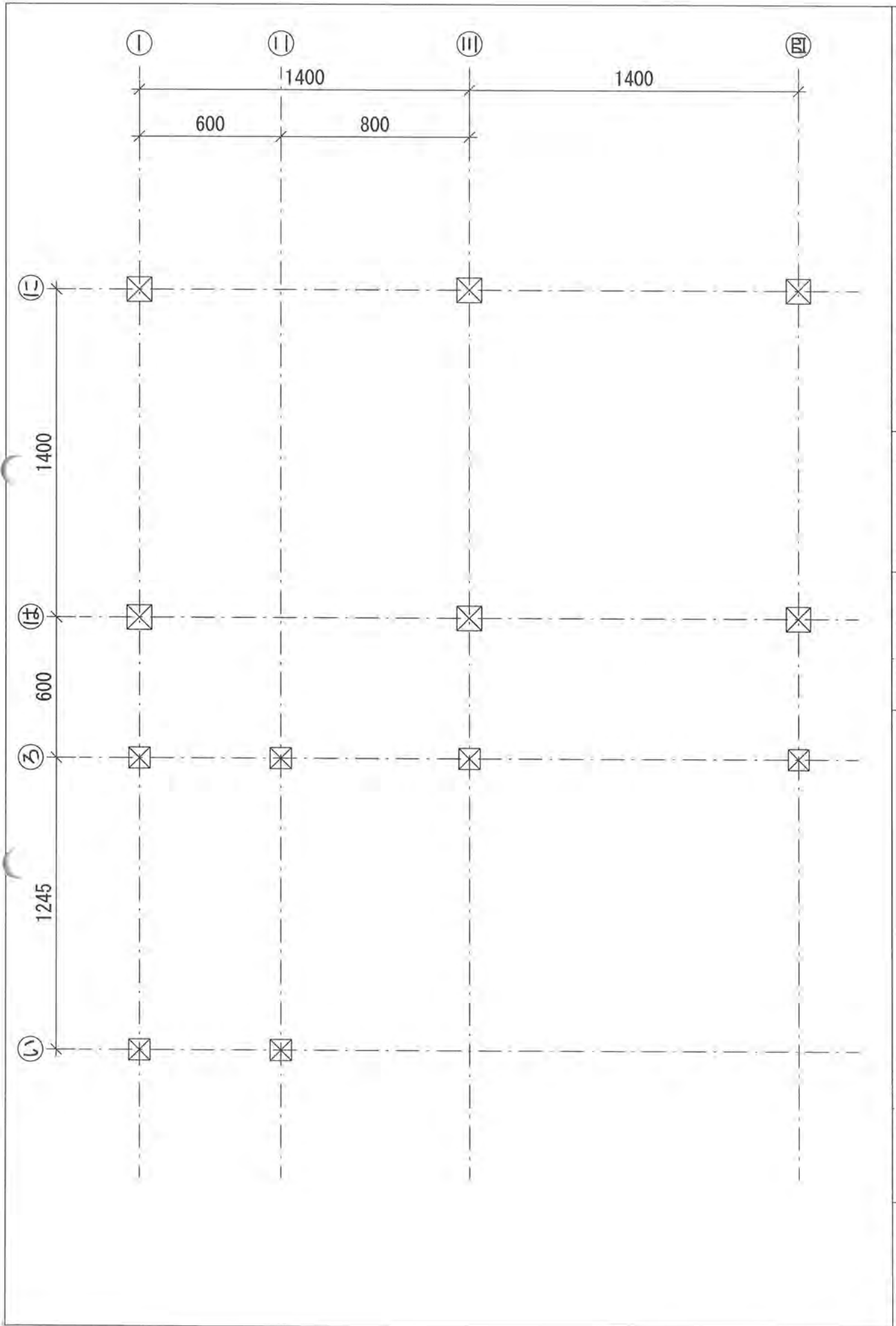
加子母木匠塾2013 京都大学チーム

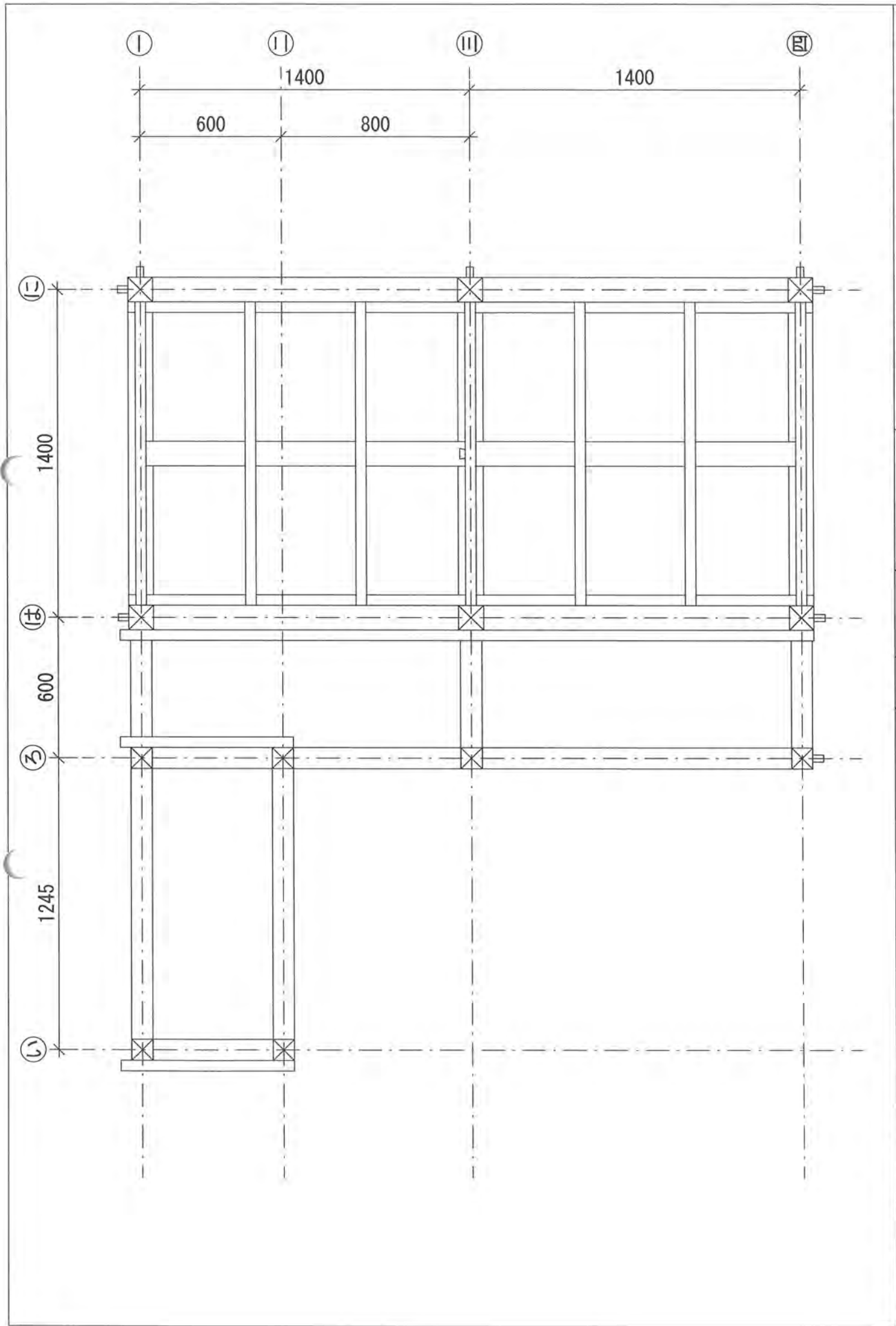
旧佐藤正様邸改修プロジェクト  
母屋離れ間渡り廊下 設計図

設計・作図：岸本（京大M1）桐畑（工繊M1）金馬（工繊M1）品川（京大M1）福井（京大M1）前田（京大M1）

施工：加子母木匠塾2013 京都大学チーム（京都大・京都工繊大・金沢工業大）







渡り廊下

図面名称

床伏図

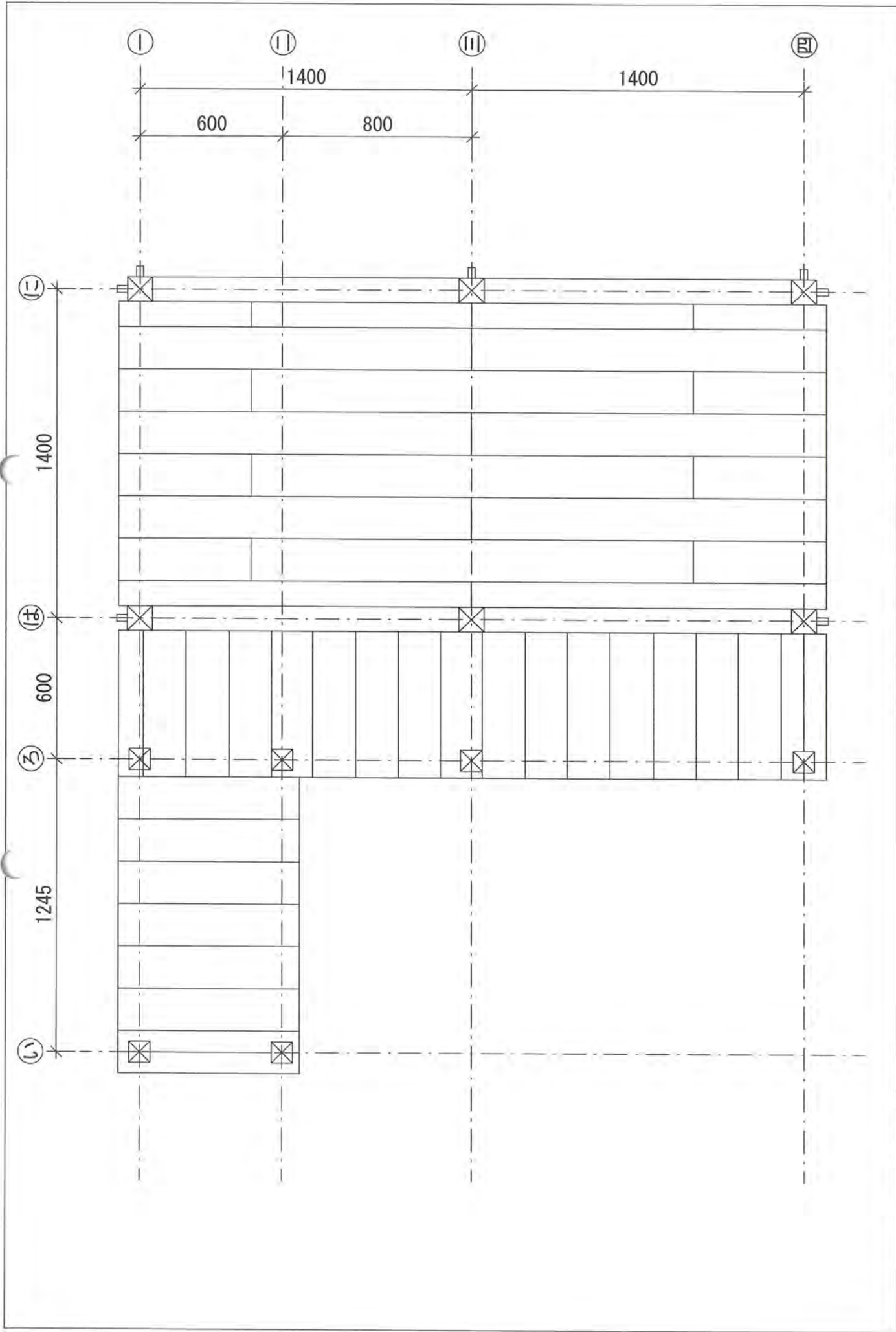
縮尺

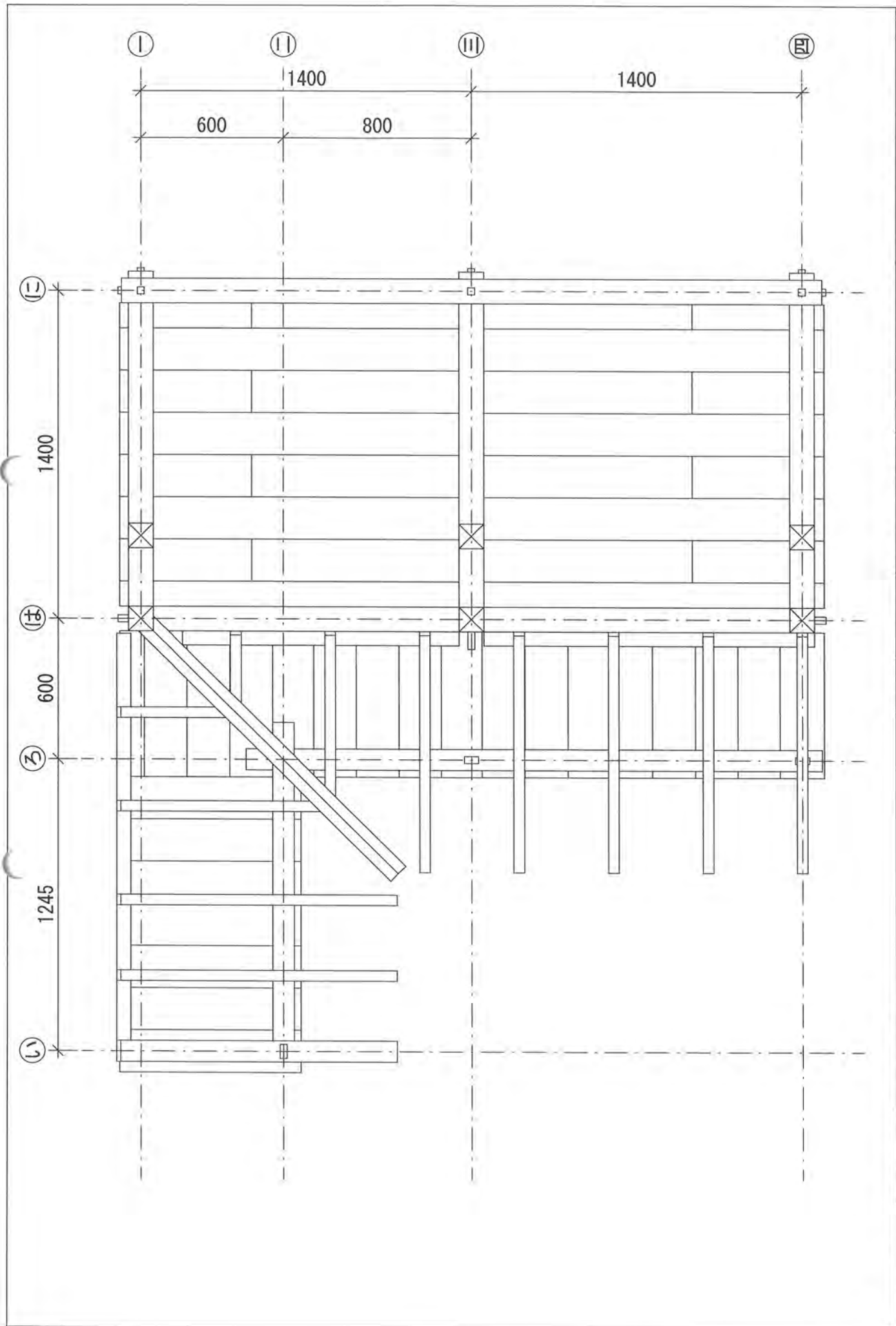
1/20 (A4)

設計・作図・施工

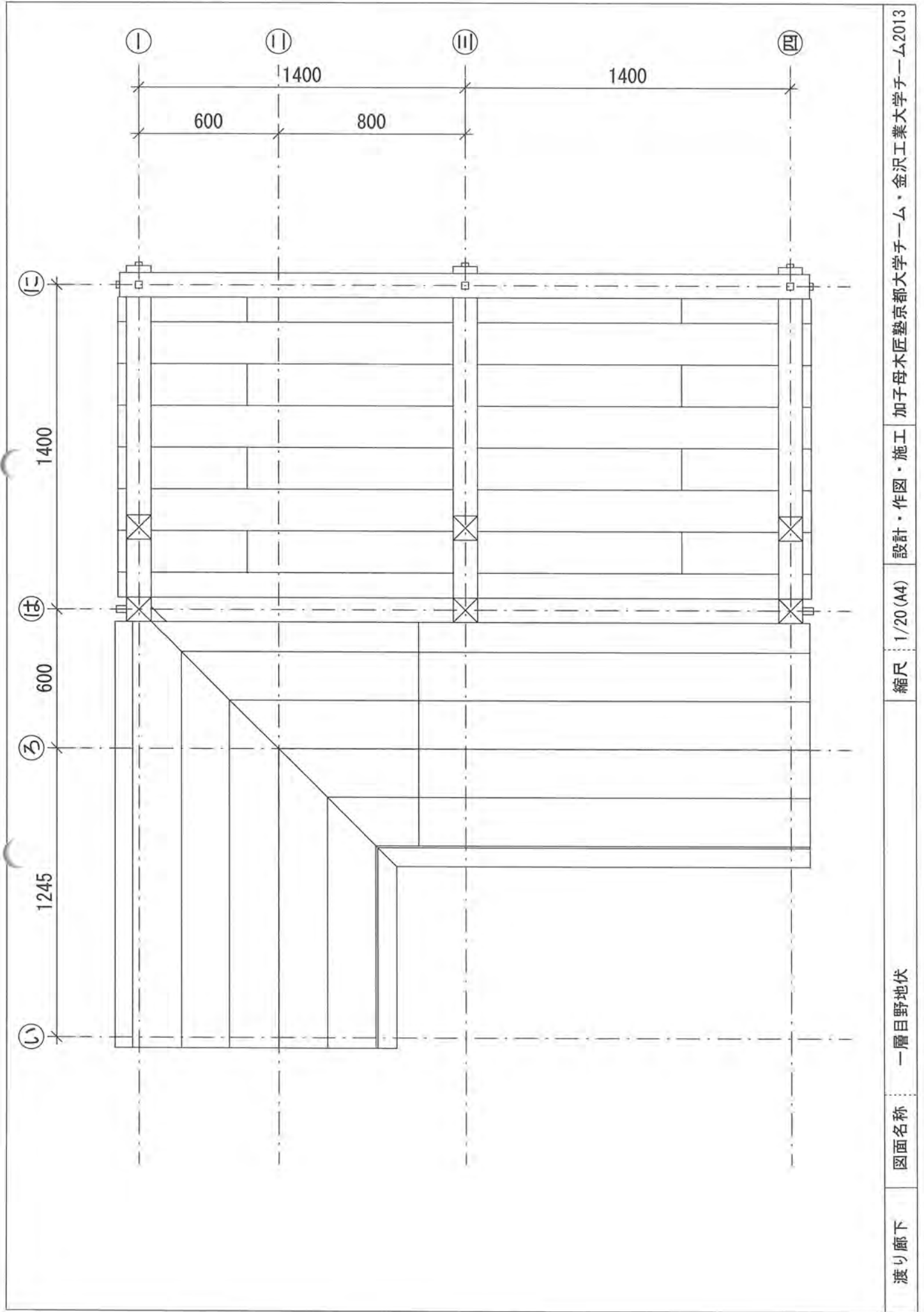
加子母木匠塾京都大学子一ム・金沢工業大学子一ム2013











渡り廊下

図面名称

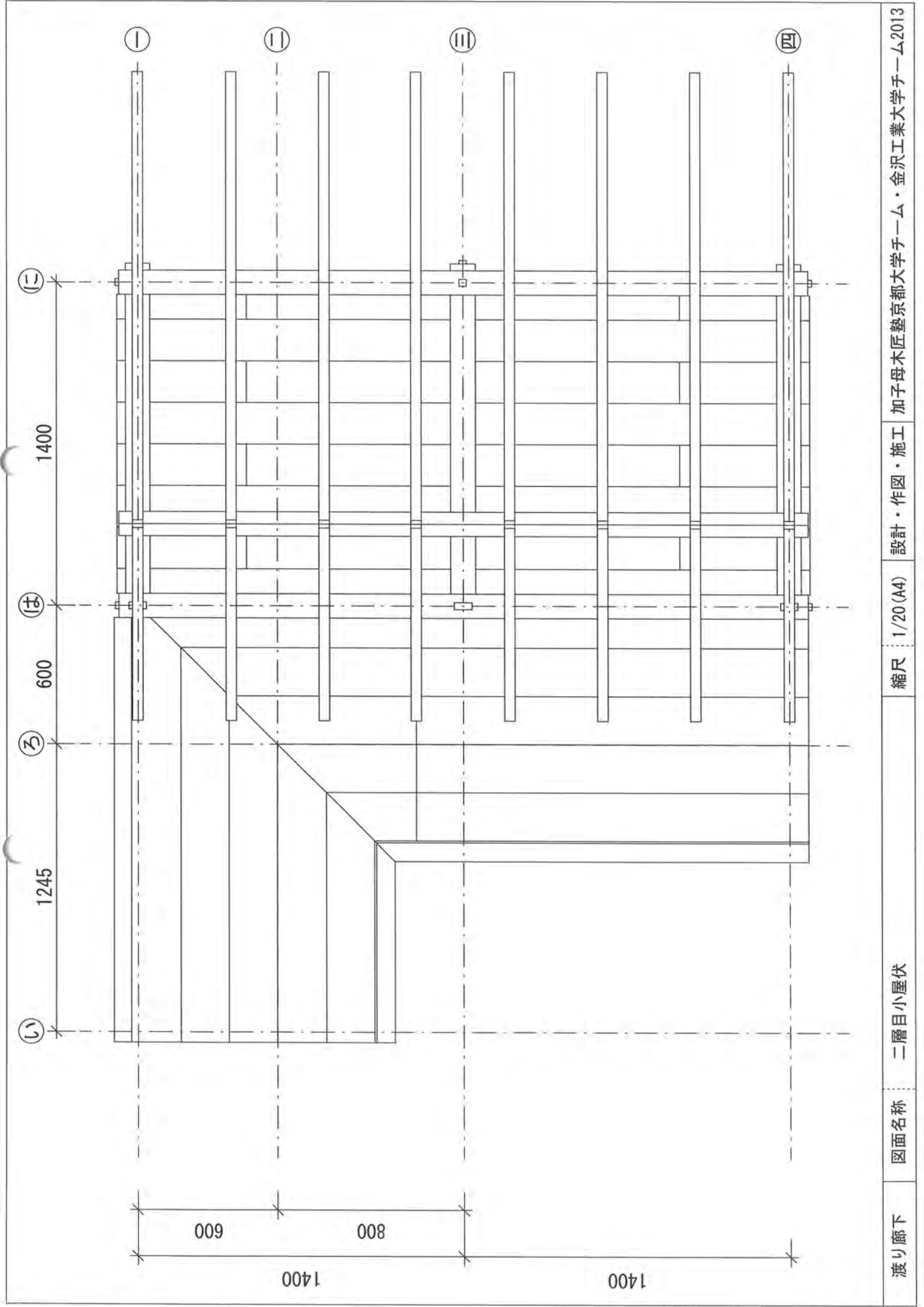
一層目野地伏

縮尺

1/20 (A4)

設計・作図・施工

加子母木匠塾京都大学予一ム・金沢工業大学予一ム2013



渡り廊下

図面名称

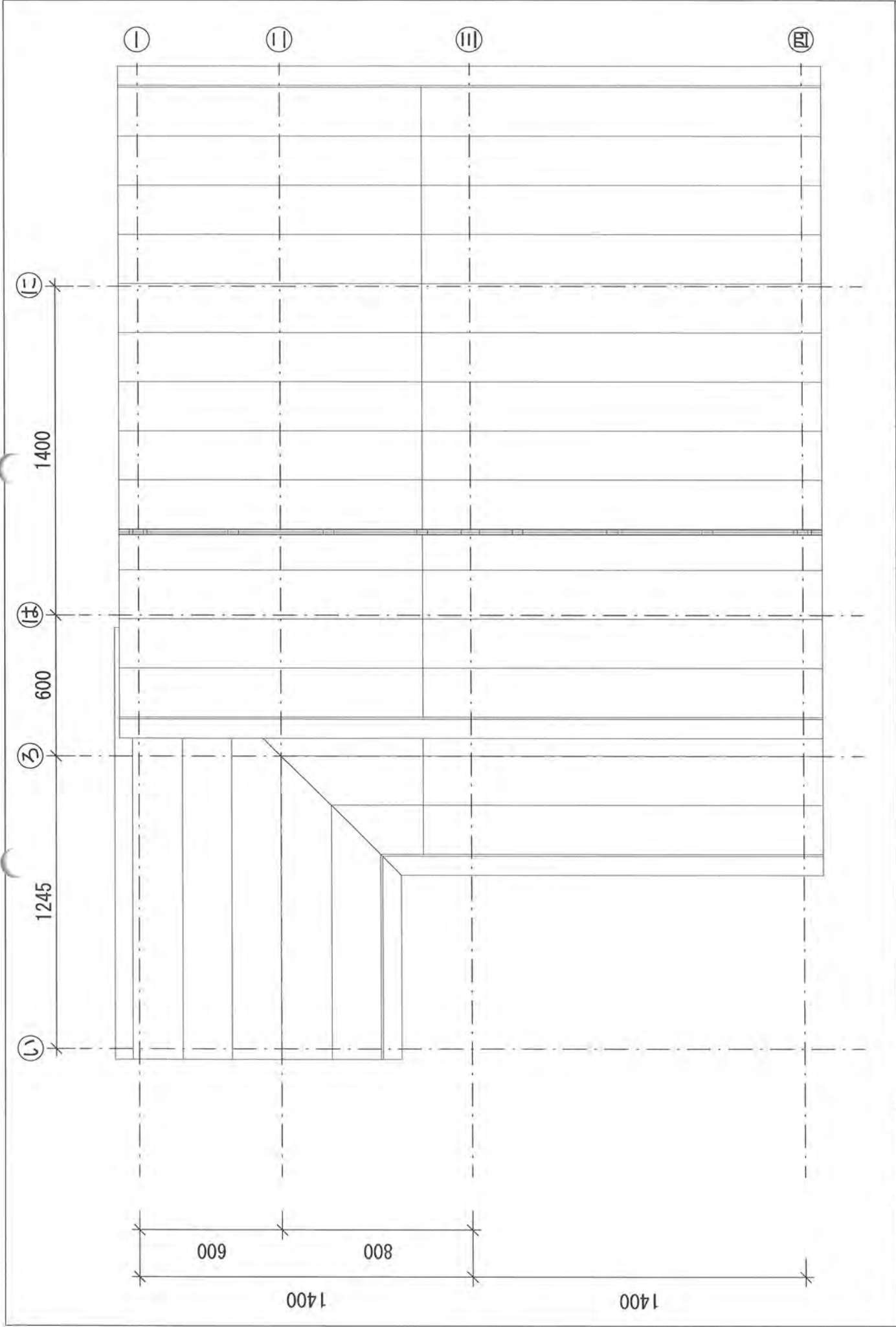
二層目小屋伏

縮尺

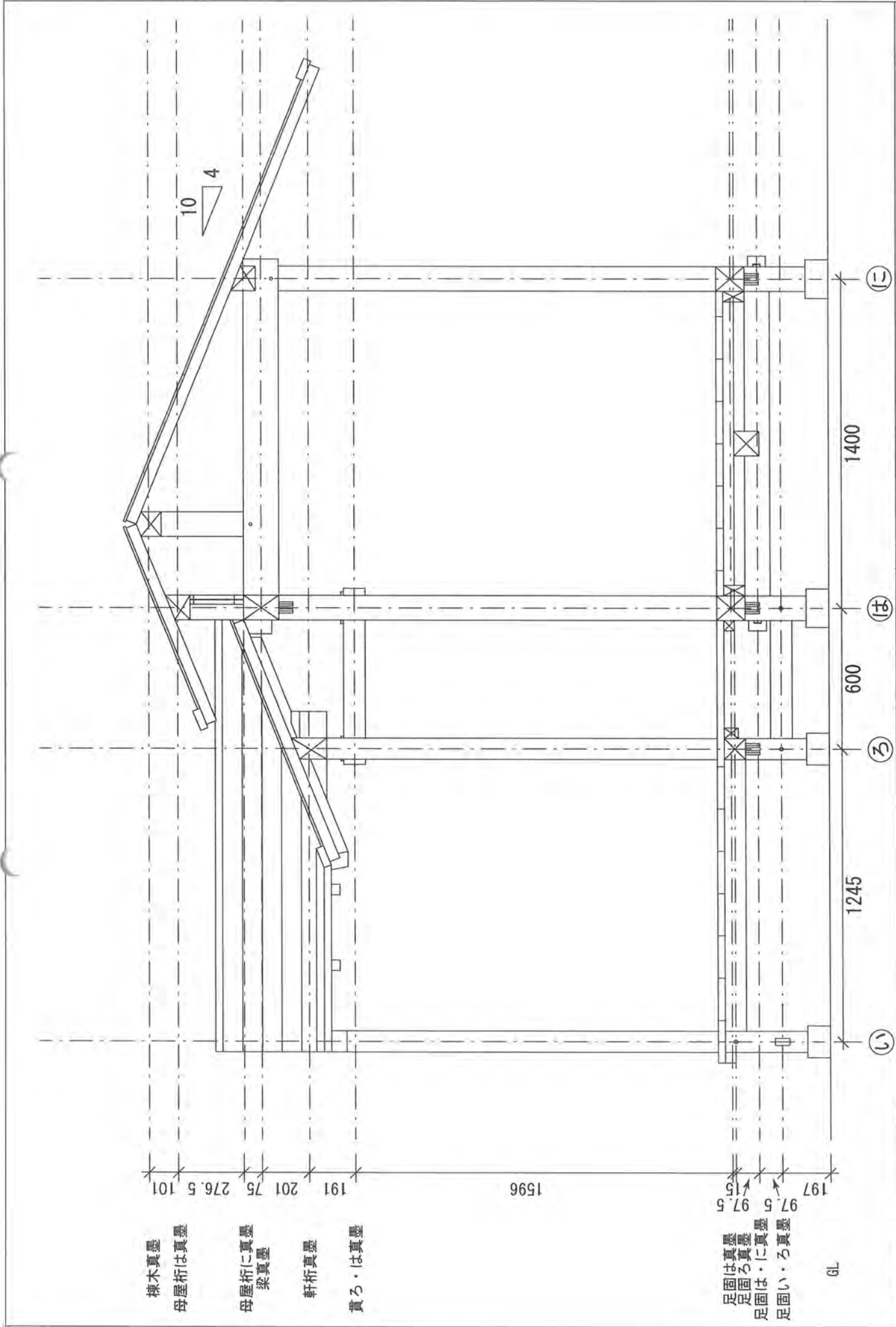
1/20 (A4)

設計・作図・施工

加子母木匠塾京都大学子一ム・金沢工業大学子一ム2013

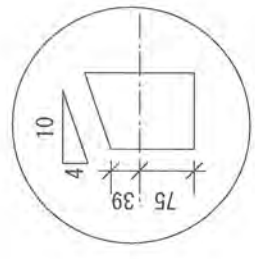
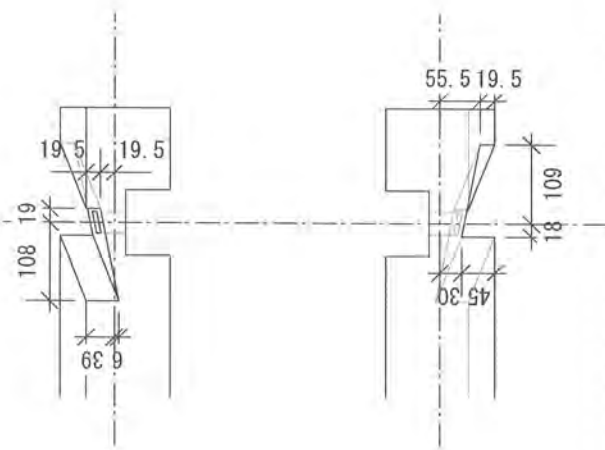




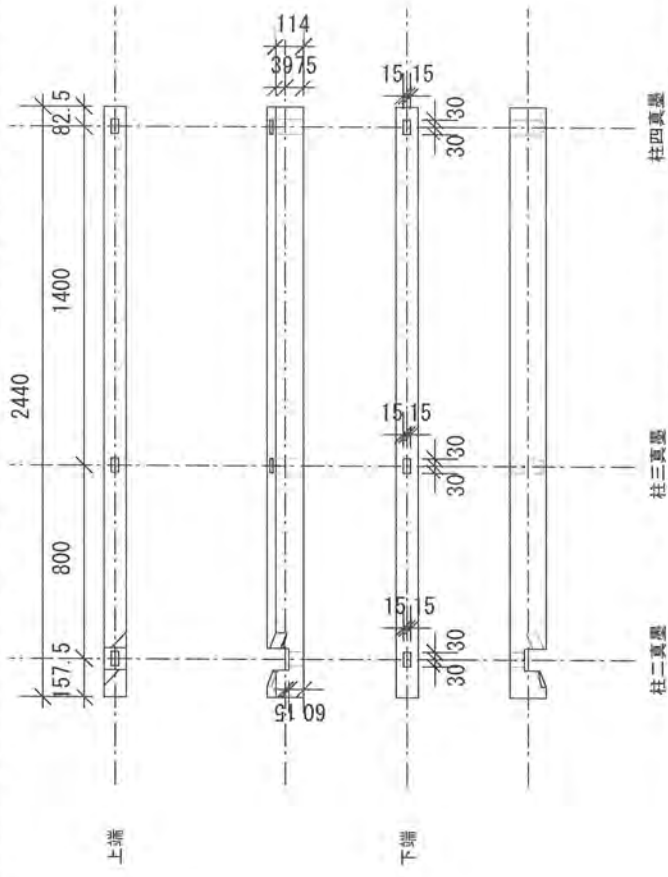
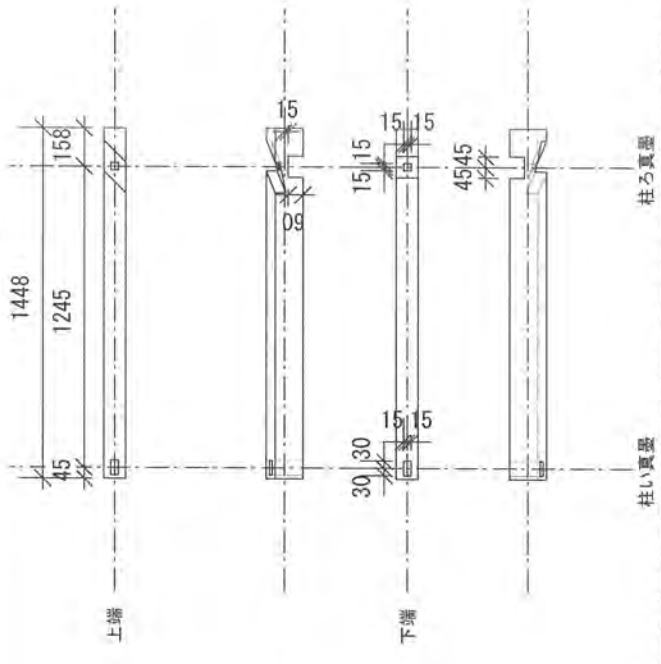


棟木真墨  
 母屋桁は真墨  
 母屋桁に真墨  
 梁真墨  
 軒桁真墨  
 貫ろ・は真墨

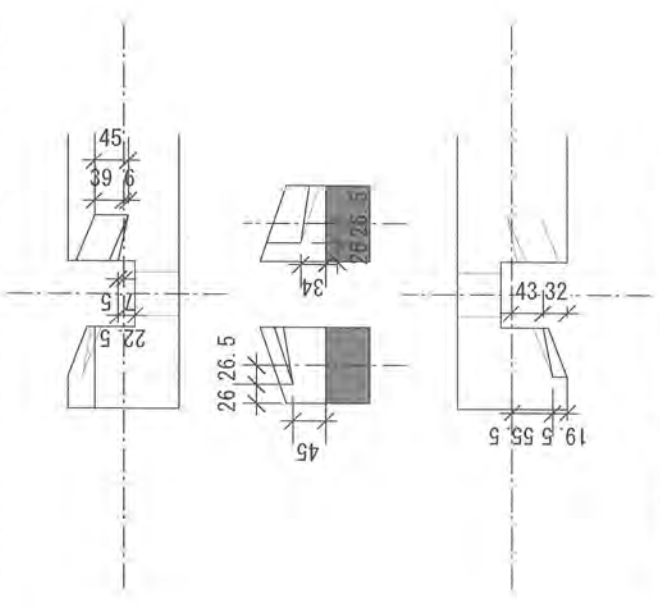
足固は真墨  
 足固ろ真墨  
 足固は・に真墨  
 足固い・る真墨

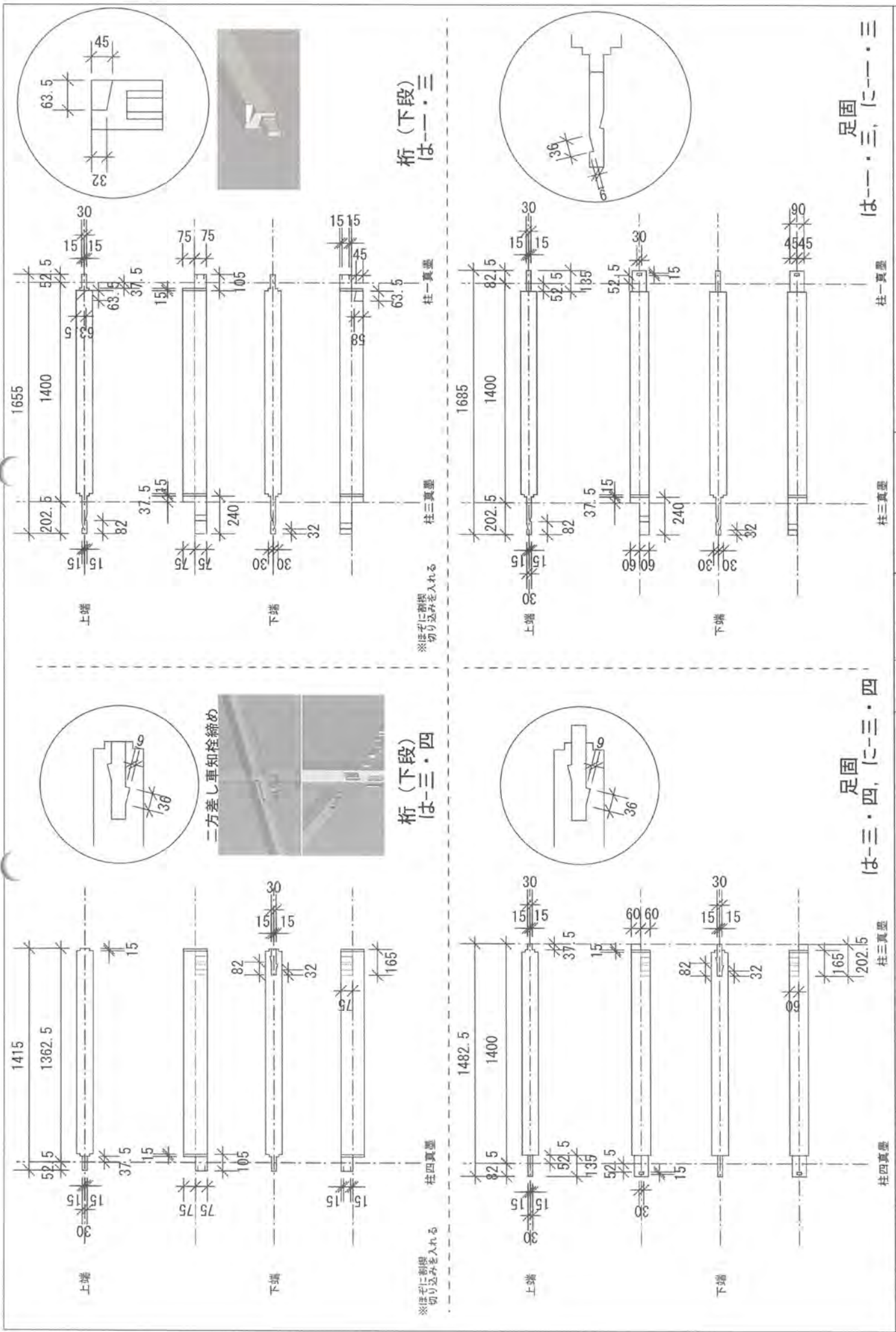


軒桁 い・ろ二



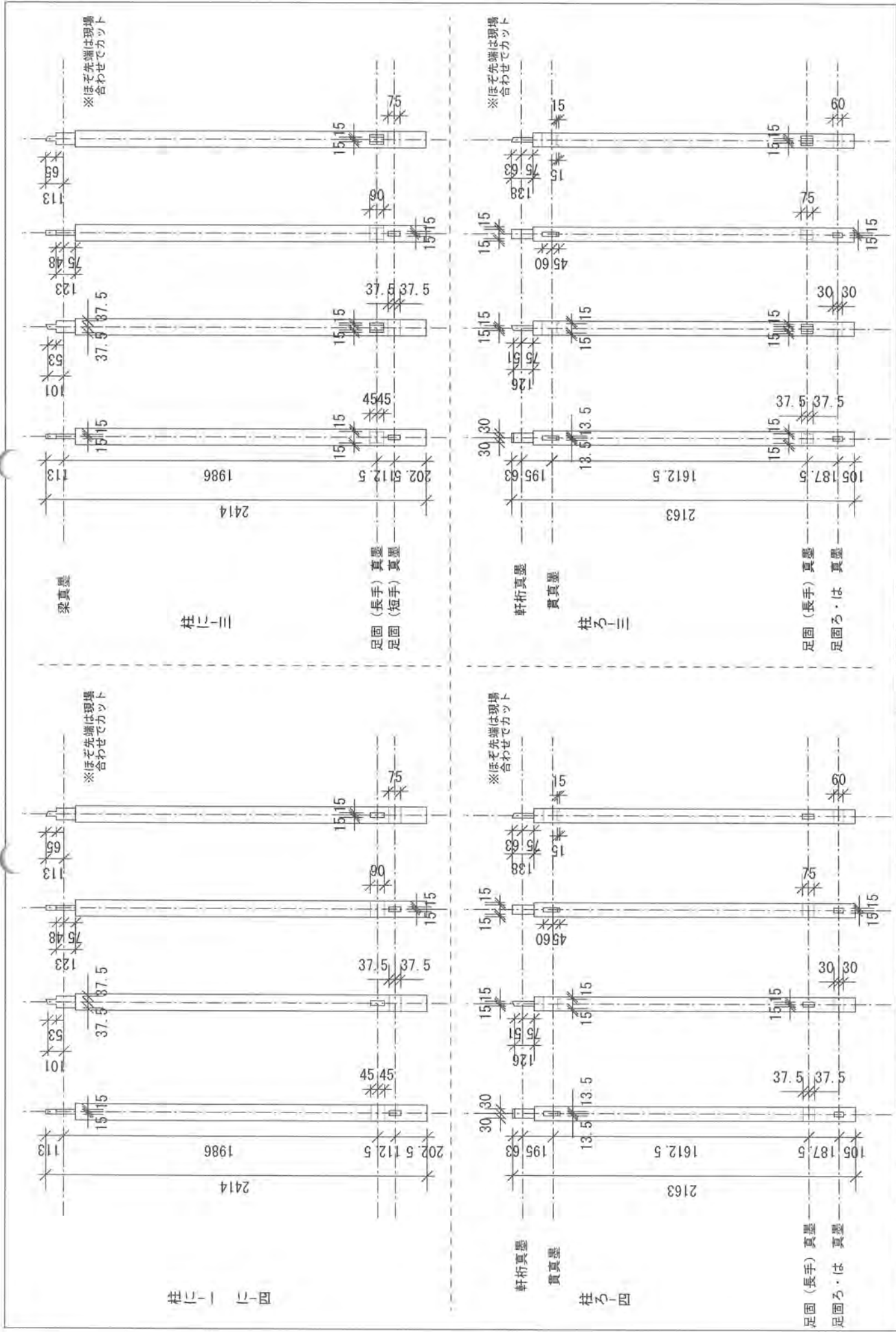
軒桁 ろ二・四





渡り廊下	図面名称	加工図 足固・桁(下段)	縮尺	1/30(A4)	設計・作図・施工	加子母木匠塾京都大学チーム・金沢工業大学チーム2013
------	------	--------------	----	----------	----------	-----------------------------





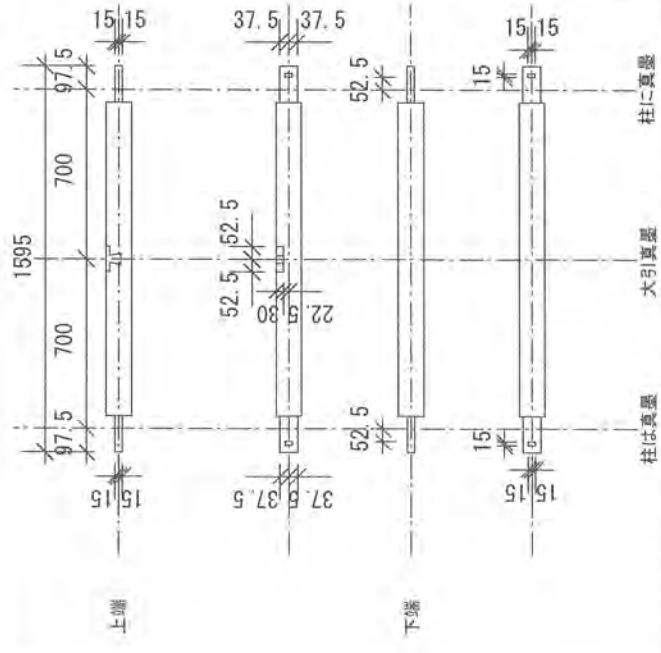
渡り廊下	図面名称	加工図 柱 (に一一, 三, 四, ろ三, 四)	縮尺	1/30 (A4)	設計・作図・施工	加子母木匠塾京都大学チーム・金沢工業大学チーム2013
------	------	--------------------------	----	-----------	----------	-----------------------------



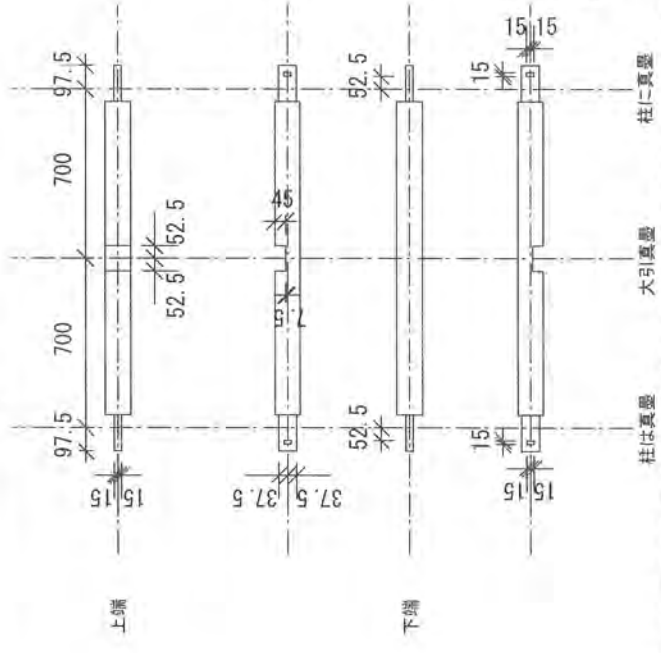




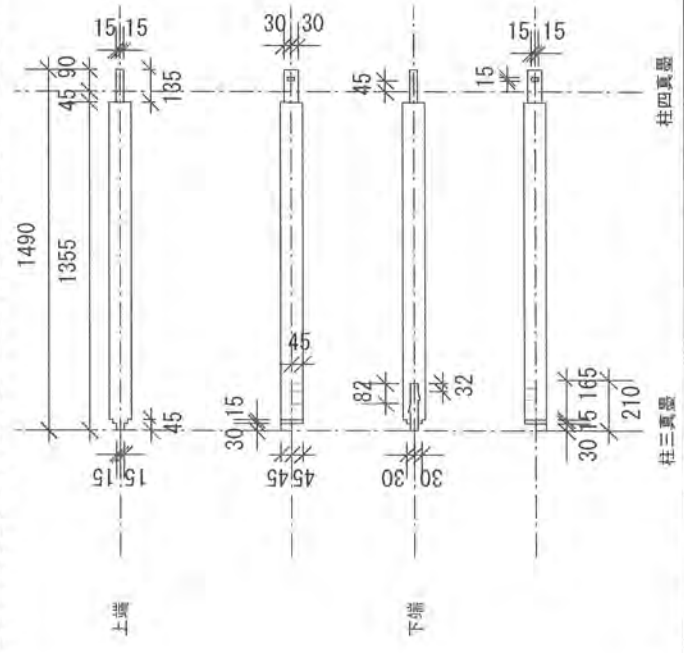
足固 は・に・一、は・に・四



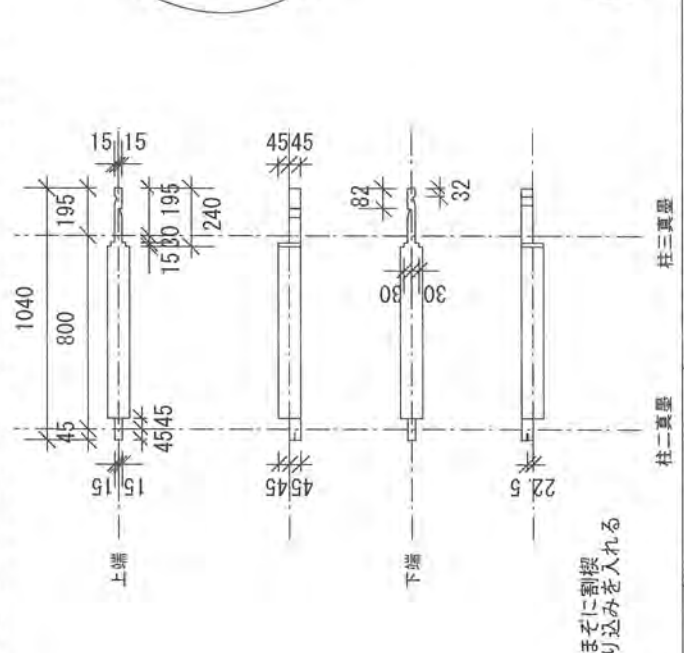
足固 は・に・三



足固 ろ・二・三・四



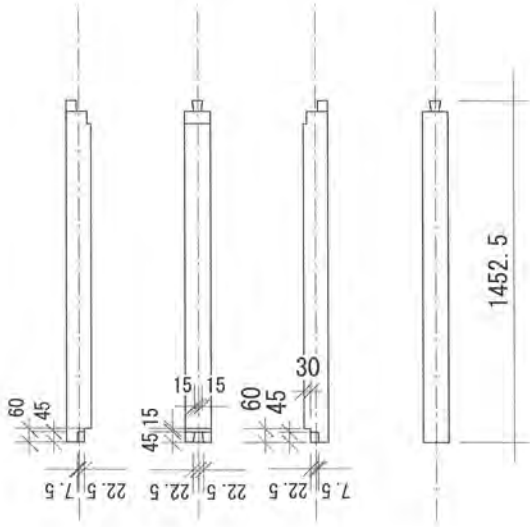
足固 ろ・二・三



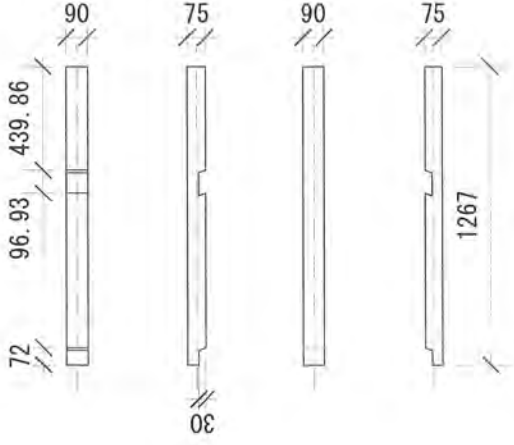
※ほぞに割楔  
切り込みを入れる



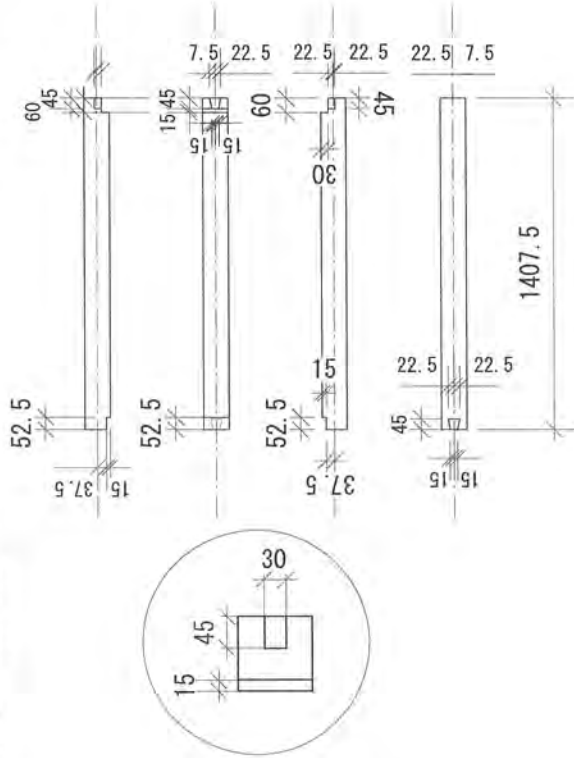
大引き① 105\*105



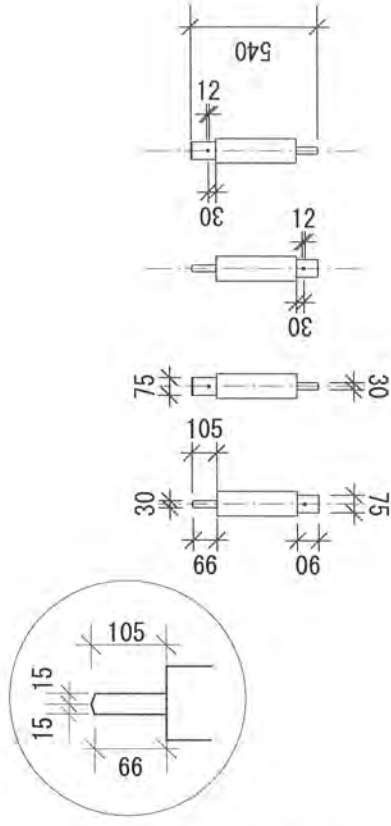
登り梁 90\*75



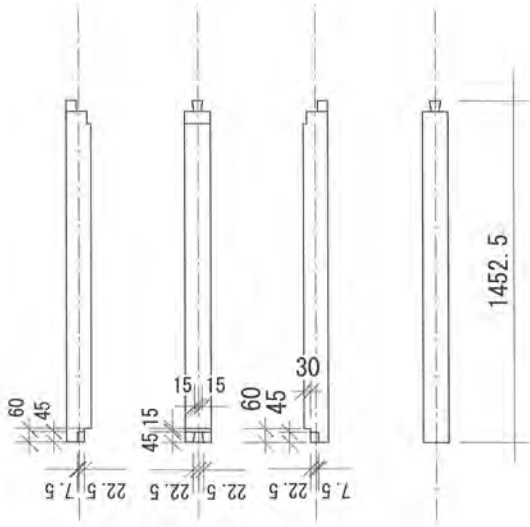
大引き② 105\*105



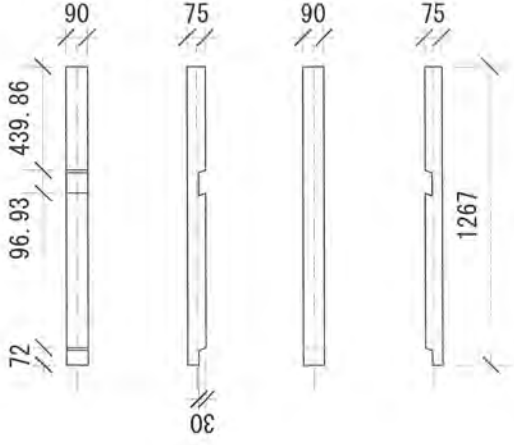
棟束×3本 105\*105



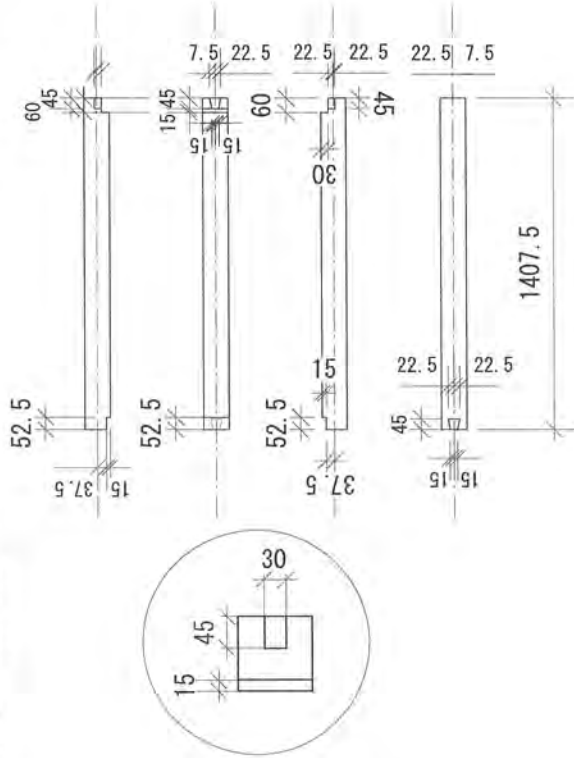
大引き① 105\*105



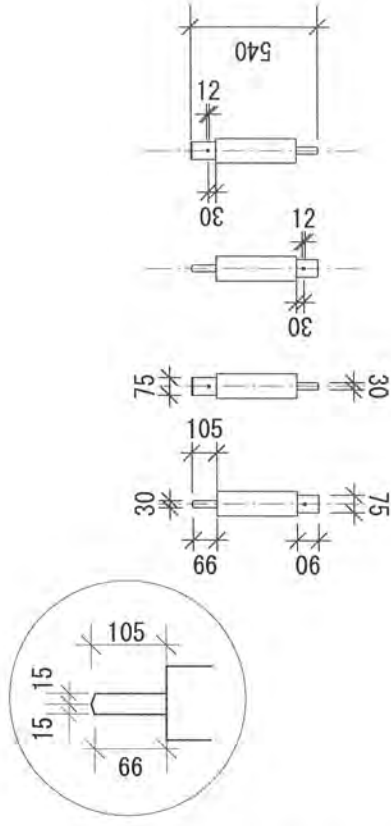
登り梁 90\*75



大引き② 105\*105



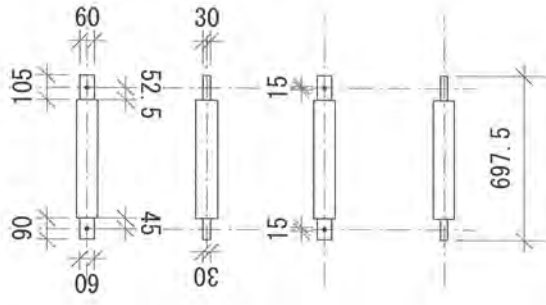
棟束×3本 105\*105





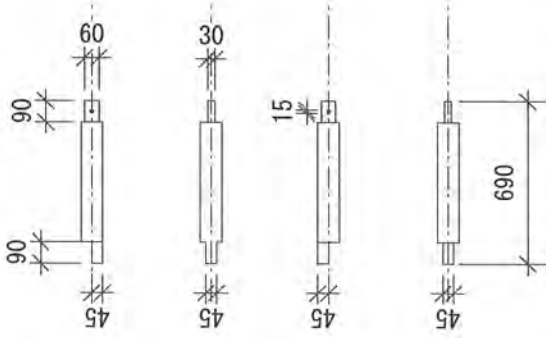
足固×3本 90\*90

(ろは一、ろは-三、ろは-四)

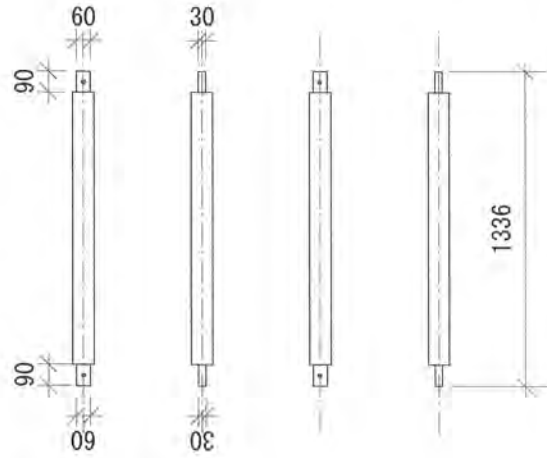


足固×2本 90\*90

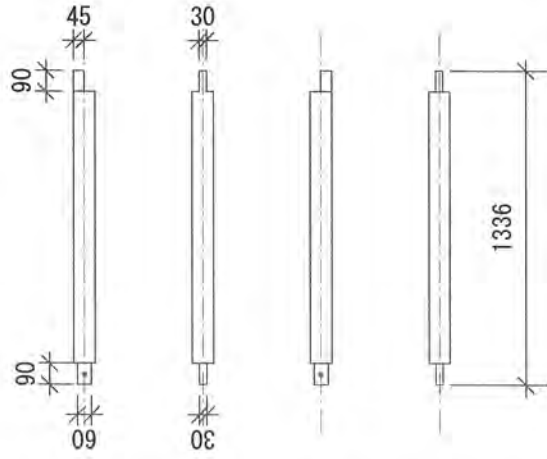
(いろ-二、ろ-二)



足固×2本 90\*90 (いろ-一)

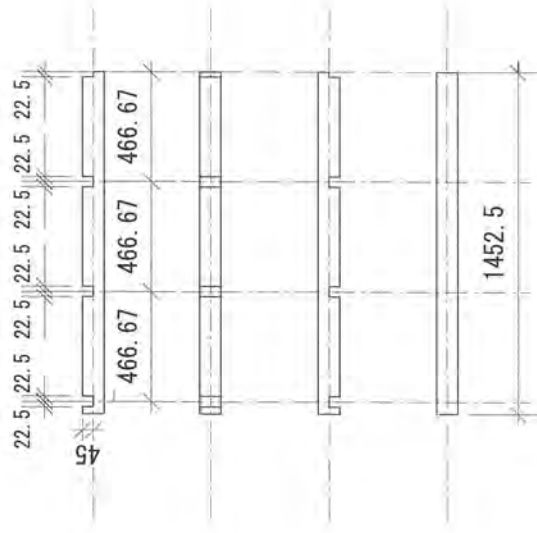


足固×2本 90\*90 (いろ-二)



足固×4本 105\*105

(は-一三、は-一四、は-三三、は-三四)



渡り廊下

図面名称

加工図 足固め

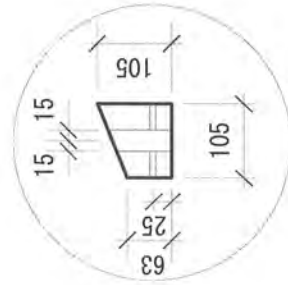
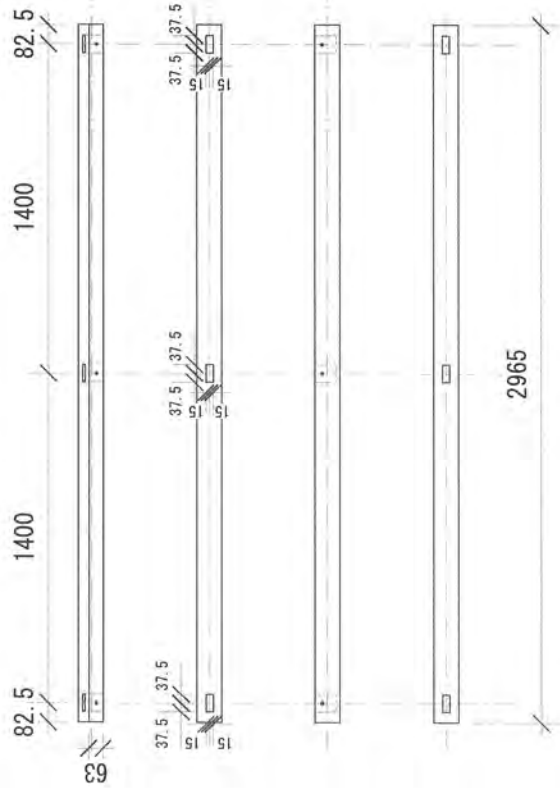
縮尺 1:30 (A4)

設計・作図・施工

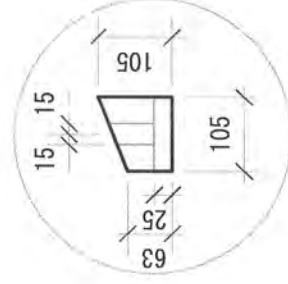
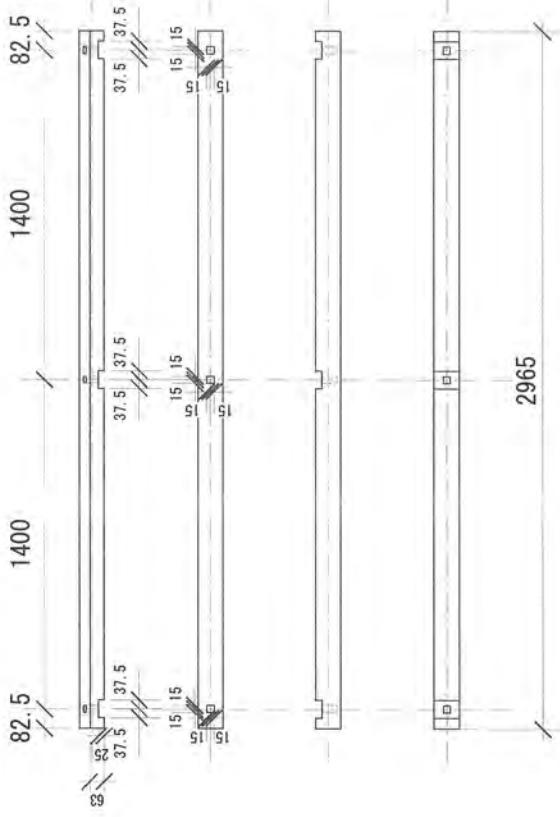
かしも木匠塾京都大学チーム・金沢工業大学チーム 2013

作成者:金馬 (8/7)

母屋桁に 105\*105

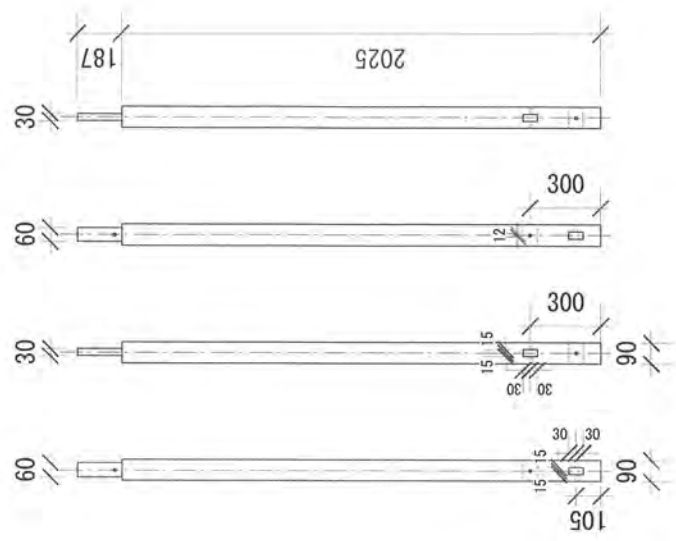
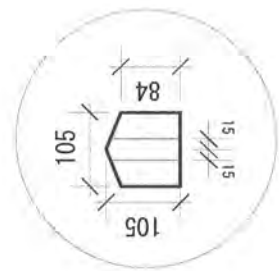
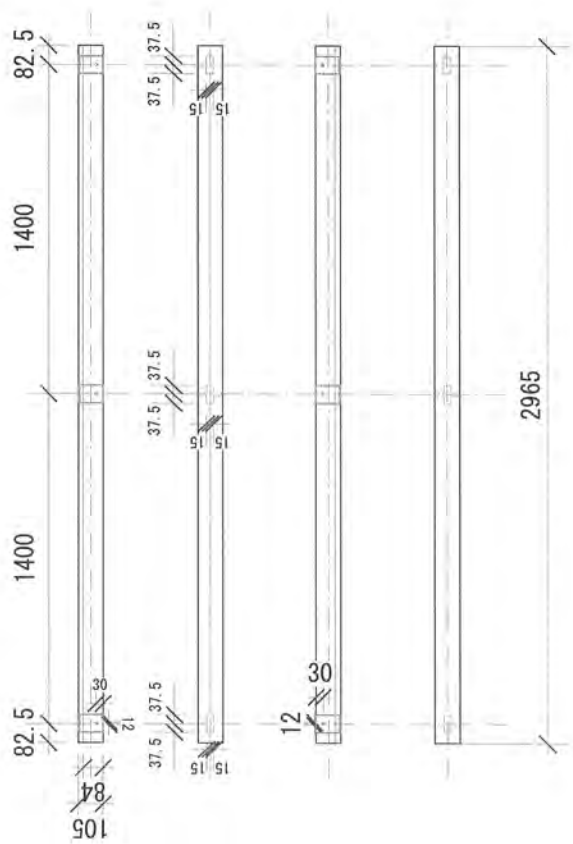


母屋桁は 105\*105



棟 105\*105

柱い-2  
60\*120



渡り廊下

図面名称

加工図 棟・柱い-2

縮尺 1:30 (A4)

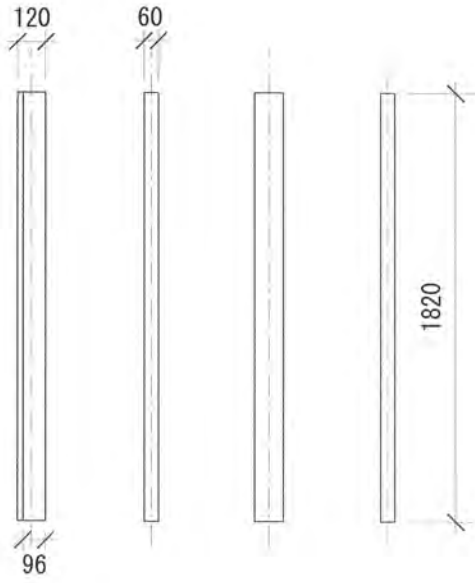
設計・作図・施工

かしも木匠塾京都大学子一ム・金沢工業大学子一ム 2013

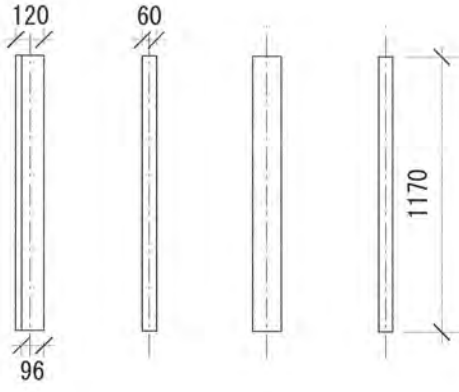
作成者: 金馬 (8/7)



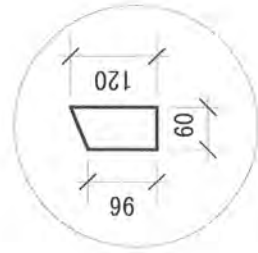
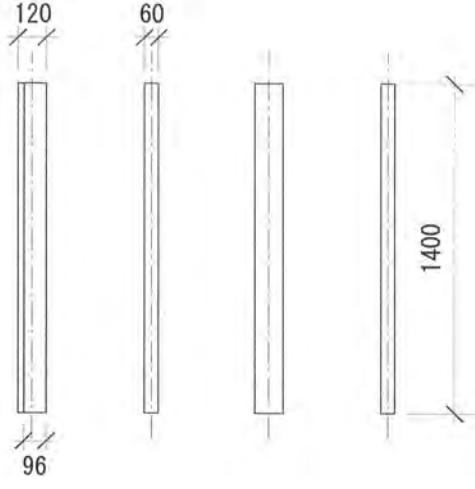
垂木掛け① 60\*120



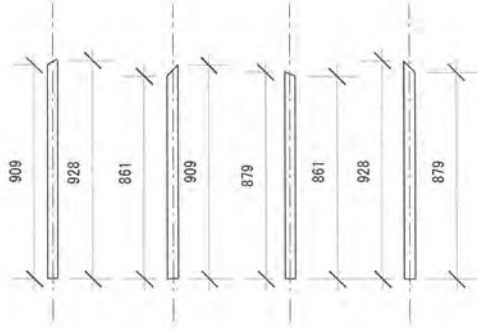
垂木掛け② 60\*120



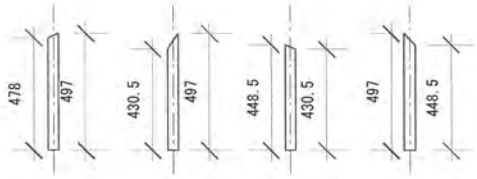
垂木掛け③ 60\*120



垂木3 45\*45



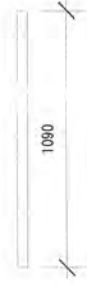
垂木4 45\*45



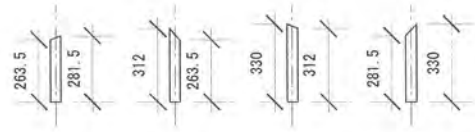
垂木1、2 45\*45 2本



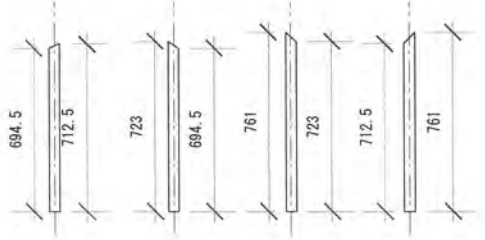
垂木7~11 45\*45 5本



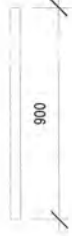
垂木5 45\*45



垂木6 45\*45



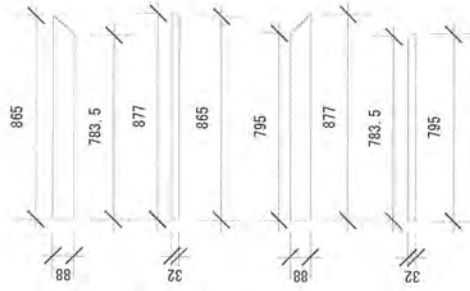
垂木12~19 45\*45 8本



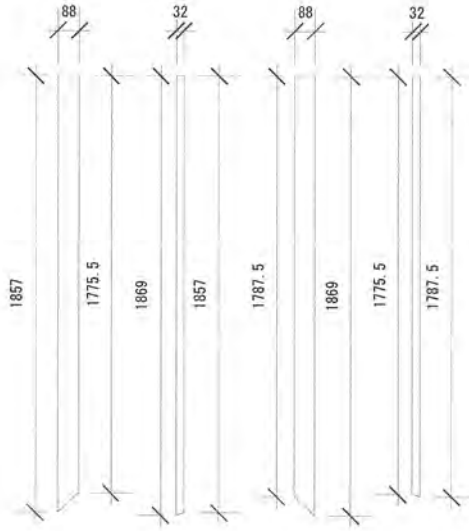
垂木20~27 45\*45 8本



□ 広小舞① 32\*88



□ 広小舞② 32\*88

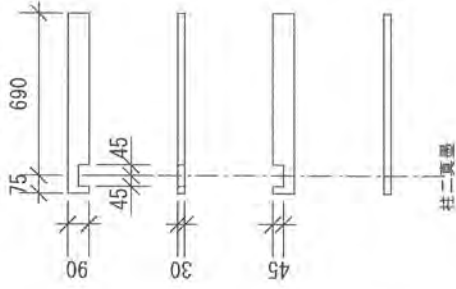


□ 広小舞③④ 32\*88 2本

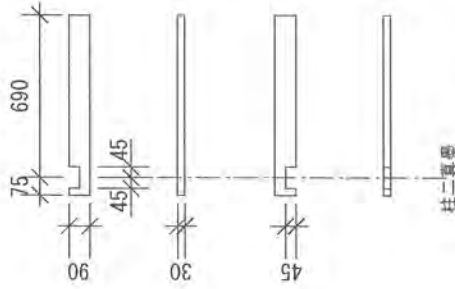




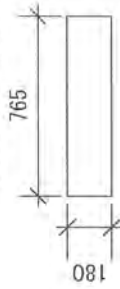
床板①



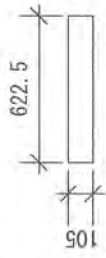
床板②



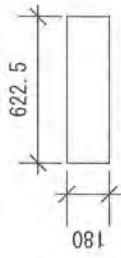
床板③ × 6枚



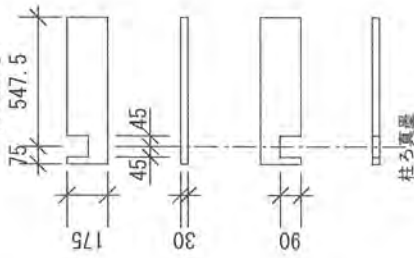
床板④



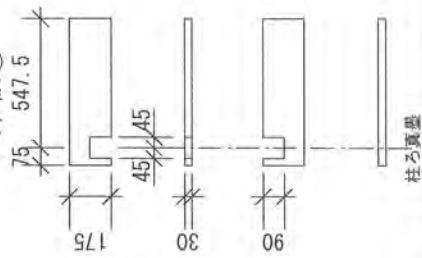
床板⑤ × 13枚



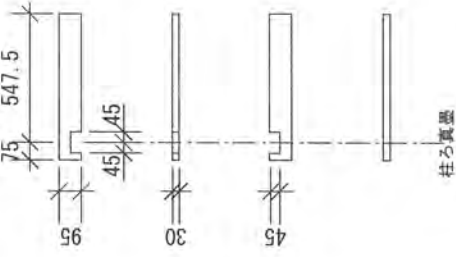
床板⑥



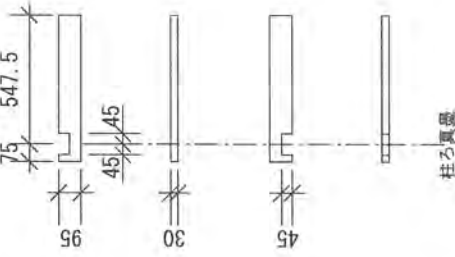
床板⑦



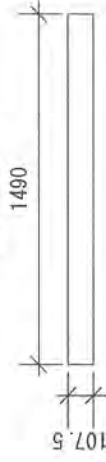
床板⑧



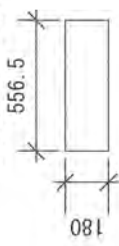
床板⑨



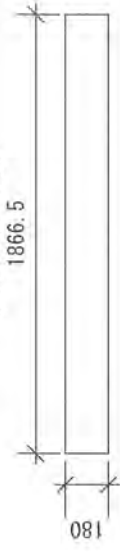
床板⑩ × 2枚



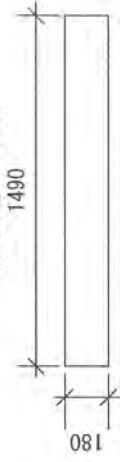
床板⑪ × 6枚



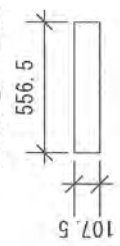
床板⑫ × 3枚



床板⑬ × 6枚



床板⑭ × 2枚



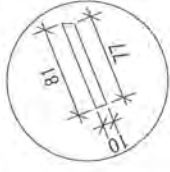
床板⑮ × 1枚



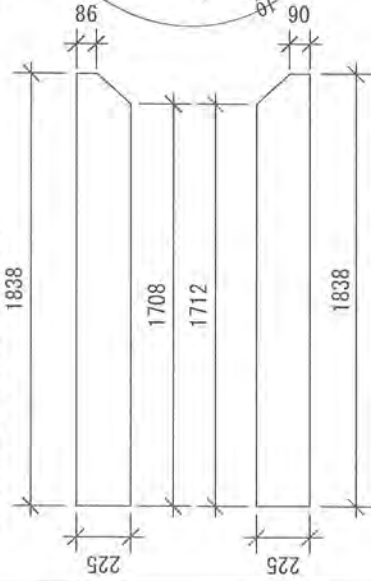
野地板① (下屋根東側)



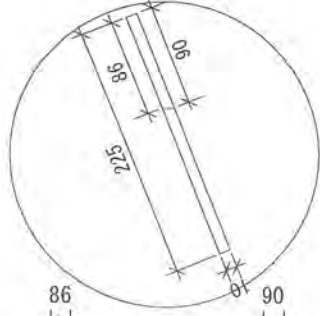
野地板① 詳細図



野地板② (下屋根東側)



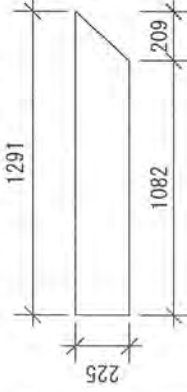
野地板② 詳細図



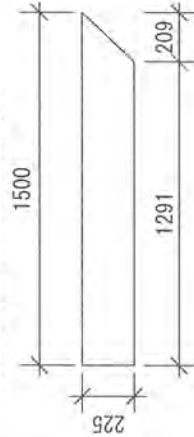
野地板③ (下屋根東側)



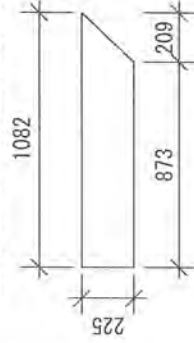
野地板⑤ (下屋根東側)



野地板④ (下屋根東側)



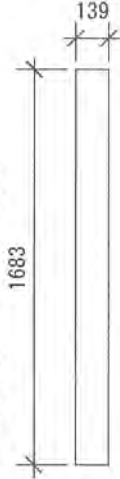
野地板⑥ (下屋根東側)



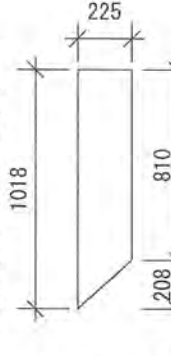
野地板⑦ (下屋根北側)



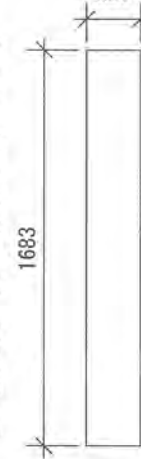
野地板⑫ (下屋根北側)



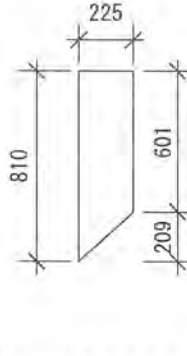
野地板⑧ (下屋根北側)



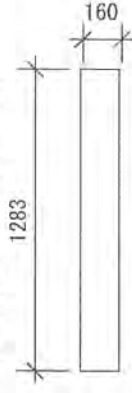
野地板⑬ (下屋根北側) × 4枚



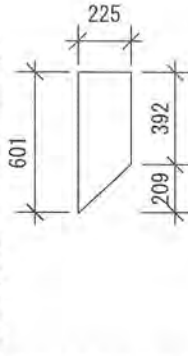
野地板⑨ (下屋根北側)



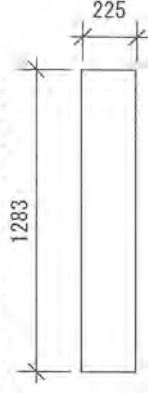
野地板⑭ (上屋根南側)



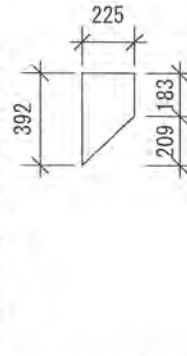
野地板⑩ (下屋根北側)



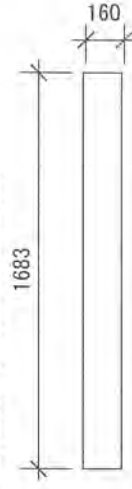
野地板⑮ (上屋根南側)



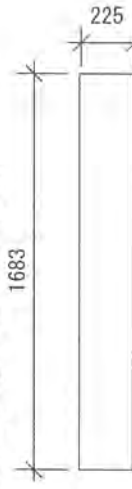
野地板⑪ (下屋根北側)



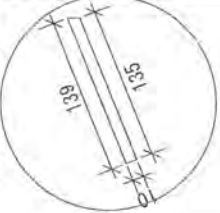
野地板⑯ (上屋根北側)



野地板⑰ (上屋根北側)



野地板⑰、⑱ 詳細図



【瓦割】

母屋の両端柱間は真々で10515 (柱口30) …去年データ  
両端軒幅の出500ほどとる。

軒平方向の材の発注は、4\*3M

端落しを最低50として、

4000-50\*2=3900

3900\*3=11700 ←最大の長さ目安

瓦のきき幅：265

きき足：235

両ケラ半分：230

・軒部分一両瓦座間を11590とする

(両瓦座間：230\*2+265\*x ≤ 11700

X = 42 のとき、両瓦座間は11590

43 のとき、11855)

・流れ部分→2220とする

現在約2220mm

瓦10枚の時、

233\*9+105=2220

【瓦枚数】  
(42+2)\*10

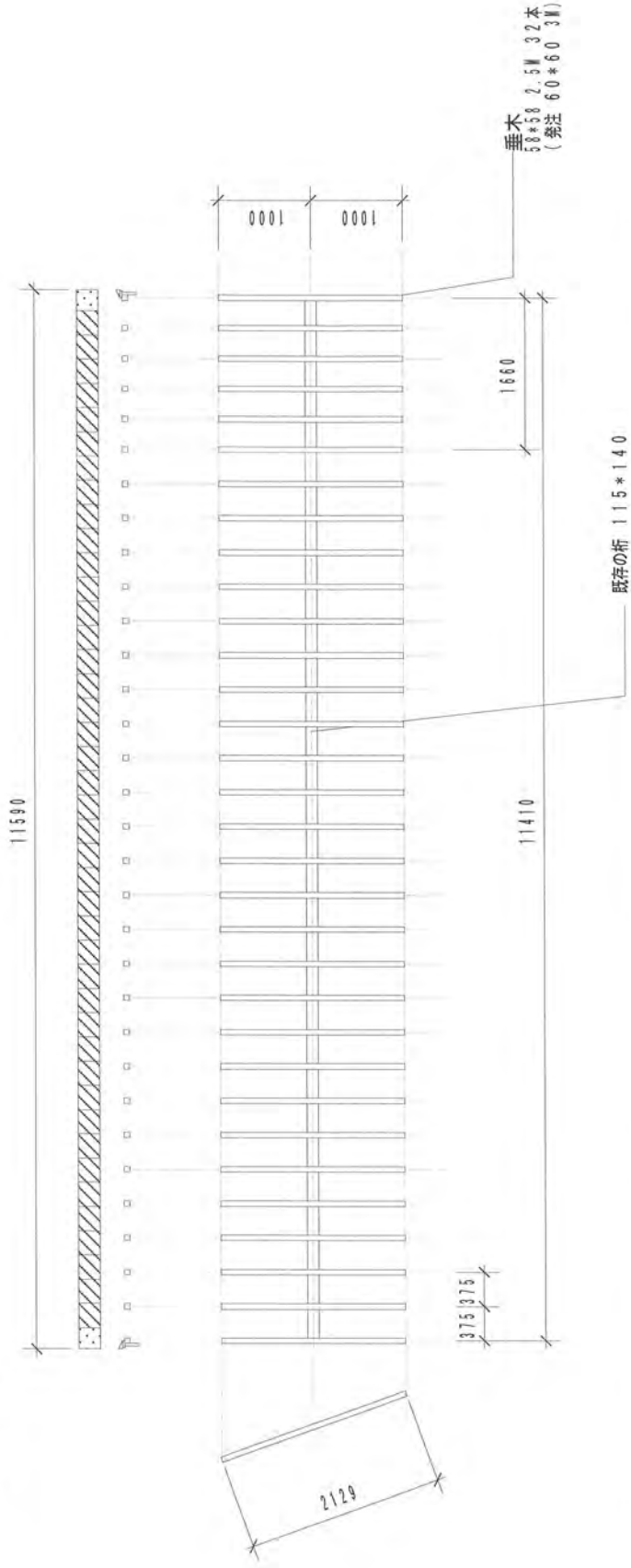


以前は垂木スパンを尺二寸(363)としていたが、軒の長さを訂正したため、  
垂木スパンを尺二寸五分(375)とした。

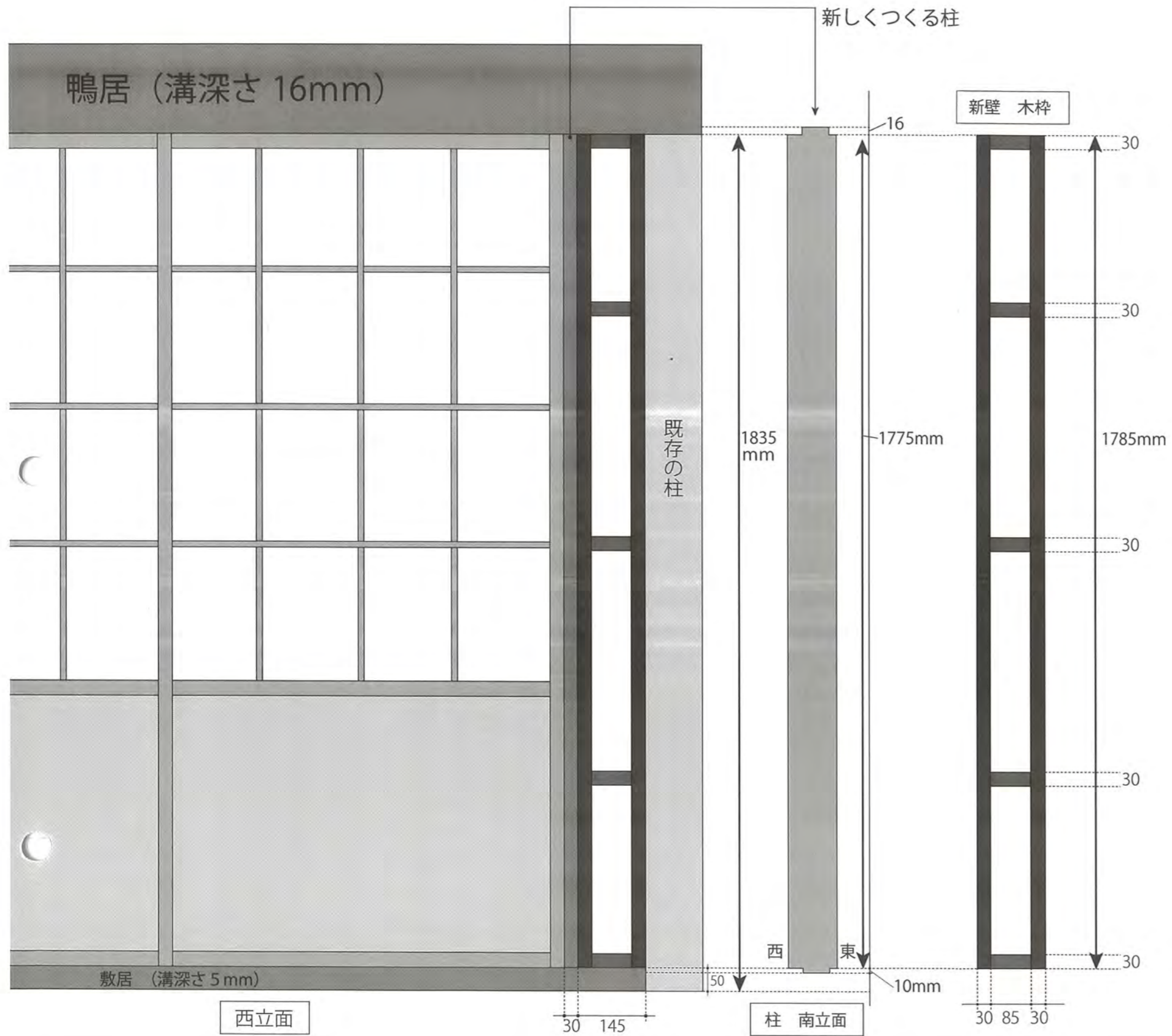
端部5支分のみスパンを変更(332)して均等に見えるように調整する。

既存の壁位置とそれに付く垂木はとりあえず無視してある。

軒の出は、既存の庇の軒の出とほぼ同じに設定した。



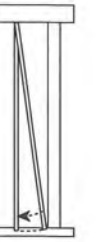




北部屋南側扉の南横にできる隙間を埋めるため、新しく壁を作る。

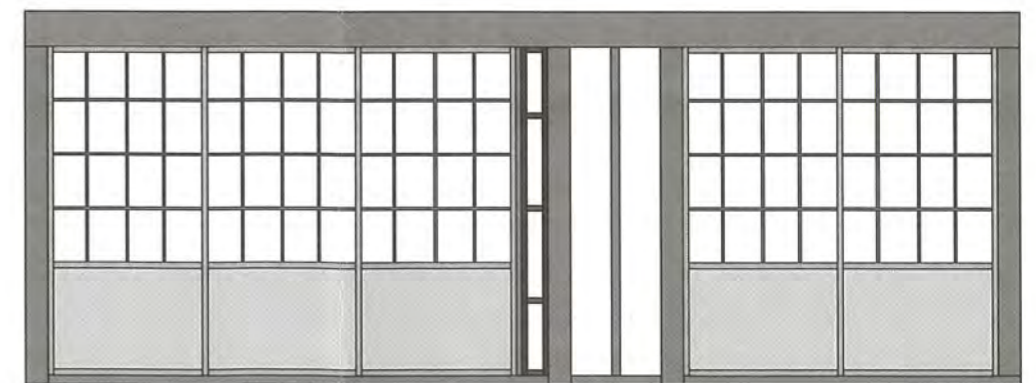
【施工方法】

- ①柱を作る
- ②鴨居・敷居の加工をする。
- ③柱を、鴨居側をはめて、敷居側はスライドさせて入れる  
(うまくいかない場合は、敷居の溝を彫る or 柱の鴨居側の仕口を加工する。状況判断。要相談。)※垂直厳守!
- ④木枠を入れる。固定する。
- ⑤新しい柱と既存の柱の間を埋めるように石膏ボードを加工し、はめる。  
(柱間のゆがみ等は石膏ボードで吸収する。現場あわせ。) 石膏ボードを木枠に打ちつけ、固定する。(西面・東面)
- ⑥石膏ボードに、土壁風仕上げ材を塗る。

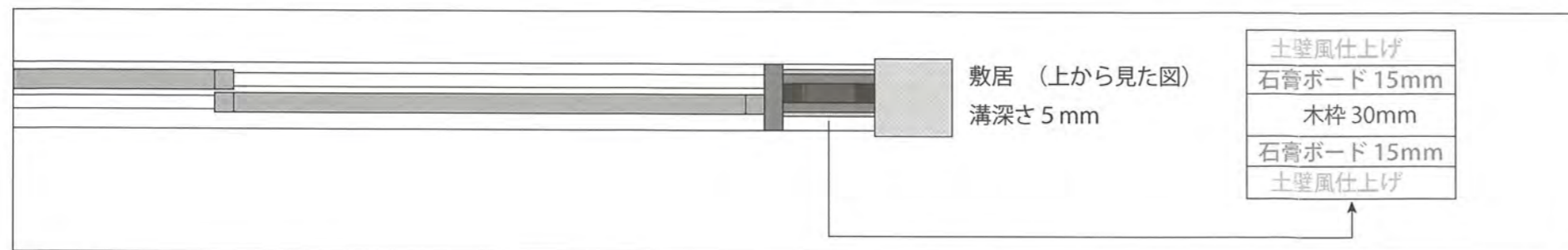


木枠のポイント

- ・横材は、おおよそ等間隔であれば良い。
- ・もしも既存の柱の傾きが著しい場合は、その傾きを吸収するようにする。(現場あわせ) ※北側の縦材が垂直となるのは厳守



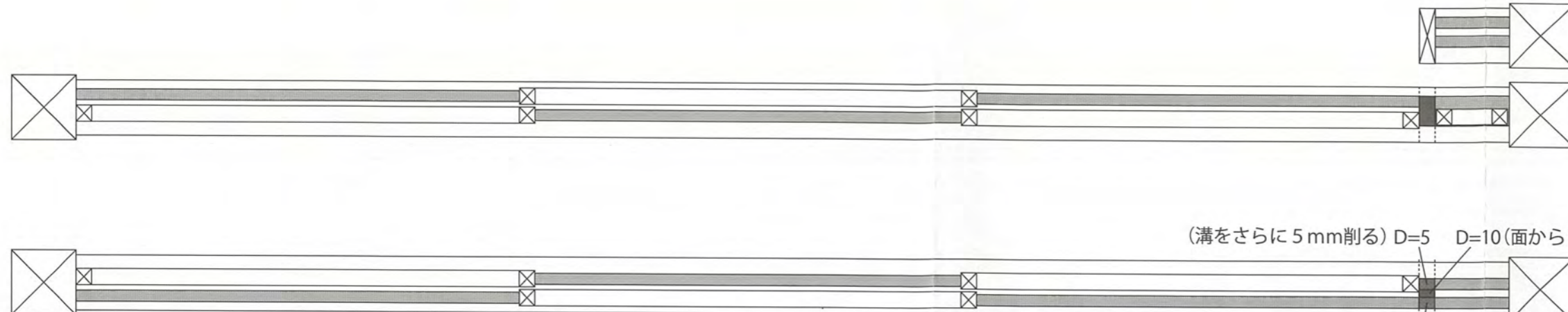
↑ 西立面  
↑ この部分





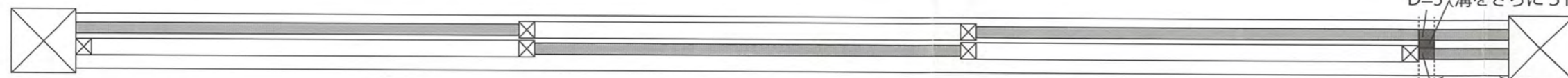
鴨居

鴨居 (下から見上げた図)  
溝深さ 16mm



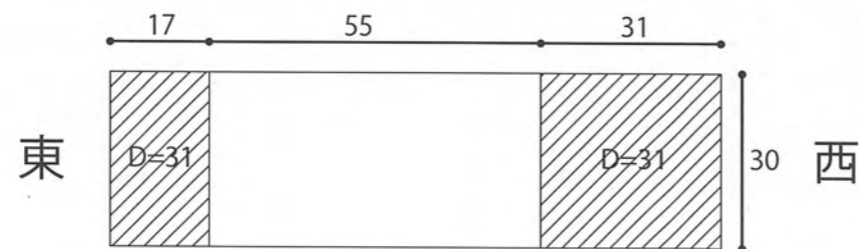
敷居

敷居 (上から見た図)  
溝深さ 5mm

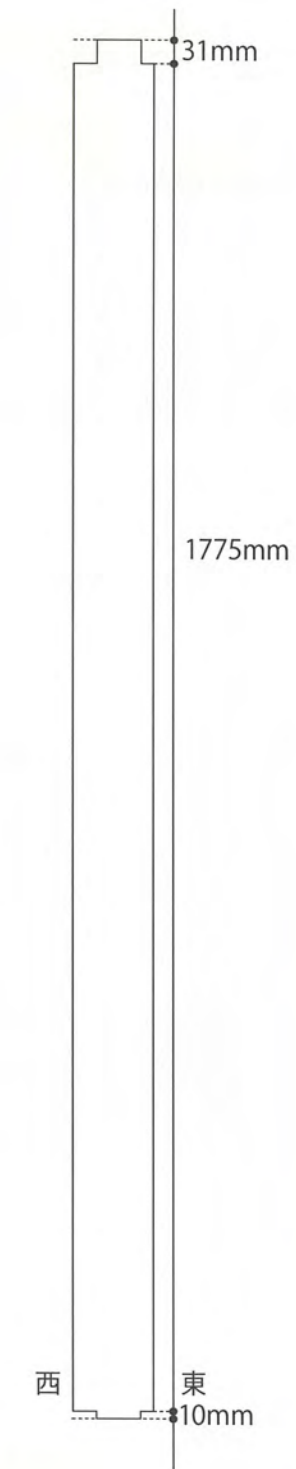
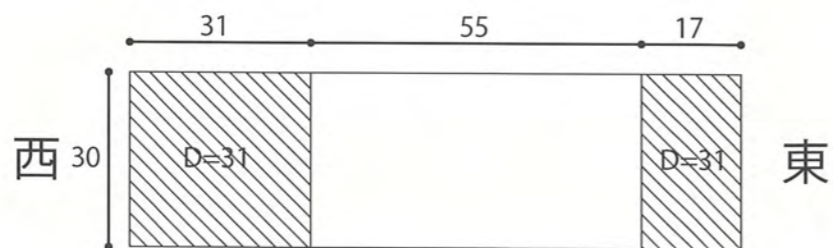


(溝をさらに 5mm 削る) D=5 D=10 (面から 10mm 削る)  
145  
(溝をさらに 5mm 削る) D=5  
D=10 (面から 10mm 削る)  
D=5 (溝をさらに 5mm 削る)  
145  
D=5 (溝をさらに 5mm 削る)

柱 仕口 (鴨居側)



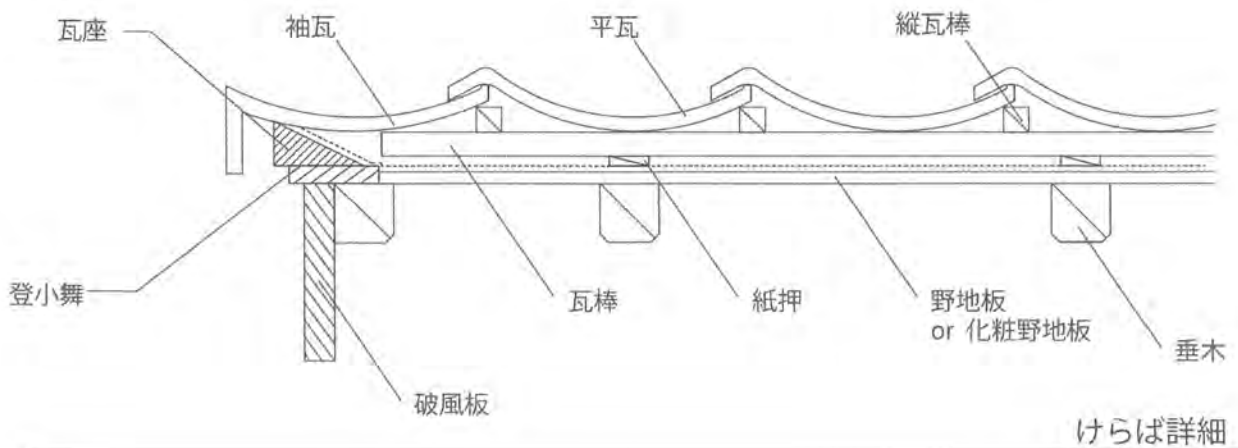
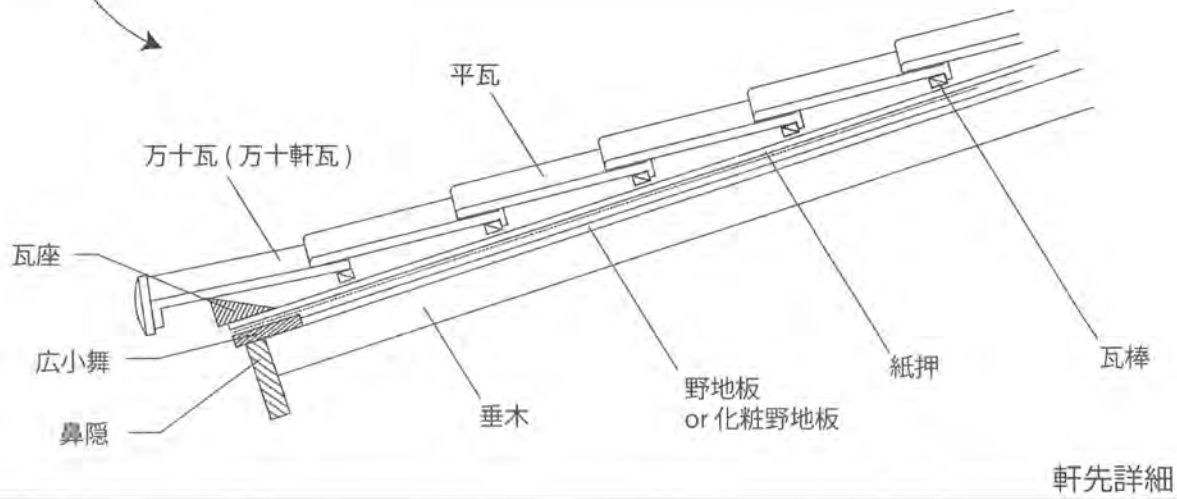
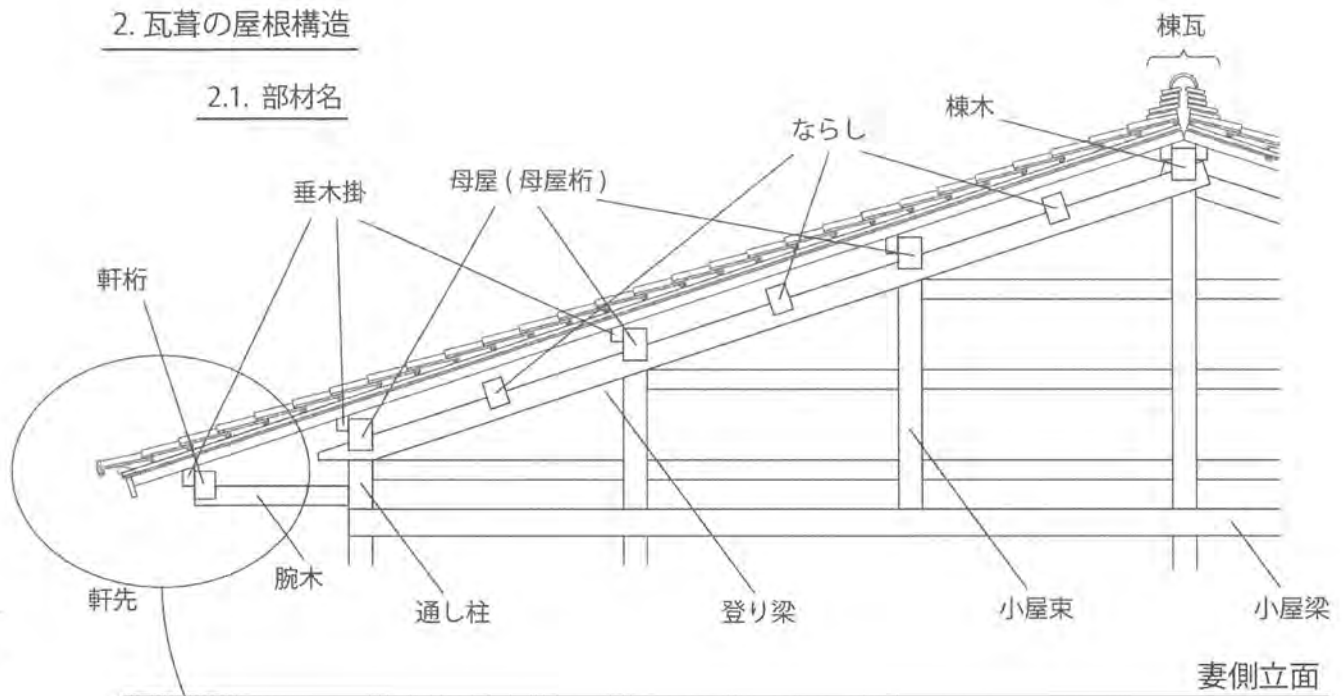
柱 仕口 (敷居側)



柱 南立面

## 2. 瓦葺の屋根構造

### 2.1. 部材名



## 2.2. 各部材の概説



### ※取り付け順

小屋梁：小屋組を支える梁。一番外側にあるものは妻梁とも言う。既存。

小屋束：小屋梁の上に乗る垂直部材。母屋や棟木を支える。既存。

登り梁：斜めに架けられる梁。棟木と母屋を支える。既存。

棟木：屋根の一番高い位置にある部材。一部取替え。鎌継。

母屋：棟木と平行に配され、垂木を支える部材。既存。

腕木・軒桁：一番軒に近い母屋を軒桁（鼻桁）という。それを支えるための水平部材が腕木。

腕木に軒天井が載せられる。既存。

雲筋：母屋が歪んでいては垂木掛を取り付けられないので、それを補正するための斜め材。新設。

垂木掛：母屋は既存の垂木に合わせて切り欠かれており、新しく垂木を載せることが難しいため、母屋の側面に取り付けた材。垂木を載せるため、屋根勾配に合わせて上面を切り欠いている。新設。

垂木：登り梁と平行に、垂木掛の上に等間隔に載せられる材。この上に野地板を載せる。取替え。

ならし：母屋間の間隔が広いので、垂木を補強する目的で母屋と平行に取り付けられた材。

垂木にぶら下がる形で取り付けられ、垂木同士を接続することで強度を上げる。新設。



野地板

面戸

垂木



広小舞

登小舞

破風板



野地板

裏板

#### ※取り付け順

破風板：母屋の木口を隠すために取り付ける材（木材は木口から傷みやすいため）。取替え。

鼻隠：垂木の木口を隠すために取り付ける材。たぶん新設。いい写真見つからなかったですゴメンナサイ。

面戸：垂木掛と裏板の間のすきまから動物などが屋根裏に入り込まないように、垂木同士の間にはめ込んでいく材。本当は登り梁と垂木の間のすきまにも取り付けるべきだけど、今年は見送ってます。新設。

広小舞：垂木の上、端から少しはみ出すように母屋と平行に取り付ける材。

広小舞と登小舞で野地板及び裏板を取り付ける全体の枠のようになります。取替え。

登小舞：一番妻の外側の垂木からさらに外側に少しはみ出すように垂木と平行に取り付ける取り付ける材。

広小舞と登小舞の接合部は要注意。取替え。

野地板：垂木の上にのせる板材。野地板と裏板は枚数ではなく面積単位で発注する。取替え。

裏板：化粧野地板とも言う。裏側から見える部分に使う野地板。ふつうの野地板よりもいい感じの材で、しかも初めから相じゃくりや反り防止の加工がしてある。取替え。





※取り付け順

ルーフィング：防水シート。保管する時は立てて保管する（横にすると折り目がつくおそれがある）。

紙押：ルーフィングに直接釘を打つとその穴から水が入り込むおそれがあるので、そうならないようにルーフィングの上にあてる材。垂木と平行に取り付けることで、水の流れを止めないようにする。

瓦座：広小舞、登小舞の上へのせる材。瓦を隙間なく支えるために三角形の断面をしている。

瓦棒：瓦の爪を引っ掛けるために母屋と平行に載せる材。取り付け時はルーフィングではなく紙押の上から打つ。取り付けの間隔は瓦の寸法で自動的に決まる。

縦瓦棒：紙押と平行に取り付ける名称不明の材。

普通はない材らしいですが、瓦屋の安江さんが編み出した方法。

間隔は瓦の寸法で自動的に決まり、これと瓦棒で出来た四角形ひとつに瓦1枚があてはまるため、誰でも瓦を並べていけるといふ、素人向けの方法っぽい。



#### ※取り付け順

万十瓦：軒先の端に取り付ける瓦。瓦座との隙間をうめるためにプラスチックの部材を取り付けてからのせる。

袖瓦：妻の出の端に取り付ける瓦。反りの仕方が似たようなやつを並べないとグラついて微妙なことになるので注意が必要。

平瓦：一番枚数の多い、比較的平べったい瓦。写真のように最初からできるだけ屋根の上にあげておく。

時々取っ手みたいなやつがついてる奴がありますが、それは雪止めです。

実際の寸法と見え寸法があり、多分重要なのは見え寸法。

素丸：本来は使う瓦の寸法に合わせて屋根全体の大きさも決定されるが、今回は母屋切りがうまくできなかったことや、使う瓦の寸法が直前まで分からなかったこともあり、瓦寸法と屋根の大きさが合わなかった。

なので、平瓦をそのまま並べるだけでは袖瓦とぴったり合わないの、袖瓦のひとつ隣の列の平瓦を切って大きさを補正した。その継ぎ目を隠すために取り付けられた半円筒形の瓦を素丸という。

軒の一番端にくるものを巴という。(写真なかったですごめんなさい)

土：名前忘れました。瓦屋さんが売ってる専用の漆喰みたいな土。

土を盛りすぎるとそこから水分が染み込み、雨漏りの原因となるので盛りつける量は細心の注意を払う。

熨斗瓦：棟瓦の下側に5層ほど重ねる瓦。それぞれ角度が決まっている。



# 京都大学・京都工芸繊維大学・金沢工業大学チーム

はじめまして

通称京大チームです。

京大チームは、京大大学生 30 名

京都工芸繊維大学生 15 名

金沢工業大学生 6 名の学部 1 回

生から修士 1 回生まで前後期に

分かれ 30 名程で活動しました。

2013 年度の京大チームの制作物

は、2011 年度から引き続き携わ

っている古民家の改修工事です。



## 2011 年度 大屋根改修

改修初年度は、参加全大で大屋根の改修工事を行いました。垂木以上をほとんど全て取り替える大きな工事であった事、初めての瓦屋根の作業や既存の改修という事で苦労は大きかったです。その分多くの事を学びました。

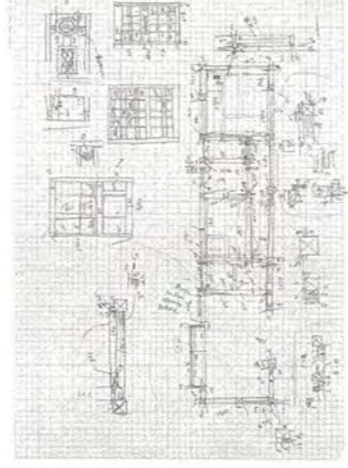
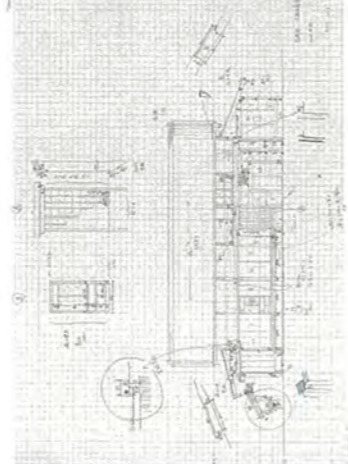
## 2012 年度 西側下屋根改修

2 年目の昨年度は、京大チームのみで西側下屋根の改修工事を行いました。2011 年度に学んだ事を活かしながら作業を進めました。この 2 年間でまだ未熟ですが、屋根の事、瓦の事、既存の改修の難しさ等を知る事ができました。

そして、今年度は・・・

幹部で何度も現場を訪れ、実測や改修箇所の検討を行いました。その結果、母屋と離れを繋ぐ渡り廊下の柱が腐って石から浮いてしまっている事、またその隣の増築部分も同様である事がわかりました。その他、渡り廊下が挟んだ山と田の綺麗な景色が現状の渡り廊下が塞いでしまっている事、下級生が屋根工事以外の知識を得ていない事などによって今年度の改修箇所は決定しました。

実測時の図面→



## 渡り廊下



母屋

離れ



### 解体

8/10～14で渡り廊下と増築部分の解体を行いました。中庭から向こうに広がる山々が綺麗に見えます。



### 基礎

独立基礎を制作する予定でしたが、地盤の弱さ等のために急遽コンクリートを全面に流しました。



### 加工

伝統木造構法をできるだけ使うように頑張りました。ノコギリやノミや玄翁を使う作業は危険ですが、下級生は上級生に教わりながら作業を進めます。



**建方** 改修のため作業場所が狭かったり、解体後に既存の柱が腐っている事が判明しました。



**完成** 予定していた工期を延長していましたが、9/6にやっと完成しました。



## 土壁

初めての土壁塗りの作業です。左官職人さんに教わりました。

8/21 小舞掻き



8/27 内側荒壁塗り



竹と藁縄で格子状に竹小舞を編今回は荒壁塗りで、内側のみのんでいきます。既存の柱と、新作業です。事前に制作した罫板に建てた間柱の間が土壁になると金罫で土を塗っていきます。ります。想像していたよりも作初めてながらも見よう見まねで業のスピードがはやく、2時間塗りますが大変難しかったです。余りで小舞掻きの作業は終了し職人さんの技術力にあらためて驚きました。



9月中旬に外側荒壁塗りをを行い、10月中旬に中塗りをを行い、最後に仕上げ塗りをして土壁は完成です。

## 板壁・柱の取り替え



渡り廊下の解体が終わってから、離れ側の柱のシロアリの被害を発見しました。ジャッキで持ち上げて柱と土台を挿入した後、板壁として渡り廊下や母屋に馴染むようにしました。



# 加子母木匠塾 滋賀県立大学

## 地域と共にある加子母木匠塾

加子母木匠塾では、毎年村から出てくる要望に応じて制作を行う他、加子母木匠塾として数年をかける制作などがあり、加子母の方々に使っていただくという意味では加子母の方々が施主である。施主の求めることと自分たちの意見をすり合わせる事が求められます。その他に作業現場には周辺地域の人が足を運んでくださったりサマースクール期間中には地域の行事に参加することで加子母の文化や人々との交流にもふれ合えます。

## 活動内容

今年で22年を迎える加子母木匠塾。参加大学は7大学、約300人の学生が集まり制作物の施工や交流を行う。制作にあたっては加子母村の工務店が各大学を担当・指導していただき設計のアドバイスや発注のサポートをしてくれる。

参加年度の活動場所は松屋という古民家で行った。また毎月幹事会という集まりがあり各大学の進行状況や交流・作業などを行う。

## 松屋



もとは人に使われてない空き家であったが家主が加子母むらづくり協議会(※1)に譲っていただき、5年前から京都大学チームが改修を行っている古民家です。同時にこの家のことを「松屋」といい、学生たちが手を加え、最終的な松屋の利用の仕方はサマースクール中やOBOGの人たちが気軽に使える宿舎・地域の人が利用する集会所・観光資源のひとつとしての利用があります。ここ松屋には作業中などに周りの人が様子などを見に来ていただき、地元の人との交流経験もできます。

※1. 加子母むらづくり協議会  
…加子母村と学生を繋いでいただいている会のことで、主に伊藤さんという方が工務店や現在の宿舎の管理などを行っている。

## 制作物

2015年度 五右衛門風呂小屋

2016年度 トイレ改修 / 離れ内装改修

2015年度制作物 五右衛門風呂小屋



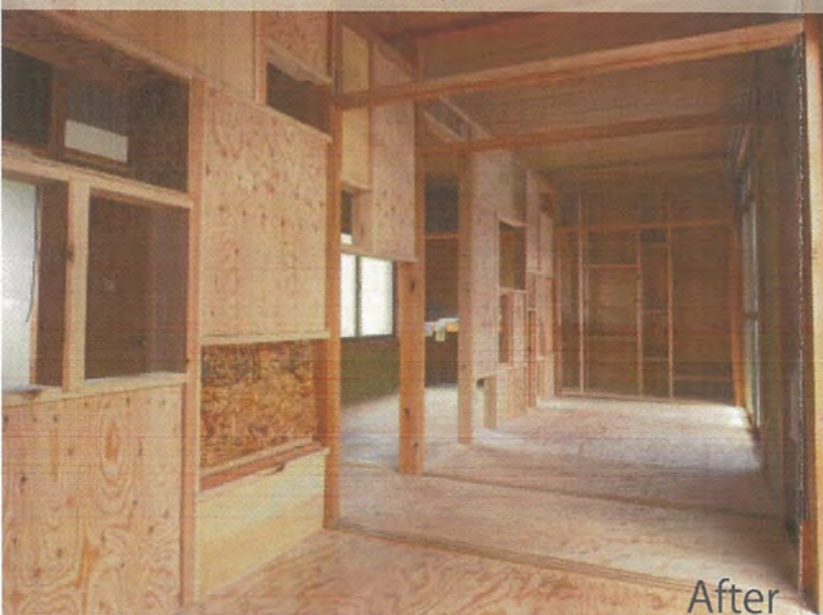
加子母村の特産木「東濃ヒノキ」を躯体に使い、釘などの金属を用いない伝統工法の加工だけでくみ上げていった。また建具の制作も行い、無双窓を制作。無双窓からみえる加子母の山々は心地よい入浴のひとつになるだろう。

2016年度制作物 トイレ改修



既存のくみ取り式トイレでは狭く使いにくいことから改修が依頼され、広くて綺麗で快適なトイレを目指して設計・施工を行った。毎月の幹事会時に作業を行い中島工務店 佐々木さんや安江設備さんの協力・指導のもと完成した。

2016年度制作物 離れ内装改修



離れの16畳分を改修した。改修にいたり昨年度の制作物の五右衛門風呂の脱衣所やトイレへの動線を意識して設計した。また16畳の空間を分ける中心の壁には遮る壁の機能のほかに椅子・棚などのインテリアを取り入れ壁から飛び出す家具を制作し、開口を設けることで視線のつながりや風・光のみちも同時に確保。壁中心にコミュニティが広がる空間である。



付録資料Ⅲ 加子母空き家関連資料

①聞き取り調査表

②空き家分布図

名前	佐藤 正	年齢	63	調査日	2016/6/22
役職	加子母総合事務所元所長	調査場所	加子母総合事務所		

### ・松屋が木匠塾に使われるまでの経緯について

住んでいたのは15年くらい前。2棟家があり、行ったり来たりしていた。親の調子が悪くて行っていたが、生活用品をほとんど残していたので、自然に空き家になってしまった。後に映画のロケに使われた。恵那の方で話が進んでいたが、中津川市が一箇所でもやって欲しい思いがあったので、総務省の人が探していて、加子母当時加子母総合事務所に勤務していた自分（佐藤氏）に白羽の矢が立った。ただし片付けもしてなく、生活の拠点としてそのまま大丈夫かという感じだったが、向こうが片付けるとのことだった。屋根とかそれとは関係なく、その時に屋根とか雨漏りもしていたので、そろそろ壊さなきゃいけないと思った。どのみち壊さないといけないから壊そうと思っていたから、解体しようと思っていたらロケが入ってしまった。ボトボトと雨漏りはしないからまだ大丈夫と思ったので、また迷惑もかけてしまっていたので、少し解体の日を伸ばして3年ほど放置しようと思っていた。そしたら壊すくらいなら木匠塾に提供していただけないだろうか、事務局に勤務している伊藤くんから話があって、どうせ壊すものならいいと思って許可した。自分としては壊したつもりで、使えるならと思って提供した。勉強になるかわからないよとは話をした。伊藤くんはそれがいいと言った。自分としてはどうなるかと良かった。しかし、東京にいる兄がいるので許可を取る電話をしたら、いいよと言ってくれた。愛直のあるものが形を変えて残るのは嬉しいと言ってくれた。どうしてくれてもいいからと念を押して話をした。木匠塾もお金がないと思うので、維持費は私が払うよと言った。実際もう一度見たら水漏れがしていた。また腐ったところが確認できた。まあ最初は屋根の改修だろうと思って改修した。その時は木匠塾全員での改修だった。話があってから、次の年にはもう改修した。返事をしただけであとは伊藤くんがしてくれた。そのあと命というドラマがあって、それにも使った。その頃にはもう木匠塾が全て管理している状態だった。

### ・松屋を提供する際の考えについて

まず最初は何にしようという思いはなかった。学生だからあまり期待もしていなかった。釘もまともに打てないような学生がどうこうできるとは思っていなかった。なので彼らの勉強になればと思っていた。でも満広くんがそうはいかないとは言ってくれたけど。そしたら屋根が思いの外立派にできてしまった。いろんな人から話があり、木匠塾が考えるでしょとは思っていなかったが、最近はそうもいけなくなった。それで考えたのは、加子母は宿泊施設が少ない。普通なら旅館な民宿があって最近は泊まれるわけだが、3件ある宿泊施設は一つは高級で気軽に泊まれない。もう一つは安いけど去年旦那さんが亡くなってしまった。あと一つがふれあいの館。館も本来宿泊施設ではない。民宿をやるのは不可能なので、ふれあいの館のような旅館業法に引っかからないようなちょっとした滞在ができるといい。少人数だと館はでかくて使い勝手が悪い。持て余してしまう。松屋は少人数で使えるのではないかと。あと木匠塾が囲炉裏をサプライズで直してくれた。なかなか今囲炉裏を体験できることはないのだから、僕らでも囲炉裏は小さい頃使っただけなので、若い人はなおさらだと思う。松屋は一般的な田舎の農家の家。昔は人はあやう家に住んでいた。今だとリフォームでほとんど変わってしまっている。まあだから体験することで、昔の暮らしを体感できたらいいと思う。気軽に自己責任で泊まっていただくといい。今風呂を壊してしまったので、（木匠塾が）。。。京大の中でも思いはいっぱいあるが、当時の3,4年の思いと今の学年は思いが違う。つまり一貫性がない。その場の興味と思いで進めてしまう。一昨年の総幹事の品川くんに最終的にこうしたいというものを作ったらいいのではと提案した。一応そうやってるとは思うんだけどね。



**・松屋の管理について**

今定住推進で、空き家を改修しているので補助金が出ている。その関係で今年には終わらせないといけない。あそこの近くはお風呂は付知にある。食事食べ物も近くにある。とりあえず今の状態でも食事はできる。あとは宿泊して寝ることだけでできれば、何とかなる。今土間になってるとこは大丈夫なの？とは思わうが。水回りがまず大変。キッチン、トイレがまだ途中。前はトイレが汲み取りなので、直している。とりあえずトイレあれば何とかなる。ただ管理を誰がやるのという問題。どっかで誰かがわかってないといけない。今NPOは誰もいない状態。受付もできない。事務所の事務局があるので、そこに電話するしかないと思う。掃除とかは客の自己責任で。水道でも下水でもお金はかかるので、宿泊料金はもらわないといけないと思う。NPOがしっかりしてくれば、今後の管理もできるのでは。結構お金もかかるので。今は寄付かな。当分は僕の管理。まあ管理はお金のみだけど。仏壇をあとどうにかしないといけない。別に置いていてもたまにきて管理すればいいだけなんだけど。使うときは閉めりゃいいだけ。とりあえずバチは当たっていない。僕としては今回の改修ありがたい話。本来解体なら500万かかってしまう。本当に助かっている。今水道固定資産税等含めて、24万くらい。結構あそこは宅地なので、それくらいかかるかな。定期的な状況はたまーに1月に一回家の管理で見に行く。改修作業を見ている訳ではない。僕が見ていると学生もやりにくいと思うので。学生自体は挨拶に来てくれる。何か持って来てくれる。それはいいんだけどなるべく関わらないようにしている。今は満広くんの思いで、やっていると思う。区長さんからの情報伝達事項が色々あるが、上会という情報交換の場があって、月ごとに場所が変わってやっているので大変。なので上会の場所に使えばいいのではと思っている。他の班は班ごとの集会所を持っているがこっちは持っていない。班の真ん中にある松屋は丁度いい。でもあまり使用目的を限定しないほうがいいのではとも思っている。加子母のどっかで寝泊まりできればね。荷物は全部木匠塾が処理したので、生活感はいい意味で消えた。昔の家の行事は家でやっていた。だから一人一人の御膳を50くらい各家が持っていた。昔はそれが一つの宝物で、それが片付けでできた。でもまあ捨てるのも何だから一応残しておく。でも出すの大変なんで、使わなくなっている。50年くらい前からかな。昔のお椀は漆で綺麗に塗られてた。今買うと高い。だから多分今も残してある。多分。改修前の平面図はどこの古民家も持っていない。だから、図面は全て木匠塾が管理している。昔は棟梁さんの頭に図面が入っているから。木は全て加子母の木でできているだろうね。でも檜は使っていない。一般の家庭は檜は高く使えない。大黒柱でも松の木。ちっちゃい頃は囲炉裏があって、今の周りは昔の戸だった。それが燻されて、大黒柱は毎日拭かれて光っていた。女の人の仕事だった。柱が光っていた。塗装をかけた感じ。

**・松屋の活用法について**

基本は木匠塾が使うと思う。でもそんな頻繁に使う訳ではない。幹事会があっても各大学が集まったら館使うからね。そうすると使わなくなる。とするなら学生に限定しないで、体験住宅として使うといい。館は市のもので、こうしちゃいけないというものが色々ある。そういう意味では松屋は使いやすいと思う。ロケーションもいいしね。家がズーッと見えるしね。加子母に来て下呂温泉まで行くの大変だしって人が行けるといい。でも人が多くなると管理誰がするんやという話になる。ある程度賃金が出るボランティアのようなもの。今桂川さんいるけど。前半後半で交代なので、管理まで手が届かない。でもまあ木匠塾が管理してくれているうちはいいと思うけど。木匠の管理はほぼ伊藤満広さんがしている。まあ最低限の指示はしているけど。大変だよ。大学も増えたからね。泊まるところも大変。今現状は松屋は泊まれない。小動物も入って来るからね。近所の猫とか。でも今年には何とかできるようになると思う。で、あちこち板が割れてるところがあるから直してくれてるんじゃないかな。加子母の人以外の方が泊まってくれるといいんだけどね。最初1年だったのを2年に伸ばしてくれた。成功すれば、モデルとしてできる。でも市も加子母にお金ばかりかける

訳にも行かないので、まあこれが終われば、とりあえず、他に行くと思う。加子母も結構佐野くんも住み着いちゃったし、武蔵美術大学の子も空き家に住んでいるし。この仕事を手伝いながらやっている。佐野くんはたつき建築でやっている。うちの地区は作業が多い。

### ・地域のイベントについて

地域で集まる場はあまりない。そういうので集まる。例えば、環境デー、みんなで飲むとか。井ぶしんがあった。昔は水路を作ったり、水を使うのを井戸でまかなっていたからいぶしんという。その時に水路の掃除とかをやる。朝の8時から夕方3時までやる。小郷中の水路でやる。水一旦止めないと掃除できない。そのあとどこの班もBBQやる。でも小郷はそれじゃ寂しい。春祭りはあるが。信者のための祭りだから。なめくじ祭りもそう。みんなを集めるための祭り。秋祭りだけが、区民のための祭りにしようという話で、PTAとかがイベントとかやって、区ごとにくじ引き引いて場所として宴会をする。花見のみたいな。万賀はソフトバレーとか。うんの会の幹事だからその帰りとかはあるかな。それくらいかなーあ、でも上会では飲むけどね。別にそれぞれは付き合ってるからね。全体ではって話。名古屋から子供達が帰って来て遊ぶ。200~300人くらいにはなる。祭りが三つある。春祭り、なめくじ祭り、小郷の祭り。二つは地域の祭りでない。だから秋祭りをみんなの祭りにしようと言っている。前の日の夜は宮入やるんだけど、班長が松明灯して先導して、獅子を舞いながら行くんだけど、中々木匠の山車小屋もあって、子どもたちが山車を引く。それから午後三時に集まって飲む感じ。境内で飲む。まあ花見と一緒に。



名前	伊藤 満広	年齢	50	調査日	2016/6/24
役職	加子母総合事務所副所長	調査場所	加子母総合事務所		

### ・松屋が木匠塾に使われるまでの経緯について

まず木匠塾は平成7年にスタートしたんだよね。えー芝浦工大、東洋大学、京都造形芸術大学、千葉大学、京都大学、よーは先生たちが主導で学生たちの交流を目的にスタートしていて、森林の現状だったりとか、実態を知りながら木造建築を学ぶということでスタートしたんですけど、今年で22年目ということで、当時の先生もほとんど辞められてしまっていて、最初はゼミ単位で来ていたので、単年度単年度ごとに終わって行く感じ。ものを作るというよりも林業地に来て、えー見たり聞いたりして、っていう部分が強かったんだけど、ものづくりが強くなってくる中で、学生たちもリーピーターというか、3年4年来る人もいて、だんだん先生というか学生でうん絵するようになって来たんだけど、ほんと最初は100人ないくらいで、今は280人くらいになったので。

最初に製材所見るとか、山のこと聞くとか、工務店さんに木のことを教えてもらうとか、やっぱり建築やっている子達なので木を使ったデザインコンペとかやっていた。その中で拠点にしていたのが土合にっていう山の向こうにあるキャンプエリアがあって、崖くずれで車が通れなくなって、整備が頓挫しちゃって、その一なんていうか施主制度というか藤棚が欲しい

とかバス停が欲しいとかそういう地域の要望に対して村の方で15万補助するので、あとは学生たちで設計から施主さんとのセッションまでやってくという形でだんだん今の形になって来たんだけど。平成14年かな。ふれあいの館加子母。それまでは公民館だったりとか借りてたんだけど、色々不都合があって、ふれあいの館を当時の村長が、学生や女性たちが地域にいないと活性しないということで作ったんだけど。まあ想定より、大分小さくなっちゃったんだけどね。うん。その時は人数多くて150人で収まっていた。ベースとしては25人の6大学がベースやったんだけど、その一25ってというのがっていうのが、だいたい15万円の予算で、2週間でできる限界というか。まあ材料代だけなんだけど、それで15万超えてくるともう2週間じゃできないものになってくるんだけど。期間もね。ただ空き家改修については今年で7年目なので、2010年にたまたま今の佐藤さんたちが映画のロケで使われてその時キレーに片付けられたので、その時に活用させていただけるということで、オーナーさんから了解を得られて。まず最初に屋根が、こう落ちかけとったんやよね。まず屋根直さない、下構っても仕方ないということで、その年は全大学で屋根を改修して一。で毎年順番に北面、南面、東面っていう風に順番に直してきてるんだけど。それでももう20年近く木匠塾も歴史があったので、要はOBたちが社会人になっても使われるところを作ろうということで始めたんだけど。ちょうどその頃から市町村合併をしていて、学生たちが社会人になってもこれるゲストハウスにしようってなったんだけど、3年が4年、4年が5年となって、夏の2週間で空き家を改修するというのはスケジュール的にもかなり無理がある。で、去年のOBができなかったことを今年もやりながら毎月きてやってはいるんだけど。日々の工務店さんがやれば早いと思うんだけど、木匠塾が中心としてスタートしているので、地域の方も焦らずというか、見守ってるんだけど、地域としてももう手かけ始めてから、7年経ってしまっているんで、今年は完成させようとやっている。

### ・空き家を扱う上での問題点

空き家の改修というのは掃除とかで1週間かかっちゃうくらいなので、オーナーだったとしても使い手の人とどこまで、あてが決まってくればいいんだけど、あてが決まらないまま、手をつけられん。どっちが先かって話になっちゃうと思うんだけど。そういったところが事情が実際ある。空き家になっちゃうと帰ってくる人がいなかったりとか、離れちゃってるだとか、そこに投資をするのは、具体的に誰が使うかはっきりしないとかなかなか手をかけられないところがあって。うん。ちょっと勿体無い家が何件



かあるんだけど、そういった事情で数10年経つとかなりの家の中が荒れてきちゃうので。松屋の時も学生たちと何件かみて回ったんだけど、やっぱり佐藤さんちは幸いとして全部使ってはなかったんだけど、ちょくちょく家に帰ってきて開けてたので、住まなくなって数年経過した家は加速度的に悪くなっていくのでなんとかしたいね。

### ・補助金について

補助金は空き家改修をスタートする時にふるさと回帰支援センターという有楽町にある社団法人なんやけど、副事務局長に木匠塾のOBがいて、東洋大学なんだけど、彼は加子母木匠塾に参加しとって、そのあと九州に行って九州ツーリズム大学っていう要は地域の活性化するNPOで活動しとって、そういった実績もあって、ふるさと回帰支援センターに入ったというか仕事としてやっていくことになって。今結構移住定住テレビで話題なってることもあるんやけど、たまにコメンテーターとしても出て、嵩和生くんっていうんやけど彼が、内閣府の事業で、その学生たちがインターンをやりながら空き家を改築してそういったニーズを今やっている事業みたいな感じで。それと学生たちと空き家改修を結びつけて、内閣府の事業やって、事業を採択してくれた。で本来お金はインターンの受け入れ側に対して入るお金なんやけど、実行委員会の方で指導料だったりだとか、工場の使用量だったりだとか材料代を地元の実行委員会の人たちが使わずプールしてくれて、それを何年も食いつぶしている状態。もう200万くらいは材料代。補助金制度とかも色々活用してちょこちょこやとるんやけど、空き家は個人の持ち物で公的なもの出なくて、所有権...あの一公的なものじゃないと補助金がかげにくいという事情があって、個人の財産を税金を使って、主旨は違ったとしても結局それが個人の財産を直すということになると公金を投資しにくい状況で。まず空き家の所有権というか誰が直してるかをはっきりさせないと、補助が受けられない状況。佐藤邸の改修についてはふるさと回帰視線センターの方で、ほんとは単年度で終わらなканのやけど、一応屋根で終わりということにして、あとはストックしたお金を使って手直しをしているという状況なんやけど。今年度については学生たちにできないとこ要は下水水道。で一応中津川市体験住宅っていう中津川市に住んでみたい移住したいっていう人を対象に空き家を改修したりする地域があれば最大100万円補助しますよという事業を作ったので、松屋をそういう中津川体験住宅っていう風に位置付けて、で下水水道工事をやってもらう。うん。

### ・下水工事について

下水工事は先行してやってもらって、上の配管は岐阜県の関市にあるメーカーさんなんやけど、メーカーさんが提供してくれて、指導してもらいながら来月一応やってもらえることになったので。そういう活動をしてきたおかげでメーカーさんも協力してくれて、あの一関係ないとおもったけど水道の配管ってたとえば新築が主なので、新しく取り付けるという形で部品とか設計するんやけど、リフォームとか老朽化してきて、後付けで配管して案件が増えてきているので、テストとしてというか、空き家改修での配管を設計するのは非常に参考になるということで、協力してもらえることになったんやけど。

### ・材料の調達方法

基本的な材料については製材所のみなさんがほんとに安く提供してくれて、指導も工務店さんたちがもう無報酬で、色々指導に当たってくれて、それをお金に換算しちゃうとすごいことになっちゃうっていうか。

### ・木匠塾の問題点

毎年済ましていくことが精一杯で、きちっとアーカイブというかそういうことができていない。現役の学生たちもあの一振り返ろうと思っても自分たちが参加して先輩に聞いた範囲はわかるんだけど、



ちょっとそこまで手が回らなくて。。

来月の幹事会に合わせて、7月にOB会を企画していて、10年前15年前に参加した人ももう結構な社会人で活躍する世代になってきたので、どんな形で木匠塾の取り組みをサポートできるか一緒に考えてもらえたらなと思って、今の現役の中にOBが入ってもらって、設計的な指導のことだったりだとか自分の進路決めてくことで、まあ設計事務所で働いている人もおるもので。

もうほんとにやりっぱなしになってきてしまっているのです。

### ・松屋の在り方について

松屋がプロトタイプという話やったんだけど、世界に新築が増えることはないやろし、さっきの築100年の家が空き家となって出てきているので加子母も5年10年で出てくると思うので、せっかく続けてきたので、早く手を打てればと思うので、それをやっていく仕組み、まあ財源的なものももちろんだし、地域の作法というか一個一個が工務店さんたちの仕事につながればいいと思うし、OBが改修のデザインをするとか色々繋げてくればいいと思うんやけど。

### ・制作の募集について

施主制度の時は地域に呼びかけていた。何年かやったんやけど、問題が出てきちゃって。奇抜すぎるデザインとか予算以上にかかっちゃって。最初のスタート段階では15万でスタートするんやけど、学生も欲が出てきて、施主さんもだんだん欲が出てきて気づいたら30万近くなってる。学生もデザインもやっているの。バス停を作るのをやってた時地域の人たちも学生も一生懸命の延長なので、学生の思う通りにやらせてあげたいっていうのがあって、一緒にやっている間は何も言わないけど。こんなもん作るはずやったけとかあったり。どうしてもメンテナンスが必要で、できなかつたら数年で使えなくなってしまう。例えば学校林で子どもたちが遊ぶやつなんやけど。活動できるフィールドにしようということで、材料代がでる事業があったので、デッキ作ったり、階段作ったりとか、まぎ小屋というか小屋を作ったりとかそんなような事業をやって。それから、それまで岐阜県の地域材を利用拡大、ある程度地域材を使えば、補助金が出ますよという事業があったので、その事業も活用しながらやってたんやけど、さっきの問題が当たっちゃって、作る制作物が個人の所有物だと県の補助金を投入するのは難しく、できるだけ公的な施設についてということで、それからは学校だったりとか、事務所の補強だったりとか、内装の木質化だったりとか、こういうところにちょっとやったかな。この事務所も3年くらいかけてやったので。財源がないんだけど、だいたい色々整備してきたというのもあったりして、夏に2週間30人くらいの学生が滞在して作るものと、地域の人が求めているものが違っていたりとかズレがでてくるので。ほんとに全く学生の創造性のない要望だったりとか。でも今度東洋大学が祭りの囃子をやる櫓をやるんやけど、それは祭りの時に組み立てたり解体したりするんやけど、構造的にはシンプルでそんなデザインできるものでもないんやけど、祭りっていう地域で使われるものなので地域の思いを大切にしたいということなので、かなり精度を求められるので、きちっとした精度で東洋大学がやってくれと思うんやけど。

### ・よかったと思うこと

結果的によかったのは、いっちゃいけないかもしれないけど、学生が運営するようになってからやっぱり全然違うので、そこは参加する学生にとって経験したことのない、他大学と調整しながら木匠塾として経験できるのはなかなかないと思うので、やはり地域もそんな手厚いわけではないし、ゼミと違う体験ができるのはよかったかなーと。学生たちは楽しいみたいなので。地域の方もこないしていくが精一杯で、どう進めていかしっかり固められてないのが、惜しいところなんだけど。ぜんださんって言って、孫ターンで富山に戻った子がおるんだけど、木匠塾において、ふれあいの館を管理しながらやって



ただけど。その時に京都府立大学の林学部やってて山のことで、加子母に来て生活してみたいって来て、学生たちと地域の人のおいもわかる中で、つなぎ役というかコーディネートしてくれたんだけど、それが今の体制の基盤を作ってくれたんやけど。

### ・データ管理と各大学の様子

データは各大学で管理している。各大学で受け継がれているかどうかは引き継ぎがうまく行かないので、毎年同じことを言わなきゃいけないのが、まあ仕方がないんだけど。何回かチャレンジしていたんだけど、工期中はそっちにかかりっきりで、終わったあとはそのまんまで。。

大学によって参加形態が違うので、京大とか東洋とかは極端な話大学院まで、5年連続で参加している子が何人かいるので、やっぱりしっかり考えているし、京都造形は長くても3年で、どうしてもブツブツと切れちゃうので。それはそれでいいというか、そんなに無理をしないので最初から。長く参加している人は去年を上回りたいということで、どんどんハードルが上がっていきんだけど。京都大学の布野先生が21から18年に滋賀県立に移って滋賀県立が参加し始めて、退官でもうこの辺で布野先生が出られたから。

### ・木匠塾の宿泊状況

空き家一軒借りて、去年京大チームが入って、今年東洋と名城が入るんだけど。下水も整備してあったので。雨漏りはするんだけど。所有者は中島工務店さんで、光熱費とかは、農林水産省が、そういう事業があって学生の滞在施設ということで光熱費はみてもらえたからラッキーだったし、網戸もなかったもんで、網戸なんかつけたりして。もしそのこういうところで空き家を活用、シェアというか空き家をどういう活用があると思う？

むらづくり協議会の中でも少子化検討委員会の中で考えているからあれやけど、なんか新しいものを生み出せるように空き家がなればいいと思うんやけど。

さすがに8大学200何人はキャパオーバーやて。交通事故怪我だけないようにするのが精一杯。学生が主体でやってるからとはいえ、そういう事故はすぐ噂になっちゃうので、かといって中津川市も域学連携で重要視しているっていても、そんなに女性してくれないので、社会人やったらいいんだけど、学生さんやから。市としても学生たちの力を活用できるように。何せ今武器がないからさ。理論武装できるだけの。そこきちっと整理して空き家の展望こうするんだっていうのを、総合事務所から示せば変わってくると思うし。



名前	桂川 研二	年齢		調査日	2016/7/23
役職	酒屋経営	調査場所	加子母総合事務所		

### ・ 少子化検討委員会への思い

少子化そのものもまだ長くないので、委員会の時もそうだったけど、まだ今回女性の委員会さんが子育て世代の茶話会をやった報告があったから、今の子育て世代が抱えている、特によそからきた人が抱えている問題だとか、人との付き合いで難しい部分をしてきてもらって、その報告があった。直接それが少子化の対策になるかはわからないけど、加子母における自分たちが、加子母について考えても、実は見えてこないことがあるわけで、むしろよそからきた、藤田くんもそうだけど、よそからきた人が感じるこのの方がむしろ正解だったり、僕らが気がつかないことが多いので、そういう意味では、子育てをしている、よそからきたお母さんたちの話は貴重なんだよね。そういうのは無視しては、いけない。時には「えー」と思うこともあるけどね。それは大事なことだと思う。少子化って言ってもテーマが大き過ぎちゃって、その、なかなかいろんな問題が出てくると、月に1回の会合で何ができますかとなっちゃう。結局空き家対策はチームに分けて、別で動く形でなってるけど、空き家対策が少子化にも繋がってくると思うし、もっと広い意味で村づくりに繋がってくると思うので、それは小さいことからでもコツコツ継続することが一番大事だと思うんだよね。これは僕の個人の考えで、少子化委員会でよくいうけど、あまり風呂敷を広げると、あれもこれもつまんだだけで終わるのが一番良くないと思っているので、何かを絞り込んで、そこにガツンと向かっていくスタンスでやらないとダメだと思うんだよね。ちょっと自分なりに、3人くらいに話を聞いてみて、空き家の持ち主さんの意識がどういうものかすごい興味がある。実は、近所の人で、年齢が70に近い人は、お母さんが20年前に亡くなられて、お母さん一人で住んで、その人は春日井に住んで見えて、向こうに所帯を持って見えて子供もみんな独立して、まだ会社に退職した後にはちょくちょく顔を出しててまだ、仕事はしているんだけど、みんな独立して、奥さんとこっちに帰ってきたらいいのにとっても、奥さんも今更、加子母に行ってもまら一から人付き合いを始めるのに抵抗があるみたいで、その人は、加子母にうちも山も田んぼもあるから、その人は、毎週土日帰ってきて、一人で田んぼとかをやってる。その人と話をしていると、加子母も空き家を持っている人は、そういう世代が多い。加子母を離れて年10年で、子供を育てて、定年されて、そっちで悠々とやっている。今更、加子母に戻るには、抵抗があって、奥さんの理解も得られない感覚の人が非常に多いことに最近気がついてきた。家の状態のアンケート自体に、抵抗がある。胡散臭さを感じているのかもしれないし、そういうこと自体を、田舎との関わりが煩わしかったりする人が結構おおい。そういう人の意識を何かどっかで、そういう人も後、30年40年後は、生きていないので、そういう人のお子さんたちは、加子母に愛着がない。その人たちは生活基盤が都会にあるので、そういうことを思うと、今所有者である人たちが、生存されているうちに家のことを、なんとかしないと見て見えることは間違いない。死ぬまでになんとかせんといかんなど。そういうところをもう少し掘り下げて行って、ちゃんと活用できるデータにしないといかん、アンケートとして終わっちゃって実際に活用できないデータだと意味がないので。とか、空き家の話はコツコツとやらな、なかなか進んでいかん。住宅の話でもそうだけど1ターン住宅とか、独身住宅とか、空きがあるけど、それを知らないし、加子母の人に情報がいかない。加子母の人に加子母の住宅を加子母の人によって、入ってもらいたいと思ってても今の状況ではできん。中津川市のHPでみてくださいとしか、情報後悔はしていないので。それはまずいんじゃないのと、少子化での話が出て、市に要望をしましょうと。たとえば1ターン住宅があいてれば、加子母に住んでみえる人が、都会から息子を呼び寄せるきっかけになったり、すぐにはできないけど、とりあえず1ターン住宅に住むとか、なんかのきっかけになるだろうし、よそから加子母に移り住みたいという情報を持つてる人たちに、情報をあげることができるといいはずなのに、そのこともできないという。そのことが、うまくいってないから、市に要望していこうかと、加子母は加子母の情報を、加



子母にも流したいと。

### ・空き家情報発信について

空き家の話と、市営の話は違って。空き家バンクは定住推進でやっているんだけど、市営住宅は別の課でやってるので、全然違う。今、加子母総合事務所が近い将来5人になるから、総合事務所の機能として、住民サービスだけになる。産業振興とかは、市の方で全て行うことになってしまう。総合事務所の人数については、市が中期的な方針としてうち出しているもの。旧加子母村にあったいろんな施設を民間に移行したり、という作業を進めている。そういう中での一貫で、加子母の中のものも、総合事務所が窓口となって、情報公開したりできたらいいのにといいけど、実はそういう話だった。だったら、NPO やむらきょうとかで、やれないことはないけど、全部の管理まではなかなかできないので、いいとこどりみたいになるので、市にも強くは言えない。ただ、現状は、そういう風なので、なんか、人口を増やしたいとやってるわりには、市に逆行しているので、むらきょうとか市に要望していくしかないのかなと思っている。

### ・空き家の対応について

あと、空き家対策としては、ずっと入れる家がない。状態が悪いうちが多いので、この前、須崎ちゃんが入った家とかは、タイミングがよくって、あんな家は滅多にない。そうすると、貸してもいいよとなった時に、多少、修繕費用がかかってくる、その費用を誰が出すか。持ち主と、借主の間に入って、調整する人が必ずいる。好きにやってもらっていいといたとしてもトラブルの元になりかねないので、そういうトラブルを避けるためには、ちゃんとした、それなりの立場の人が入らないとまずい。須崎ちゃんの時は、僕が間に入ったんだよ。須崎ちゃんの時は、もう一軒中切ってとこで、3月末に開くっていう空き家があった。役場も近いし、最初はそこについていたら、3月末に出ないかんとなった人がいて、家が決まらなかったから、その人が出る家が中切で、空き家になる家も中切だったので、その人も、中切で暮らしたいとなっていたので、内木所長が、それなら、須崎さんより、その人を優先しようとなった。そしたら、たまたま、あの家・・・となって。内木所長が話をしにいったら、ポンポンと話がすすんで、ぜひ借りてくれとなって、その日の午後から片付けを始めた。すぐに入れた。下水も整備されてたし、トイレも、水洗のいいやつになってたし、あんなことは稀。そういううまくいくことはない。前の時も、家主側が、事情があって、それぞれの言い分があって大変だったけど、ましてや、今都会に住んでいて、加子母の事情をわかっていない人だと、こっちは、不動産の資格もないし、ただのボランティアだから、そういう村づくりという意味合いをちゃんと理解してくれる人ならいいけど。それに、お金が絡むと人はなおさらね。そういう家が、これから、増えてくる。

さっきの話に戻るけど、今、空き家を所有して見える人が、あと20年くらいに、亡くなられていく中で、うちは朽ちていくし、ある日突然家が崩れたりすることもあるし。そういう人たちに、加子母でやっている活動を理解してもらえるといいよね。思ったこと言わないと、そういう現状を知らないと思うんだよね。この先考えると、大変なことになるよってことに。そういうのを理解してもらうことが大事かなと。そういうので、いいアイデアない？

### ・今後の空き家対策について

村づくり協議会があって、職員を雇って、村づくり協議会の職員を、総合事務所に置いて、住民の窓口になる機能を持てるかどうか。がちよっと不明なんだよね。村きょうの教育部会の中に、教育協議会とかがあって、一つの部会に過ぎないんだよね。いろんな部門があるもんで、範囲が広過ぎて、一手にできる機能を持っていない。なかなか進まない。やらないかん課題が多すぎる。空き家対策の今できるだろうことは、アンケートとって、今度、まとめる作業をして、結果出るけど、その人たちに、定期的



にコンタクトをとって、当然、その人たちの事情も変わるし、家の状態も変わるので、今は夏に帰ってくるから、売れない貸せないという事情だって、変わってくるかもしれない。そういったものを集約する窓口が、総合事務所になんとかいかんし、総合事務所の職員に担当を持ってもらわないといけない。ましてや、資格のない、自分たちがやる訳にもいけないし、資格を持った人がいる中で、問い合わせに応じる人を作ってもらいたい。その中で、集まった情報を、村きょうのHPを使ったり、口コミもあるかもしれないけど、入りたい人の、橋渡しの作業をしていくことしか今はできないし、アンケートは、きっかけに過ぎないので、どう使うか。

アンケートで出てきたデータをこれから、どう活用していくかは、決まってない。集計データをどう使うかはこれから話していく。回答自体は集まりつつある。まだ全て集まっていないけど、それを年に1回ずつ変わりはないかとかと、封書で出して、変更の回答をもらって、変更があったら、こっちのデータを変えて。という作業を続けていけば、そろそろ自分も歳だしなんとかしたいけど・・・、ちょっと力になってもらえんかという話が出てくるかもしれないけど。今の段階では、ちょっと、警戒していると思う。どういう人たちが、なんのためにやってるかとか。ところが、一軒ずつ話をさせてもらえれば、理解してもらえんかもしれないけど、区長さんとかだと人づてで真意が伝わりにくい。実際、そういう人は多いと思う。ある程度時間かけてやるしかないかなと。お礼の文書をつけて、利用方法を送って、毎年教えて欲しいという文書を送る必要がある。その人たちにとっては財産なので。その、人の領域に土足で踏み入ることもできないし、デリケートな話も多くなってくるので、そこは慎重に。こっちが商売ではなく、ボランティアで、村づくりの一貫でやってるから、やましいこともないし、ちゃんと話をすればわかってもらえると思ってるんだけどね。なかなか、そういうところをやっていくことと、借りた人にどういう風に情報を開示していくかを同時にやっていかなかん。HPで家ありますとかいって、変な話ちょっと・・・って人がきたりするじゃん。そんなこといってたらダメだけどね。できることなら、加子母を好きになってもらって、区の付き合いとかちゃんとしてくれる人に入って欲しい。借りたけど、近所づきあいはしませんという人だと困っちゃうからね。課題はたくさんあるよね。

現状の空き家の場所は、ほぼ特定してある。役場の桂川が管理している。今の段階では、ここまでしかできない。あとは、ココに電話して、貸してとかは言えないので、今後もこのデータを継続して利用していくことしかできない。少子化も茶話会とか保護者会の問題とか色々入ってきて、あの俺的には困っている。今後本当にやって行かないといけないことがぼやけ過ぎてて。なんでかなと思うけど、1、2時間の会合でそんなに話できないからね。毎回みんなくる訳じゃないし。データは、今建物だけだけど、今後は、山林や農地も足していけたらいいと思ってて、今後、農業を加子母でしたい人がいれば、とまとやりたいとか、牛を飼いたいとか、そういう人は、組合に入ってもらって、支援とかを活用して、土地を借りたりしてるけど、できればこういうのとセットで、情報をもらいながら一緒になってやれば、畑は借りられるけど、住むところがないとか。加子母でやってる人は、ここに住んでる人だけ。前に、下呂から、トマトやりたいって来た人は、畑は借りれたけど、住むところがないってなって、僕が少子化のメンバーだったから、小和知で一軒あったうちに掛け合って、貸してもいいよってなった。そういうこともあるから、山とか田畑もほんとはセットの方がいいかな。ちょっと特殊で難しいかもしれないけど、それこそ、田舎暮らしに憧れてる人とかは、家庭菜園をやりたいとか。田んぼ作りたい、米。野菜を作りたいからとか。近い場所に借りれるように、セットじゃないと、セットならなお良いと思っている。これからの課題に、情報を管理して、継続して、書き換えていって、ちゃんと公開して、間に入ってるという作業だね。現在、セットの方というより、家だけが多い。農地だけの人はいない。トマトは加子母に研修にきたり、ということが結構あるので、実際それで、加子母にトマト作りにくる人は結構いる。そういう人は、こういうのを使わないで、総合事務所に直接いって、補助金も絡んでくるので。あとは、トマト組合のネットワーク使って、あのハウス貸してやってくれとか。実際そういう人は結構いる。こういう、ところと連携しながらやっていければ、なおいいなと思う。



**・松屋の展望について**

佐藤正さんがどういう風に思っているかに、かかっているともうけど。あそこの下水とか、すぐに住める状態ではないので、畳だったり、変えないと。木匠塾の学生さんがあそこを使ってみえて、ひと段落ついて、何かに使えるよってことなら、例えば、田舎暮らしの体験、古民家に宿泊体験という施設として、使えればすごくいいなと。なかなかそういう体験をできる場所はないので、うん。整理したりして、田舎暮らしを体験してもらえるといいかなと。佐藤さんに管理してもらおうのが、申し訳ないので、前総合事務所長なので、よくしてくれるけど、さすがに申し訳ないので、例えば、少子化対策委員会とか村きょうが管理をするべきだろうと。今年の木匠の幹事の市川くんに、佐藤邸で出会った。中も色々見たけど、裏の方は、人が住めるようになってる？住めるようにするんだ。補助金が出るんだ。今後も木匠がきてくれるなら、古民家を少し修復してもらったり、活躍してもらえるといいよね。

**・空き家貸し出しの認知**

さっきのアンケートとかの活動によると思う。いきなりそういう人は出てこない。辛抱強く活動して、家主さんに理解をしてもらって、向こうから相談事を、声かけてくれるようになってから、初めてそういう話が出てくる。なんとかしなきゃ行かんと言ったけど、今更加子母にも帰れないし、どうにかならんかと相談を持ちかけられれば、しめしめだと思うけどね。

名前	鎌田 保幸	年齢	49	調査日	2016/12/20
役職	丸山木材工業株式会社 事業部長	調査場所	鈴鈴		

### ・木匠塾にどういう形で関わったか

2012年と2013年の二つだと思う。その次が東側でしょ、との時にはもういないので。ここを最後に、担当工務店を外れたから。でも、相談は受けたけどね。前段階で教えている。くるのは8月でしょ、設計の段階で、年度始まるか、始まらないくらいで、施主さんの希望があって、で、この大学がどの担当で、このお客さんがくるよってのが春先に決まるの。だから、京大はずっとこれをやると決まっていたみたいだけど、その春頃から、今年はどこやりたいとか手のは決まってる、という風にやるのか、設計図書いて、やってたり。全く何もないところから始めるから、そういう風にしてのを決める。やる箇所については、学生側からの提案だったと思う。俺がここをやれということにはなかった。持ち主の佐藤さんが、こうやってくれといったこともないと思う。彼の方は、自由にやってくれて。他にもボロボロのところはいっぱいあったけどね。まずは、ここだと、学生さんから提案があったと思うよ。幹部会の3月末くらいから来始めて、毎月くるもんだから、担当工務店のところに挨拶にいったりして、あと、図面できましたけど、どうですかだったり、顔見せから始まる。でも、だいたいメールのやりとりが結構多かったと思う。なかなか、幹部会に来ても会えずに帰っていったりもするから、毎回会えるわけじゃない。週末に来ていた、大学同士のすり合わせ、役所とのすり合わせはそこでやっていたと思う。必要に応じてやっていた。当時はそんなやり方。

### ・関わったきっかけ

結局は、加子母木匠塾の趣旨が、将来建築をやっていく、有名どころの大学の人に、大学では、木造を学ばないから、そういうところに来て、現場で地元の大工さんとか工務店と触れ合ってもらって、木を使うことを覚えて帰って欲しいということがよね。いずれは、大手に就職するかもしれないけど、こういうところに木を使えるといいなと思ってもらって、山の木を使ってもらって。加子母なんかは、山林だから、その山が荒廃して生かされなくなって来てるから、木を使ってもらいたいという一心で、木を使う建築を覚えて帰ってもらいたいということに尽きる。実際、加子母の工務店に大学を割り振って、手放しではできないから、担当つけてやろうよとなっている。指導する立場で。それが、加子母木匠塾の始まりだと思うよ。一番はじめは、知らないけどね。

### ・担当した時について

会社の中で、また担当がいるんだけど、割と僕が多かった。中島工務店になったのは、もともと、京大が、たつきが最初にやっていたけど、佐藤邸になってからは、京大がずっとやっていて、佐藤さんの希望だったかもしれない。伝統工法でやるとか、そういうところまで、しっかりやっていたので、ここへくる前の、人を見て、京大ならいいかもしれないと思ったのかもしれない。施主の要望もあり、あと担当工務店のお前が見てくれるなら、ちょうどいいと言われた。それで、実現したというところがある。その前の、木匠塾は、藤棚を作るとか、一般のお客さんが入って、仕事はどこの大学がやるか決まって、担当工務店が決まる感じだった。そういうスタンスだった。基本的には、毎年、物件がいくつかあって、大学に見せて、どこがやりたいかを決めていた。この大学はどこが見てという固定だったと思う。松屋になってから、担当工務店が変わって、中島工務店になった。特に、固定はないと思う。あちこち結構大学変わったりしていたよ。何年か携わっているの。



### ・木匠塾は元々知っていたか

子供が保育園の頃に、今は20になったけど、保育園のバス停を、東洋大学が担当で、施主の立場で携わった。

### ・関わる頻度について

できる限り、現場に行く。毎日くらいは顔を出していた。少なくとも2、3日に一回は。あと、呼ばれていくときもあるし。専門業者さんも、いたから、板金屋さんは、下呂の萩原まで連れてって、工場加工も一緒にやったこともあった。ほとんどやってもらう感じではあったけど。平日もやっているけど、仕事は抜けて、現場に行っていた。それは、会社からの命なので、それも仕事のうちとして。

### ・問題点について

昔は、10年とか前は、遊具とかオブジェを作っていた。せっかくやるなら建物を作るうよって言った覚えがある。それは、続いていたから、嬉しく思う。ちゃんと施主がいて、建築的に、柱とか梁とかを覚えて欲しくて、それは、閉校式で学生に言った気がする。今は、いいながれで、建築的なものが作れていると思う。村の人も、学生が夏にきて、適当に作って、のちに腐って終わりみたいな風潮があったから。それを、建築的に要望してもらってできた方が、村との一体感ができるしいいと思う。遊具も怪我をすることがあったりしたから。指導が行き届いていない部分があったりする。伝統構法だとビスを使わないとかのルールがあったりするけど、その線引きは難しい。工法へ指導は難しい。去年作った、小郷の檜を、東洋大学が作った。木組みでやるように、指導したらしい。どうせやるなら、勉強できるように。解体しましたって頃に、来たから、はじめの状態を見ていないんだ。本当に大変だった。基礎がダメで、土間コン打ったところに、コンクリを打ったけど、角度が取れなくて、苦労した。工程表作っても工期内に終わらないこともあった。次の幹事会の時にきてやりますってことがよくあった。現場でできる作業は限られてくるから、できるだけコンパクトにするようにしている。

### ・仕事として空き家改修はあるか

現実的な改修が多いかな。お年寄りの家で、寝室がうるさいから、台所と、寝室を入れ替えてってことがあった。減築することも、仕事ではある。40年くらい前の基礎がある家。水回りを新しくするとか。加子母の工務店さんでも、伝統工法を残せる人は少ない。志が追いついていないところがある。勉強もしていないという風潮もある。田舎だならもっとやっていく必要はある。受け継ぐ前に、上の人たちはなくなってしまうから。古い家があるなら、明治座みたいに、古いものを直して改修して、耐震性を戻してやる。それがお金かからないで、できるといいな。お金かかるなら、壊して、小さい家を立て直してやるうってする人もいるけど。壊すのは、簡単。これくらいのお金で、古い家を直せるという理解が一般の人にはわからない。新築でもいいけど、地元の材を使おうとか。伝統工法でやりきるってことを、どっかでやりたいな。お金がないと、できないし、考えてる間に、できる人がいなくなってしまう。加子母の空き家をどうやって直していくのかってことだね。



取り扱い注意

空き家地図 (平成29年1月25日作成)



●: (A) 入居者・用途決定済 ○: (B) 貸付・転売可 ×: (C) 貸付・転売不可 △: (D) 意向不明